

科目名	宗教学の人間学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 必修	
担当教員	福島 寛太郎			
開講期	後期			
授業概要	宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では宗教学のそうした諸課題を紹介し、とくに人間学としての宗教学の流れに注目したい。今年はさしあたり「宗教から見た人間」について考えてみることになる。人間とは何か。宗教学の観点からの諸々の思索を紹介してみたい。			
達成目標	「到達目標」☑ ・宗教学的”ものの見方”を理解する。☑ ・宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。☑ ・紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解すること。☑ 単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」☑ DPとの関係: 問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	家政学部人間生活学科 1年	成績評価 方法	試験成績（60点）出席状況（60％以上）・授業への理解度8割、合 とする。	
教科書	特に指定しないが、必要に応じて、プリントを配布する予定。			
参考書	岸本英夫『宗教学』、大明堂出版。『生活禅のすすめ』、山喜房佛書林出版。いずれも本学付属図書館に所蔵がある。			
学生への要望	・授業に積極的に参加すること。☑ ・ノートをこまめにとること。			
オフィスタイム	火曜日以外、毎日の昼休みが対応可能。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	宗教の分類	宗教にはいろいろなタイプのものがある。宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。☑	初回に当たり、とくになし	1.5
2	神中心の宗教	神に視点をおいてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神の宗教と無神の宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
3	人間主義的宗教	人間に視点をおいてみると、宗教の中には、人間中心のものがあ、いわゆる権威主義的宗教と人間☑主義的宗教がそれである。☑	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
4	神秘主義的宗教と預言者的宗教	東洋の禅仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の予言者の宗教を取り上げて分析する。☑	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
5	汎神の宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。アニミズムの理論に着目し、自然観をも考えてみたい。☑	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。☑	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。☑ ☑	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
9	幸福観	幸せとは何か。幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリアーデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。☑	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
11	救済の原理と価値観の転倒	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。☑	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。☑	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
13	宗教的人間（1）	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	宗教的人間（2）	前回に続き、「宗教的人間」の問題を考え、全体的な総括を行う。	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。☒ ☒	ノートを読み返し、内容を理解すること	1.5
16	期末試験	期末試験を行う		0

科目名	哲学的人間学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	関川 悦雄		
開講期	後期		
授業概要	本授業のねらいは、前期で哲学的人間論を講義したので それを基礎にしてさらに思想的思索を深めて行くことにあります。前期では、歴史上の哲学者が人間をどうとらえたか、たとえば「人間は考える葦」（パスカル）とか、人間は知性的に行動するとか、人間は自由意志をもつ等などを取り上げました。本講義は、前期における「人間の理解」を基礎にして、さらに人間の尊厳と倫理的課題を追究し、そしてボルノ－の著書を基にして、哲学的人間学の学的内容を解明することを中心に進めて行きます。なお、この講義専用のノートを用意して、それに講義内容を予習・復習の形で記述して貰いますが、それに対するフィードバック（評価）は行います。位置づけ・水準はHL2102です。		
達成目標	1 受講者は人間の尊厳と倫理的課題の8割を理解し、まとめることができること。☑ 2 受講者はボルノ－の考え・思想の下にあって「人間をどうとらえたか」という人間像を把握できること。☑ 3 受講者はボルノ－思想に関する講義を聴いて自身の「人間としての生き方やあり方」を述べることでできること。この3つによって、「知識・理解」が深められ、「倫理観・社会的責任」が培われることが期待できる。☑		
受講資格	特になし	成績評価 方法	毎回、ワーク・シートを活用し、ゼミ形式で発表する方法の中で評価する。評価内容は、事前調べ・自作ノートの作成、発表、討議などで、評価は20点とする。この評価を含めて、学期末でまとめ作成の80点とし、合計で100点とする。
教科書	ボルノ－著/峰島旭雄訳『実存哲学と教育学』（理想社、1966年、再版もあり）。この著書は学内の図書館にある。葛生栄二郎他共著『新・いのちの法と倫理』（改訂版、法律文化社、2017年9月を使用するが、この本は当方でコピー物で用意する。		
参考書	特になし		
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。この講義専用のノートを用意すること。		
オフィスタイム	水曜Ⅲ限（12:50～14:20）；同曜Ⅳ限（14:30～16:00）。教職課程推進室内の関川研究室（家政学館4階）。随時、時間のあるときにも相談に応じるので、下記のメール・アドレスで事前のアポをとること。e.sekikawa@koriyama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス	授業の進め方やワークシートの活用と自作ノートの作成、成績評価の付け方、班別討議の仕方などを説明する。少人数の受講者数の場合は、ゼミ形式（事前調べ・発表・質疑応答の一連の流れ）をとります。いずれにするかは、受講者の皆さんと相談の上、決定する。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
2	人間の尊厳と人権尊重・福祉理念	人間としての尊厳の考え方とその習得、人権思想・福祉理念の歴史の変遷とその意義、人権尊重・権利擁護の考え方とその習得。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
3	自立の概念	人間にとっての自立の意味、人間尊重の主体的保持、介護を要する人における自己決定の考え方とその理解。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
4	ボルノーの人物とその哲学	ボルノーという人物の紹介、教育学における人間学的見方。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
5	ディルタイの生の哲学と教育学	ディルタイの生涯と思想、ディルタイの哲学と教育学、ディルタイの思想と位置。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
6	ボルノーの実存哲学と教育学	序論－出発点としての実存哲学、二つの根本的な教育観、教育における非連続的形式の可能性。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
7	ボルノーにおける非連続的事象（1）	危機（1）－身体的・精神的発達における非連続的事象、危機の本質はなにか、病気における危機。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
8	ボルノーにおける非連続的事象（2）	危機（2）－道徳的危機、生における危機の位置、危機にたいする教育学態度。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
9	ボルノーにおける非連続的事象（3）	覚醒－教育学的概念としての覚醒、肉体的・感覚的事象、覚醒の教育学側面。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
10	ボルノーにおける非連続的事象（4）	助言－生活における助言の役割、助言と決断、教育としての助言	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
11	ボルノーにおける非連続的事象（5）	出会い（1）－出会いの概念（出会い、あたらしい出会い概念の二つの段階、二つの出会い概念の相連、出会いの実存的概念）。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
12	ボルノーにおける非連続的事象（6）	出会い（2）－出会いの実存的概念、出会い概念の拡張、出会いの精神科学的概念。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
13	ボルノーにおける非連続的事象（7）	出会い（3）－教育学上の問題としての出会い（出会いと陶冶との対立、出会いと陶冶との補助関係、教師との出会い）。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40
14	ボルノーにおける非連続的事象（8）	教育における冒険と挫折－教育の本質的契機としての冒険、試行・賭け・冒険、教育への転用、挫折。	予習・復習；自作ノートへの整理・記述	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	授業のまとめ	倫理やボルノー思想の学習を通して何を学んだかをまとめる。自作ノートに対する評価を行う。	予習・復習；自作ノートのチェック	40

科目名	人間発達学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	佐藤 久美			
開講期	前期			
授業概要	人は生涯にわたって発達を続けます。成人後も老年期も、人間として成長し、円熟し、次の世代を育てて、いのちのバトンをつないでいきます。また、子どもの成長と発達、様々な発見と驚きに満ちた、奥深い世界です。この授業では、発達心理学の基本的な知識を学ぶと同時に、最新の話題と情報を取り入れながら、人間の発達と成長について考えていきます。担当教員の医療・福祉分野における心理臨床の実務経験を活かし、訓練用構成事例や視聴覚教材を駆使して、子どもや大人の姿が目に見えようように伝えます。☑ 授業は毎回、双方向型対話形式を活用しながら進めていきますので、活発な質問や意見を歓迎します。ディスカッションやグループワークも行いますので、学んだことや感じたことを多し語り合ってください。☑ レポート提出（あるいは試験実施）後は、添削やコメントを各学生にフィードバックします。☑ 位置づけ・水準 HL2203☑ 担当教員の実務経験経歴：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。			
達成目標	【達成目標】☑ ①エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェなど、主要な発達理論を理解する。☑ ②子どもの成長の過程（身体、運動機能、認知、感情、知能、精神）を理解する。☑ ③愛着理論や母子関係の理論、子ども虐待、愛着障害など重要な概念を理解し、専門用語を正しく使うことができる。☑ 単位認定の最低基準：上記の内容について、7割を理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任			
受講資格	人間生活学科 2年生☑ （生活総合コースは必修）	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80％）☑ 発言内容・受講態度、普段のレポート（20％）	
教科書	授業でレジュメや資料を配布する。			
参考書	テーマ別に授業で紹介する。			
学生への要望	授業では、理解を深め、身近なものとして感じることでできるよう、できるだけグループ討論や・ワークやディスカッションを多く取り入れたいと思います。積極的に参加して、おおいに意見を交わしてください。			
オフィスタイム	水曜Ⅳ限、木曜Ⅰ限、No.2(臨床心理学)研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法などについて。☑ 発達心理学とは何か。	次回授業内容（発達理論）について、参考書等にあたり、キーワードを調べておく。	30
2	発達理論	代表的な理論家たち（フロイト、ハヴィガースト、エリクソン等）の発達理論を紹介します。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	子どもの発達Ⅰ	発達心理学のはじまり、昔の「子ども観」、発達の評価、遺伝か環境か。☑ 赤ちゃんの力。生理的早産、視覚・聴覚・嗅覚、原始反射、新生児模倣、言葉の準備などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	子どもの発達Ⅰ 乳児期（0～1歳）	はいはいから歩行へ。言葉の獲得。睡眠の変化。嘔む力と離乳食など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	子どもの発達Ⅱ 幼児期（2～3歳）の発達	自我のめざめと反抗期。言葉の発達。認識の広がりと「ごっこ」遊びなど。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	子どもの発達Ⅲ 幼児期（4～5歳）の発達	子どもの思考能力（ピアジェ）、自己中心性、子どもの描く絵、言葉と文法、ルールの学習など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	子どもの発達Ⅳ 児童期の発達	ギャングエイジ、兄弟の影響、知能検査、やる気を育てる、同調圧力、いじめなどについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	子どもの発達Ⅳ 子どもの道徳性の発達	コールバーグ、ギリガン、バンデュエラの理論、反抗期「恐怖の2歳児」、こころの理論などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	青年期・成人期・高齢期の発達	アイデンティティの獲得、モラトリウム、青年期の心理的危機と精神疾患。☑ 人生のパートナーを探す、次世代を育成する、人生を振り返る、などについて。☑	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	愛着理論Ⅰ 愛着と基本的信頼	ボウルビイの愛着理論、エインスワースの安全基地、神経ネットワークの発達からみる愛着の形成など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	愛着理論Ⅱ 愛着と共感する力	愛情ホルモンの機能と役割、物マネ神経細胞の発見、共感する力や想像力はどのように育まれるのか、など。☒	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
12	愛着障害と虐待	反応性愛着障害、虐待された子ども、親の養育を支援する、などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
13	ネグレクトの影響	ネグレクトの種類、感受期、言葉の獲得、「犬に育てられた少年」を取り上げます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
14	発達のおまづき	発達障害とは、アスペルガー障害（事例）、支援の方法、サヴァン症候群などについて	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
15	まとめと補足	まとめ、補足説明、掘り下げ討論など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念を復習してよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

科目名	家政学原論Ⅰ		対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員	影山 彌,深谷 笑子,安田 純子			
開講期	前期			
授業概要	本講義は家政学の学問的基礎を確立するために、家政学を哲学的に究明し、家政哲学を樹立した。このことは、家族生活並びに個人の生活、即ち家政学の拠り所となる家政学原論を成立させる。従ってその重要性を捉え、家政学の本質を敷衍する。よって、この本質的視点より人々の生活の安定性へ寄与することを意図し且つ生活への還元を図る。☑ 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑ ☑ 位置づけ・水準 HL 2 3 1 2			
達成目標	【履修カルテの評価項目】☑ ①家政学の定義が理解できたか。☑ ②家政学における空間性・時間性についてどのくらい理解できたか。☑ ③「住むとはどんなことか」について理解できたか。☑ ☑ ・単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。☑ ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理観・社会的責任			
受講資格	人間生活学科2年生☑ 食物栄養学科 2年生		成績評価 方法	受講態度（10％）、テスト（90％）
教科書	関口富左編『家政哲学』家政教育社			
参考書	関口富左編『人間守護の家政学』家政教育社 この参考書は 図書館にありますので、読んでください。			
学生への要望	予習、復習更に疑義等の解明について討議できるように種々の疑問点をす提起すること。			
オフィスタイム	水曜日14:30～16:30,金曜日13:00～14:30 ☑ 創学館 4 階No.1研究室☑ （＊影山先生一月曜日12:00～12：40創学館 4 階No. 2 研究室）☑ （＊深谷先生一月曜日12:00～12：40教務部）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	家政から家政学 へ	家政学原論とは何か、家政学概論とは何か、原論と概論の違いについて意味内容の違いについて学びます。☑ 家政から家政学への歴史について学び、また、日本の大学で家政学部から名称変更になった大学とその理由について話します。☑ 本学の家政哲学研究の歩みと東北北海道地区の家政学原論開講状況について話します。	講義資料について復習する。	60
2	家政学の定義	先学者の定義の比較と意味内容の検討をします。☑ 日本家政学会の定義、黒川喜太郎氏、松平友子氏、小池行松氏、中原賢次氏、林太郎氏、山本キク氏、林太郎氏、野口サキ氏、原田一氏の家政学の定義と関口富左氏の定義を比較します。そこから関口富左氏の定義は、個人や家族に視点があてられていること、また家政学は人間守護の学、という家政学の中心概念について理解します。	講義資料について予習・復習する。	60
3	家庭生活と人間	文学作品、森鷗外『半日』における家庭を読み、主人公は家庭に何を望んでいるか、また家庭を存続させるには家庭には何が必要か、家族の役割をを学びます。また夏目漱石『道草』における家庭を読み、その文学作品から、主人公は家庭に何を望んでいるか、また子どもは家庭に何をのぞみ、子どもが育つためには何が必要かを学びます。	講義資料について予習・復習する。	60
4	ボルノーの被護性と本家政学における「人間守護」	本学家政学が、ボルノー哲学を拠り所として捉えた理由と、家政行為・技術の実態の内容の本質的意味について学びます。人間の生活の基本である住むことの哲学から、人間のよりどころとなる家庭や家族の本質を学び私たちの生活から人間を守護する方法を理解します。	講義資料について予習・復習する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	ボルノーの住むことの意味について	ボルノーの住むことの意味について、「住むとは、世界のすべての道がそこから出。またそこに帰ってくるような一定の場所に属しており、そこから自分の世界を作り上げるといことで、簡単に言えば居住地と呼ぶ。この居住地は秩序ある世界の中心であり、人間が住むことのできる限りにおいてのみ、人間の世界は一つの中心とともに整理され多秩序をもつものである」という言葉から住むこととは何かを具体的に学びます。	講義資料について予習・復習する。	60
6	家政学と人間所在一居住空間の分析一	人間の体験的生活空間を「内部空間」と「外部空間」との二層に区切っている。内部空間は人間がそこへ帰り、その中で自分が安全だと観ずることができる休息と平和の空間であること、すなわち守護空間です。外部空間は労働と仕事の空間で敵意に満ちた緊張の中の空間であることを理解します。また、人間生活の健全さはこの、2つの領域の均衡が正しく保たれていることにかかっているというボルノーの言の意味について、実例をもって理解します。	講義資料について予習・復習する。	60
7	家政学と人間所在 一時間的 分析と日常一	生活とは一つの空間を所有することであるが、それと同時に、時間の経過の中に身を置くことでもあります。人間存在における時間性的問題。主観・客観による時間の変化と日常生活の在り方を学びます。くつろいでいる時の時間は、可逆可能な時間、例えば回想・追憶・反省等々と時間をもどしたり、また静止させたりするなど自由な広がりを持つことができます。また、喜びに満たされている時の短いと感じる時間、苦痛を強いられている時の長いと感じる時間があり、これらの時間は主観的時間と言われます。他方、時計で計られる物理的な時間は客観的な時間で言い表すことについて理解します。	講義資料について予習・復習する。	60
8	家政学の独自性 一 二相性の 解明 一 、 家政学の研究方 法論につい	個人と家族、合理と非合理、内部空間と外部空間空間、主観的時間と客観的時間等々観点より捉え、これを実生活上より分析し、さらにその解明による実態確認をします。 ☒	講義資料について予習・復習する。	60
9	現代の科学の動向	19世紀後半、イギリスで誕生した新しい科学の特色、概要について講じます。	講義資料について予習・復習する。	60
10	現代の科学に対する警告	個別化、高度化を進めてきた、科学に対する科学者自身による反省と警告について解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60
11	本学家政学のパラダイム（1）	本学家政学のパラダイムの概要を説明し、特に本学家政学の理念である「人間守護」について解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60
12	本学家政学のパラダイム（2）	本学家政学の対象及び対象空間について説明をします。	講義資料について予習・復習する。	60
13	本学家政学のパラダイム（3）	本家政学の方法論について説明をします。	講義資料について予習・復習する。	60
14	本学家政学の政策論（1）	本家政学における政策論として、シビル・ミニマムの思想について解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60
15	本学家政学の政策論（2）	シビル・ミニマムの内容が生活の充実を実現する条件であることを解説をします。	講義資料について予習・復習する。	60

科目名	家政学原論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択	
担当教員	安田 純子			
開講期	後期			
授業概要	家政学原論（Principles Home Economics）は、家政学の領域において根本・基礎を学び、家政学関連科目における専門の各論の土台となる科目です。☑ 家政学原論Ⅰでは、家政学の基礎として、その意味や目的・経緯と先達からの学びなどについて学びます。そして学問としてのあり方を研究し、「家政学とは何か」について考えていきます。家政学の歴史や発展、家政学の研究の目的・対象、研究の原理を学び、次いで家政学の理論を学びます。☑ 本授業では、人間を大切に考え、健全な（家庭）生活を求め、人間生活を総合的に捉え、生活上の課題に対する解決策をも考える家政学への誘いをし、専門的研究への道づけも目指します。☑ 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑ ☑ 位置づけ・水準 HL2211			
達成目標	目標は☑ ①家政学の発祥と展開について、女性の生きる姿勢や勇気を学び、女性の教養観の葛藤や、その苦労や活躍を理解し、家政学の下地の理解につなげることができたか。☑ ②家政学の構造について問題を整理し理解できたか。☑ ③今日の（家庭）生活について見つめ直し、人間生活の真の豊かさとは何か、人間の成長にとって家庭の意義とは何かについて問題意識を深めることができたか。☑ ☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力・創造的思考力			
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース 2年 ☑ 2単位 必修☑ 家政学部人間生活学科福祉コース 2年 2単位☑ 必修☑ 家政学部人間生活学科建築デザインコース☑ 2年 2単位 必修☑ 家政学部 食物栄養学科2年 2単位 必修	成績評価 方法	試験60％、レポートは40％	
教科書	日本家政学会 家政学原論部会編「やさしい家政学原論」建帛社 （授業の準備や参照に使用する）			
参考書	関口富左編著「家政哲学」家政教育社 他授業中に参考書や資料名を挙げる。図書館にて参照。			
学生への要望	学問的要望☑ 授業は暗記ではない。考察できる力を養う。したがって、課題などに対して、図書館やインターネット等で調べ、常に今日的な社会的課題についての問題意識をもって自主的に考察を深めて欲しい。☑ 日常的要望（守るべきこと）☑ 授業態度については、学生としての本分を貫き、飲食等の行為、スマホを離さない態度、隣人とおしゃべりなどは厳禁であり、授業に集中すること。レポートは指定された日程を守り提出すること。			
オフィスタイム	月曜日と木曜日の13:00~16:30☑ 場所は、創学館N 0. 1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 家政学への接近	・本科目の構成と進め方☑ ・その他の説明、受講生の確認☑ ・授業への導入☑ 家政学とはどういう学問か☑	はじめての学問であり、基軸となる学問なので、授業の内容把握の復習をする。	30
2	家政学原論とは何か	1 家政学を知ること ☑ 家政学とは何か 家政+学☑ 原論とは何か☑ 2 家政学における原論の意味と必要性	テキストのp.83～p.90 p.91～p.98に目を通す。（読み込む必要はない。）☑ 復習をする。	60
3	家政学入門 1 家政学の目的・対象・方法、定義	1 家政学の目的・対象・方法☑ 2 家政学の定義☑	テキストのp.10～p.18の2.3.4.5.(授業内容に関連した項目)を読む。☑ 復習をする。☑ 定義の確認	60
4	家政学入門 2 家政学の領域と独自性	1 家政学の領域☑ 2 家政学の独自性	テキストのp.10～p.18の6.7.8.(授業内容に関連した項目)を読む。復習をする。	60
5	家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程①)	1 家政学発祥の経緯☑ 2 家政学の変遷☑ ☑	テキストのp.1ならびに第4章に目を通す。☑ 復習をする。	60
6	家政学発祥の経緯と変遷(家政学の展開過程②)	家政学の変遷（胎動期から現在）☑	テキストの第4章を読む。復習をする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	学問研究と研究者たちの姿勢	学問研究と研究者たちの姿勢☑ 先達から何を学ぶか☑ （１）松島千代野先生☑ （２）亀高京子先生☑ *（３）関口富左先生☑ ☑	本学の創始者である、故関口富左名誉学園長について、御著書「家政哲学」などをもとに調べる。☑ 復習をする。	60
8	人間・福祉・自然を護る家政学	1 人間・福祉・自然を護る家政学☑ （１）人間を護る家政学☑ （２）福祉を護る家政学☑ （３）自然を護る家政学☑	復習をする。☑ 新聞などから生活に関する身近な諸問題を考える。	60
9	生活の学としての家政学	1 生活とは一生活のとらえ方☑ （１）人はなぜ着るのかー衣服がもつ意味☑ （２）なぜ食べるのかー食物がもつ意味☑ （３）なぜ住むのかー住まいがもつ意味（住むということ）	テキストp.50~p.56とp.83~p.90に目を通す。（読み込まなくともよい。）☑ 復習をする。☑ 課題レポートのテーマについて考え始める。	60
10	家族と生活（１）	1 家族とは何か☑ （１）家政学がみる家族☑ 2 家族の起源☑ （１）家族の基本的概念☑	テキストp.66~p.82に目を通す。（読み込まなくともよい。）☑ 復習をする。☑	60
11	家族と生活（２）	1 日本社会における家族の変遷と諸問題☑ （１）核家族の進行と少子化☑ （２）家族構成の変化と高齢者世帯の増加☑ （３）出生数の低下の問題☑ （４）家庭における今日の不安定要因☑ ☑	テキストp.66~p.82に目を通す。（読み込まなくともよい。）☑ 復習をする。☑ 課題レポートに取り掛かる。	60
12	家庭生活と社会生活（１）	1 生活のバランス☑ （１）ライフコースの多様化☑ （２）働くということ☑ （３）家庭内の仕事（家事）と社会的労働☑	ライフコースについて簡単に調べる。☑ 復習をしながら自分の将来について考える。☑ 課題レポート作成（途中）	60
13	家庭生活と社会生活（２）	1 ワーク・ライフ・バランス☑ （１）「仕事と生活の調和憲章」2007年 ☑ 2 仕事と家庭経営☑ （１）時間と空間☑ （２）経済的自立☑ （３）健康で豊かな生活（豊かさとは）☑ （４）多様な生き方・働き方	ワーク・ライフ・バランスについて調べる。☑ 復習をしながら自分の生活について展望する。☑ 課題レポート作成（途中）☑	60
14	家政学のこれから（１）	1 諸問題☑ （１）家事の外部化の問題☑ ・家庭における既製品利用の拡大と危険性について☑ （２）利便性と効率性に振り回される生活スタイル☑ 2 社会貢献・復興と家政学 ☑ 3 確認テストに向けての復習☑	テキスト第6章に目を通す（読み込まなくともよい）☑ 復習をする。☑ 課題レポートを仕上げる。	90
15	家政学のこれから（２）	1 sustainability(持続可能性)と家政学☑ 2 人間守護☑ 人間が生きているということ☑ 家政哲学へ☑ 3 全体のまとめ☑ 4 確認テストと解説☑	総復習をする。	120

科目名	家族関係学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択	
担当教員	知野 愛			
開講期	前期			
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を家族社会的視点から考察する。レポートを提出しそれに対してコメントをつけて返却しフィードバックを行う。☑ 位置付け・水準:HL2414, FN2403			
達成目標	達成目標は、8割以上の理解度をもってレポートを提出すること。☑ 単位認定の最低基準:内容の8割を理解していること。ディプロマ・ポリシーとの関係:HL 知識・理解、倫理観、社会的責任。FN 社会貢献、意識と責任感			
受講資格	人間生活学科(HL)・食物栄養学科(FN)4年生、文化学専攻科1年生他		成績評価 方法	レポート(80点)、授業提出物(20点)
教科書	特に指定しない			
参考書	木下謙治監修『家族社会学 基礎と応用』九州大学出版会 2019年他			
学生への要望	興味をもったキーワードを適宜検索などして調べることを勧める。			
オフィスタイム	(前期)水曜Ⅱ限、金曜Ⅱ限、(場所)地域創成学科研究室No.1(芸術館1階)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について社会的視点から考察する。	復習:関連資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回のテーマを検索し書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
2	家族とは何か	人間と家族、家族と世帯、家族構成、家族の変容について社会的視点から考察する。。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
3	家族の変動	家族変動論、産業化と家族変動の諸側面、家族変動の行方について社会的視点から考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
4	配偶者選択と結婚	配偶者の選択、結婚成立への過程、結婚について、社会的視点から考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
5	夫婦関係	夫婦関係に対する社会的視点、「家」制度と夫婦関係、近代家族と夫婦関係、夫婦の瀬戸関係と情緒関係、現代の夫婦関係について考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
6	親子関係	社会学から見た親子関係、家族周期と親子関係、ひとり親世帯・ステップファミリー、事実婚における親子関係について、社会的に考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
7	高齢者と家族	現代社会における高齢者、高齢者の家族構成、高齢者と家族の関係性、老親扶養と家族関係、老いと高齢者と家族をめぐって社会的に考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
8	結婚の多様化と家族	近代的な結婚、日本における近代的な結婚規範、企業社会と結婚、多様な結婚に向けて、社会的に考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
9	生殖補助医療と家族	生殖補助医療とは、諸問題、日本での状況、生殖補助医療をめぐる裁判事例他について社会的に考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
10	少子化と子育て環境	日本の少子化の状況、第二の少子化期の社会的動向、国の少子化対策、少子化の要因とその背景、「子ども・子育て支援新制度」と子育て環境の整備。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
11	青少年問題と家族	青少年の定義と最近の若者たち、青少年問題としての非行、非行少年と家族、青少年問題からみた現代家族、現在の状況と今後の課題について考える。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	高齢者介護の諸問題	高齢者介護の動向と家族の抱える諸問題、高齢者介護に対する家族社会学の問題関心、家族政策と高齢者介護、高齢期における配偶者喪失と家族について、社会学的視点から考察する。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
13	虐待と家族	虐待とは何か、家族間の暴力虐待はなぜ起こるのか、虐待の背景と被虐待者・児が抱える諸問題などを社会学的視点から考える。	復習:関連する新聞記事を切り抜き保管し、資料を読むなど自発的に学ぶ。予習:次回テーマについて検索し関連書籍を読むなど自発的に学ぶ。	60
14	レポート作成	授業で扱ったテーマの中から1つを選んでレポートを作成する。授業支援システムmocaに期限までに提出する。	復習:これまでの新聞記事切り抜きや、関連資料の情報などをレポートに取り入れる。 予習:関連書籍を読み更に理解を深める。	60
15	レポート講評・フィードバック	レポートの講評をする。提出レポートにコメントをつけてフィードバックする。	復習:レポートの内容を振り返る。関心を持った事柄に関する書籍を読む。	60

科目名	生活経営学Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	大泉 由美			
開講期	前期			
授業概要	本授業では、人と物の関わりにおいて、人間を中心とし、人間の生活を護り、一層向上させるため様々な分野の学問研究をも駆使し、健全な生活を築くために多面的な考え方を学ぶ。☑「人間守護」の理念に基づく家庭（内部空間）と社会（外部空間）の調和ある生活は、価値観の多様化傾向が時間の経過とともに広がる現代社会には不可欠な課題である。そこで、生活経営の基本的要因である「人・物・財貨（金）・時間」を中心に家庭・社会の両空間の調和ある望ましい生活経営の在り方を考える。また、☑立高等学校での家庭科教員としての勤務経験を活かし、家庭科の授業で家族・家庭、消費生活分野における学校教育での意味と重要性、指導上の留意点などを踏まえながら理解を図るとともに、意見交換やプレゼンテーションも取り入れ、主体的な学びとして探究心を養いながら教員養成の一助として資質向上に資する。 ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 HL 2 2 1 5			
達成目標	単位認定の最低水準は内容の7割を理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力☑ ☑ 【履修カルテ】 ①内部空間と外部空間が密接不離であることが理解できる。☑ ②私たちは、組織の中にいることが理解できる。☑ ③家庭経済の仕組みが理解できる。			
受講資格	人間生活学科 2年生以上 職履修学生は必修	教	成績評価 方法	試験期間中に試験を実施（60％） 課題への取り組み・発表（40％）
教科書	必要に応じて資料を配付する。			
参考書	『新しい生活経営学』関口富左・関口修共著家政教育社出版 『家政哲学』関口富左編著 家政教育社 組織の中の人間行動』三村敏子他著 有斐閣 『人間と空間』O.Fボルノー著 大塚恵一訳 せりか書房 ☑ その他適宜授業中に紹介する。			
学生への要望	・新聞やニュースなどで情報を収集を収取しながら、社会の状況に興味・関心を持ってください。☑ ・多くの生活体験を通し、「よりよい生活」実現のために行動できるよう、積極的に授業に臨むんでください。			
オフィスタイム	月曜日Ⅳ限・火曜日Ⅱ限☑（創学館4階No.3研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 担当：深谷、大泉	・授業の概要と進め方の説明	シラバスを読んでおくこと。「生活」と「経営」の言葉の意味を調べておくこと。	30
2	人間の生活する空間	・ニュースの発表 ☒ ・人間が生活するためには家庭(内部空間)と社会(外部空間)は密接不離な関係にあること、両者の関係が如何に重要な関係にあるかを理解するとともに、両者の均衡を保つために必要なことは何かを意見交換する。	講義資料の予習をしておくこと。講義内容の復習をする。	60
3	組織体①	・ニュースの発表 ・組織体とは何か。歴史的経過を踏まえ理解する。 ☒	組織とは何かについて予め調べておくこと。 講義内容の復習をする。	60
4	組織体②	・ニュースの発表 ☒ ・組織体の管理・運営方法、その基本的な要因を内部空間の健全なる発展に活用することを前提として、組織体の管理・運営を学び、併せて外部空間の組織的構成についてもその意義を考える。	一般企業や学校等の組織図を調べておくこと。講義資料の復習をする。	60
5	組織体③ ☒	・ニュースの発表。 ・組織体の管理・運営の方法を具体的に学習し、生活への活用について理解を深める。 ☒	組織に関するニュースを調べておくこと。第2～5回まで講義内容の理解度を確認するためレポートを提出する。	60
6	計画	・ニュースの発表 ・計画とは何かを具体的に知ることは家庭（内部空間）の安定確保と更なる発展を図るためにも不可欠である。 ☒ 画の基本的な内容(意義)について学び、計画の中には長期計画と短期計画があることを理解する。 ☒	計画と予定の違いを調べておくこと。講義内容の復習をする。	60
7	計画の限界	・ニュースの発表 ・ここでは計画の限界を知り、如何にして計画を是正するかを考えると共に計画を内部空間の管理・運営に活用するかについて意見交換をおこなう。	なぜ情報を持っていることが大切なのかを考えておくこと。講義内容の復習をする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	統制	・ ニュースの発表 ・ 人間は常に何らかの自己統制(管理)を行い周囲の人々との調和を図りつつ生活をしているが、組織体の健全な運営のためには意識的(規則・規程)に統制(管理)を行わなければならない。内部空間にあっても理性的な自己規制をはじめとして約束事(規則・規程)がある。人間が集団化し何らかの行為を行うには統制を図ることが必要であることを理解する。	統制とは、どのようなものか調べておくこと。講義内容について復習する。	60
9	経営の要因	・ ニュースの発表 ・ 経営の要因である「人・物・財貨（金）・時間」について統制の在り方を項目別及び総合的に学ぶ。☑	第6～9回まで講義内容の理解度を確認するためレポートを提出する。	120
10	指導・リーダーシップ	・ ニュースの発表☑ ・ 生活に必要な指導とは、リーダーシップとは何かということ学ぶ。現代社会での指導的役割を果たすリーダーの重要性について考える。講義内容を踏まえて自分が考える理想のリーダーについてプレゼンテーションをおこなう。	リーダーに必要な要素、影響力について考えをまとめておくこと。講義内容の復習をする。	60
11	人間と時間、生活と時間	・ ニュースの発表☑ ・ 私たちにとって、時間は何物にもかえがたいほどの関わりがあるが、それにもかかわらず重要視されていないのは何故か。人間と時間、生活と時間について考える。生活時間調査から考える生活の課題について意見交換をおこなう。	配布されたプリントに生活時間調査をおこなってくる。講義内容を復習する。	60
12	家庭経済	・ ニュースの発表☑ ・ 家庭経済と経済社会、家庭経済に影響を及ぼす経済動向について理解を深める。	経済に関するニュースを調べておくこと。講義内容の復習をすること。	60
13	家計の構成・家計簿	・ ニュースの発表 ・ 生活経営と家計、家計の構造（収入・支出・貯蓄）、家計の個別化について理解する。ライフステージに合わせて家計の課題も変わっていくことを理解する。	総務省『家計調査』データの資料を基に、家計の変化について考えておくこと。講義内容の復習をする。	60
14	消費者の権利と責任	・ ニュースの発表☑ ・ 現代の消費生活や消費問題に理解を深める。☑ ・ 経済の高度成長と大量消費生活、「消費者」の登場と消費者保護、消費のサービス化と情報革命等について学び、生活者としてよりよい生活の在り方を考える。消費者を取り巻く問題を取り上げ（新聞記事等）、意見交換をおこなう。	消費生活に関するニュースを調べておくこと。講義内容の復習をする。	60
15	まとめ	・ ニュースの発表 ・ 講義内容の総括☑	講義内容をまとめ、定期試験に備える。	60

科目名	保育学	対象 単位数 必選	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択	
担当教員	岡本 宏二			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。☒ 〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。☒ 〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。☒ 【履修カルテの評価項目】☒ ①子どもたちの発達や育児について、医学的・生物学的に理解するができたか。☒ ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。☒ ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕本講義では、保育学を通して子どもを育てることの意義や、その基礎となる正しい医学的・生物学的知識を修得し、幼児期の子どもたちの生活実態について学んでいく。また、中高家庭科の保育領域として専門的知識や技能等の修得を目指し、主体的に探求する能力を養うことを目的とする。☒ 〔授業全体の内容の概要〕子どもを育てることの意義や考え方、乳幼児の成長発達について、保育者の役割、子どもの健やかな成長のための環境などについて考える。☒ 〔到達目標〕①保育とは何かを理解する。②乳幼児の心身の健やかな成長とはどのようなものか。社会全体の流れの中で子どもを育てることの重要性を理解する。☒ 【履修カルテの評価項目】☒ ①子どもたちの発達や育児について、医学的・生物学的に理解するができたか。☒ ②教育者として、保育における健やかな成長とはどのようなことであるのか理解することができたか。☒ ③子どもたちを取り巻く環境の変化や実態から、保育の意義を理解理解することができたか。			
受講資格	教職（中学・家庭科）履修者及び上記対象学生。		成績評価 方法	①平常点（授業態度）30%、②途中課題（小レポート）30%、③試験40%、①～③の総合評価60点以上で合格とする。
教科書	指定なし。授業毎に資料配布。			
参考書	南山堂『新保育学(改訂5版)』著：岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子他2名☒ 三恵社『初めて学ぶ保育学入門』著：保育学入門編集委員会			
学生への要望	遅刻・欠席をせず主体的に探究心をもって授業に取り組むこと。レポートや課題について分からないことは、積極的に質問をするように心がけること。			
オフィスタイム	授業開始前：教室☒ 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法などについて説明する。☒		0
2	保育を考える	1）未熟な状態で生まれるヒト☒ ※保育の必要性を他の動物の生誕と比較して考える。		0
3	保育を考える	1）文化の中の人間☒ ※ヒトは文化的環境の中で成長していくことを野生児の事例から学ぶ。		0
4	子どもの発達①	1）母体の健康管理と子どもの誕生 ☒ 2）乳幼児の生理機能☒ ※子どもを産み育てる最も重要な内容を理解する。☒ 3）子どもの心身の発達☒ ※近年の日本の状況や世界的な状況を比較して、考え方や取り組み方の違いなどを理解する。☒		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	子どもの発達②	1) 子どもの成長課程における愛着と自律について☒ 2) 親（父親・母親）のかかわりと保育責任と役割☒ ※最新の情報を交えて親の保育責任として、子育て放棄が子どもの心身の成長にどのように関わっていくのか考えていく。☒ 3) 子どもの言語・知能の発達☒ ※色彩から見られる症状や研究事例を取り上げて考えていく。☒		0
6	子どもの発達③	1) 子どもの運動について☒ ※子どもの成長には、運動も重要となる。原発事故により戸外で活動が制限されたことによって引き起こされた事例などを取り上げて、子どもの成長と運動について考えていく。☒ 2) 子どもの睡眠と成長について☒ ※子どもの心とからだの基本的健康づくりについて、休養面からアプローチして考えていく。とくに、近年の子どもの睡眠状況に着目し、その実態や問題点、また、対策などについて学習する。睡眠の必要性について、研究事例を取り上げて解説する。		0
7	子どもの発達④	1) 子どもの発達課題の理解☒ ※子どもの発達を理解し、同時に発達に伴う課題について学ぶ。		0
8	子どもの心とからだについて①	1) 子どもの病気と対処法☒ ※子どもの主な病気と、家庭における子どもの症状に対する対処法を学ぶ。		0
9	子どもの心とからだについて②	1) 子どもを取り巻く環境について☒ ※生活様式の変化により、子どもの心とからだに起きている異変について研究事例から考えていく。☒ 2) 保育体験学習の事前指導。☒ ※子どもを観察して、子どもについて身近に考えて見ましょう。		0
10	保育体験学習	1) 「保育体験学習」を通して、子どもについて理解を深める。☒		0
11	日本の幼稚園の始まり	東京女子師範学校付属幼稚園について知る。		0
12	日本の保育の始まり	倉橋惣三の保育論を学ぶ。		0
13	保育所の始まり	子守学校について知る。		0
14	子どもとのかかわり	1) 子どもの遊びについて☒ ※子どもの遊びを通して、発達にあわせた遊びとはどのようなものか考えていく。1) 子どものタイプと対応方法について☒ ※近年研究が進められている子どものタイプについて理解を深め、対応方法などを検討する。1) 保育実習☒ ※保育体験学習を通して、子どもについて理解を深める。		0
15	子育て支援と様々なタイプについて、保育学のまとめ	1) 児童福祉について☒ 2) 子育て支援について☒ ※近年の日本の実態や今後の課題について考えていく。☒ 3) これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。		0

科目名	社会調査法	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/短期大学部 専攻科文化学専攻 1年 2単位 選択	
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	後期			
授業概要	社会調査というものが何を目的として、どのように行われるのかという基礎知識の習得に努めた上で、データや数字に対する忌避感を和らげるため、身近な例を挙げて平易な解説に努め、社会調査への理解を深めることを目標としたい。☒ なお、内閣府での勤務経験を活かし、授業の中で統計データの見方、活用の仕方について採り上げていく。☒ 【実務経歴】☒ 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。☒ 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】☒ 小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。☒ 【位置づけ・水準】 HL2317			
達成目標	【単位認定の最低基準】 社会調査におけるデータの収集、分析・加工、報告について理解を深めることを目標とする。このためこれら内容の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☒ ☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	家政学部 生活科学科 3年生☒ 短期大学部 専攻科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回）☒ ②課題（レポート）70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	轟亮・杉野勇編「入門・社会調査法」法律文化社			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
オフィスタイム	火曜日 2コマ 金曜日4コマ☒ 食品経営学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 社会調査とは何か	授業の進め方、評価方法について。☑ 社会調査とは何か、何を目的として行われ、どのように分類されるか学修する。☑	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
2	社会調査の種類①	社会調査の分類、量的調査と質的調査について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
3	社会調査の種類②	社会調査における質的調査の特徴について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
4	社会調査のプロセス	社会調査の全体像の把握と、構想・計画・実査・データの入力と点検、報告、管理について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
5	社会調査のデザイン①	社会調査の調査内容とその検証について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
6	社会調査のデザイン②	仮説の検証とより良い調査研究について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
7	実査の方法①	データ収集法選択の基準について学修する。	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
8	実査の方法②	様々な調査方法のうち、適切なデータ収集法の選択について学修する。小テスト（1回目）	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60
9	調査票の作成	調査票の作成、手順、構成、質問形式、質問を作成・配置する場合の留意点について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
10	サンプリング	調査対象の選び方について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
11	調査の実施	郵送法実査、個別面接法実査等の運営・手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
12	データファイルの作成	データ入力とその手順について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30
13	データの集計方法	情報の集約、代表値（平均）から相関係数について学修する。	配布したプリントとノートの内容を元に授業の内容について復習し、把握すること。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	調査報告とデータの管理 (パソコンを用いての実習)	調査の報告と報告後のデータの管理について学修する。 このため実際にパソコンを用いてデータの加工、管理について実習形式で授業を行う。	実習に備えてこれまでの学修内容を確認すること。また授業内で終わらなかった課題については自宅学修で引き続き取り組むこと。	60
15	社会調査の倫理について 学修の総まとめ	社会調査協会倫理規定に基づいて社会調査の倫理について学修する。小テスト (2回目)	これまでの学修内容を確認し、小テストに備えること。	60

科目名	社会福祉実習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 1単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	地域にある社会福祉施設の役割を理解するとともに、そこで生活する利用者の特徴を学ぶ。☑ 基本的な介護技術を実践できる能力を身に付ける。			
達成目標	・実習先施設の概要を理解する☑ ・実習中の留意点、実習生として遵守すべきことを確認する☑ 【履修カルテ評価項目】 ①社会福祉施設の概要を理解できたか ②社会福祉施設の利用者像を理解できたか ③基本的な介護技術を習得できたか			
受講資格	福祉コース	成績評価 方法	実習先評価40%、☑ 事前指導レポート30%☑ 事後報告書30%	
教科書	宮田和明他編「5訂社会福祉実習」中央法規出版			
参考書	随時紹介する			
学生への要望	実習にあたり、明確な目標を持ち、積極的に取り組んで下さい			
オフィスタイム	水曜日 1, 2 コマ 創学館4階 No.6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	事前指導	実習施設の法的根拠、目的、組織、運営に関する理解	・実習施設について調べ、まとめる	60
2	事前指導	実習施設の利用者とニーズの理解	・実習施設における利用者について調べる	40
3	事前訪問	実習計画書を持参し、実習内容を確認する	・実習計画書を作成する	30
4	現場実習☑	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ	60
5	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ	60
6	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ	60
7	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ	60
8	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ	60
9	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ	60
10	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ	60
11	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ	60
12	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ	60
13	現場実習	福祉施設での現場実習	・振り返りと日誌のまとめ	60
14	事後指導	実習報告書の作成	・実習報告書を作成する	90
15	事後指導	実習報告会	・課題をまとめる	60

科目名	社会保障論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修	
担当教員	長谷川 貴弘			
開講期	前期			
授業概要	社会保障は、国民に社会的な危険・事故からの回避と回復を可能とするセーフティーネットの制度である。福祉国家の重要な政策である社会保障の理念、目的、機能および手段などを理解し、安定した人間生活に社会保障が果たす役割と、社会保障制度が整備されてきた歴史と背景について考える。☒ 【課題（レポート）に対するフィードバックの方法について】☒ 各自提出してもらったレポートを元に、関心を持っている点や課題について振り返る。☒ 【位置づけ・水準】 DW2352			
達成目標	【単位認定の最低基準】 ☒ 下記①～③の目標の8割程度を理解していることを単位認定の最低基準とする。☒ ①社会保障制度の全体像（どのような制度が含まれるか）について理解できたか。☒ ②社会保障の各制度の役割と対象について理解できたか。☒ ③現代の貧困問題や社会的弱者の生活実態について理解・関心が深まったか。☒ ☒ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】 知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
受講資格	家政学部人間生活学科生活総合コース／福祉コース 2年生	成績評価 方法	①レポート30点☒ ②定期試験70点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	「わかる・みえる社会保障論 事例でつかむ社会保障入門」今井 伸 編、(株)みらい☒ 「新・社会福祉士養成講座 社会保障」中央法規			
学生への要望	授業中はしっかりとノートを取り、課題に取り組むこと。			
オフィスタイム	火曜日 2コマ 水曜日 4コマ☒ 食品経営学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 社会保障とは何か①	講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。☒ たちの生活と社会保障、自助・互助・共助・公助の展開について学修する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
2	社会保障とは何か②	少子高齢化社会と社会保障制度について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
3	社会保障とは何か③	個人・家族・地域・社会のしくみと関わり、及び生活と社会の関わりについて学修する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
4	医療保険制度①	医療保険制度の概要、医療保険の種類と給付、後期高齢者医療制度について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
5	医療保険制度②	医療保険制度の概要、医療保険の種類と給付、後期高齢者医療制度について理解する。（続き）	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
6	雇用保険制度	雇用保険制度の概要と各種給付について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
7	労働者災害補償保険制度	労働者災害補償保険制度（労災保険）の概要について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
8	年金保険制度	年金保険制度の役割と機能、仕組みについて理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
9	介護保険制度	介護保険制度の創設と概要等について理解する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
10	地域共生社会と地域包括ケアシステム	地域共生社会と地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、制度などについて学修する。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
11	生活保護制度	生活保護制度の目的と基本原理、生活保護の動向等について理解する。	これまでの学修内容を元にレポートを作成すること。	60
12	社会福祉制度	児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、母子・父子・寡婦福祉について理解する。	これまでの学修内容を元にレポートを作成すること。	60
13	社会保障の財源と費用	社会保障費用統計と国の財政、国民負担率について理解する。	これまでの学修内容を元にレポートを作成すること。	60
14	諸外国における社会保障制度	ヨーロッパ、アメリカ、アジアの社会保障制度について理解する。レポート提出。	配布したプリントを読み返して、授業内容を把握すること。	30
15	まとめ	これまでの講義内容を踏まえて、総合的に学修する。	これまでの学修内容を復習し、提出したレポートの内容を振り返って、定期試験に備えること。	90

科目名	レクリエーション活動援助法	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択	
担当教員	佐藤 喜也			
開講期	前期			
授業概要	1 遊び・レジャー・レクリエーションの我が国における現代的な意義を伝える。☑ 2 Therapeutic Recreation Serviceの基本的な考え方と、社会福祉領域における☑ レクリエーション援助の方法について伝える。☑ 3 学んだ学生が社会福祉の現場に出たとき、実践的に役立つアクティビティを伝える。			
達成目標	1 遊び・レジャー・レクリエーションの我が国における現代的な意義を伝える。☑ 2 Therapeutic Recreation Serviceの基本的な考え方と、社会福祉領域における☑ レクリエーション援助の方法について伝える。☑ 3 学んだ学生が社会福祉の現場に出たとき、実践的に役立つアクティビティを伝える。			
受講資格	人間生活学科福祉コース	成績評価 方法	期末テスト 50点☑ 日常の受講態度 50点	
教科書	レクリエーション支援の基礎☑ (公財) 日本レクリエーション協会			
参考書	特になし			
学生への要望	1 実技があるため活動的な服装で出席すること☑ 2 実技及びグループワークには積極的に参加すること			
オフィスタイム	木曜日授業開始前（創学館 2 階教務部内非常勤講師室）、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	コミュニケーションワーク論2	授業の進め方、成績の評価方法等について（ガイダンス）☑ アイスブレイキングの方法と進め方	授業内容の確認を行い、ノートにまとめる。	60
2	基礎理論 演習	レクリエーション支援者の役割☑ レクリエーションアクティビティの体験	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	事業論 演習	レクリエーション事業の基本☑ レクリエーションアクティビティの体験	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	事業論 演習	レクリエーション事業の企画と演出☑ レクリエーションアクティビティの体験	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	事業論 演習	レクリエーション事業の安全管理☑ レクリエーションアクティビティの体験	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	支援論 演習	目的志向型レクリエーションワーク☑ レクリエーションアクティビティの体験	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	支援論	コミュニケーションと相互作用☑ 目的にあわせたアクティビティの選択	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	支援論	目的にあわせたアクティビティの提供☑ 生活支援とレクリエーション	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	支援論	参加者に合わせたアレンジ法	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	指導実習	参加者にあわせたアレンジの実際	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	コミュニケーションワーク論1	レクリエーション支援者にとってのホスピタリティーと☑ ホスピタリティートレーニング	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	コミュニケーションワーク論2	アイスブレイキングのプログラミング	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	支援論	社会福祉とレクリエーション☑ セラピューティックレクリエーションサービス	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	支援論	福祉レクリエーション援助プログラムの展開	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	基礎理論	レクリエーション運動の歴史と制度☑ レクリエーションとは何か	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	ケアマネジメント	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	近内 直美		
開講期	後期		
授業概要	人間関係の形成や介護の質を高めるために必要なコミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。☑ 最終授業で課題やレポートなど全体に対するフィードバックを行います。 〈授業担当者〉☑ 近内 直美☑ 特別養護老人ホームに勤務していた時の経験を活かし、実践に即した授業を行う☑ 実務経験：社会福祉法人 笑風会で事業部長として、特別養護老人ホーム他福祉関係施設の管理業務を行っていた。☑ 廣野 正子☑ 特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの生活相談員として人材育成の企画・実践の経験をもとに授業を行う。☑ 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）、生活相談員として勤務。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2302		
達成目標	・人間を多面的に理解し、介護福祉士としての倫理基盤、コミュニケーションの有り様を理解する。☑ ・ケアマネジメントに必要な組織の運営管理を理解し、ケアマネジメントに必要な人材の育成や活用等の人材管理を理解する。☑ ・ケアマネジメントに必要なリーダーシップ・フォローシップ等を理解する。☑ 単位認定の最低基準は：「内容の8割を理解していること」☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	課題 70%、演習（参加の姿勢や発表） 30%
教科書	最新介護福祉士養成講座1『人間の理解』編集介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	「人間」の理解に努め介護実習等で体験したチームケアの意義を再確認し、ケアマネジメントの必要性を理解できるようにする。		
オフィスタイム	近内 直美：創学館 4 階No.6研究室、水曜日Ⅰ・Ⅱ限 ☑ 廣野正子：創学館 4 階No.1研究室、水曜日Ⅰ限・木曜日Ⅰ限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 福祉の理念について 近内	授業の目的、進め方等 人間の尊厳と人権・福祉の理念等の振り返り	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	15
2	介護実践におけるチームマネジメント① 近内	ヒューマンサービスとしての介護サービス	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
3	介護実践におけるチームマネジメント② 近内	介護現場で求められるチームマネジメント	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
4	介護実践におけるチームマネジメント③ 近内	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
5	ケアを展開するためのチームマネジメント① 近内	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
6	ケアを展開するためのチームマネジメント② 近内	チームでケアを展開するためのマネジメント	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。 ・課題を行う。	90
7	ケアを展開するためのチームマネジメント③ 近内	チームの力を最大化するためのマネジメント	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
8	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント① 廣野	介護福祉職のキャリアと求められる実践力 介護福祉職としてのキャリアデザイン	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
9	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント② 廣野	介護福祉職のキャリア支援・開発	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント③ 廣野	自己研鑽に必要な姿勢 演習：自己研鑽の効果を高める	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
11	組織の目標達成のためのチーム マネジメント① 廣野	介護サービスを支える組織の構造 介護サービスを支える組織の機能と役割	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
12	組織の目標達成のためのチーム マネジメント② 廣野	介護サービスを支える組織の管理 演習：事業所組織の機能と役割	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	30
13	ケアマネジメントの実践① 廣野	業務課題の発見	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	45
14	ケアマネジメントの実践② 廣野	業務課題の解決方法	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。 ・課題を行う。	90
15	ケアマネジメントのまとめ 廣野	ケアマネジメントの総括	・事前にテキストで予習を行う ・授業のポイントをまとめ、振り返りを行う。	45

科目名	高齢者福祉論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 必修	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	高齢者の特性や生活実態についてのイメージを、その置かれている社会・経済的状況及び歴史的背景を学ぶことで理解を深める。☑ また、わが国の急速な高齢化に伴う高齢者問題の発生及び福祉ニーズの高まりを捉える。 さらに、高齢者福祉とその関連施策について、法制度及び実践の現状を理解する。☑ ☑ 課題に対するフィードバック方法☑ ・課題・レポートを返却し、コメント等によるフィードバックを行う。☑ 位置づけ・水準 hw2351			
達成目標	目標☑ 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する 高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解する 単位認定の最低基準は、介護保険制度の仕組みを7割理解していること☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任☑ ☑ 【履修カルテ評価項目】☑ ①高齢者の生活実態についてどの程度理解できたか。☑ ②要介護高齢者を支える介護サービスについてどの程度理解できたか。☑ ③高齢者福祉施設の種類と役割についてどの程度理解できたか。			
受講資格	特になし		成績評価 方法	定期試験70％、課題30％
教科書	最新 社会福祉士養成講座 2 『高齢者福祉』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集			
参考書	授業の中で適宜紹介します			
学生への要望	日頃から、高齢者に関連する新聞記事等を読んでください。			
オフィスタイム	水曜日の1時限目☑金曜日の3時限目☑ 創学館4階 No.6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 高齢者の定義と特性	・授業概要の説明 ・高齢者の定義と特性 高齢者の社会的理解☑ 高齢者の身体的理解☑ 高齢者の精神的理解	・身近な高齢者について、特徴を文章にしてまとめる	30
2	高齢者と少子高齢社会	・少子高齢社会 ・高齢者の生活実態	・自分の地域の高齢化の状況を調べる	30
3	高齢者を取り巻く社会環境	・高齢者世帯の特徴 ・家族介護の状況	・現代の高齢者世帯の特徴を調べる	60
4	高齢者福祉の歴史と理念	・高齢者観の変遷 ・高齢者福祉の発展過程 ・高齢者福祉の理念	・高齢者福祉の発展に影響を与えた社会情勢の変化について調べる	60
5	介護保険制度（1）	・介護保険制度の概要 枠組み 保険者と被保険者 要介護認定の仕組みとプロセス 保険財政、保険料、保険給付	・自分の住む地域の介護保険料を調べ、近隣の市町村との比較をまとめる	90
6	介護保険制度（2）	・地域支援事業 地域支援事業の内容 地域包括支援センター ・介護保険サービスの体系 居宅サービス 介護予防サービス	・自分の住む地域の取り組みを調べる	60
7	介護保険制度（3）	・介護保険サービスの体系 施設サービス 地域密着型サービス 住宅改修	・自分の住む地域の地域密着型サービスの整備状況を調べる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	高齢者に対する関連諸制度 (1)	・高齢者保健福祉の法体系 ・老人福祉法	・老人福祉法に関する具体的なサービス項目を確認する	70
9	高齢者に対する関連諸制度 (2)	・高齢者医療確保法 ・高齢者虐待の実態と高齢者虐待防止法	・虐待への対応策にはどのようなものがあるか調べる	0
10	高齢者に対する関連諸制度 (3)	・バリアフリー法 ・高齢者住まい法 ・高年齢者雇用安定法	・高齢者支援における住まいの確保の意義について考える	60
11	高齢者に対する関連諸制度 (4)	・育児・介護休業法 ・市町村独自の高齢者支援	・高齢者支援に不足しているものは何か、活用できる社会資源はないかを文章にまとめる	60
12	高齢者と家族等の支援における 関係機関と専門職の役割	・関係機関の役割 ・専門職の役割	・地元の市町村のHP等から介護保険制度利用の案内を見つけプリントアウトする	50
13	高齢者と家族等に対する支援の 実際 (1)	・高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割	・地域ケア会議の機能を確認する	60
14	高齢者と家族等に対する支援の 実際 (2)	・高齢者と家族等に対する支援の実際	・事例1、事例4を読み、自分の考えをまとめる	60
15	授業の振り返り	・今後の展望についてグループワークを行い、福祉専門職の関わり方について各自の考えを発表する。☑	・テーマについて考えをまとめる	60

科目名	児童福祉論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 必修	
担当教員	近内 直美			
開講期	後期			
授業概要	子どもや子育て家庭を取り巻く社会環境の変化と、子ども家庭福祉の具体的なニーズについて理解し、子ども家庭福祉の理念、実施体制、サービスの現状と課題について学び、実践に役立てることを目標とする。☒ 最終授業で課題やレポートについて、全体に対するフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準 HW2352			
達成目標	①児童が権利主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。 ②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する ③児童や家庭福祉に係る法制度について理解する ④児童や家庭福祉領域における支援のしくみと方法、社会福祉士の役割について理解する ⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援の在り方を理解する 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題80％、演習20％。	
教科書	最新社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規出版			
参考書	適宜指示する。			
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ・Ⅱ時限☒ 創学館4F、No.6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 子ども家庭福祉とは何か	・講義の進め方や取り組み方、成績評価方法について説明する。 ・子ども☒権利 ・子どもの生命と発達 ・子どもと家庭・地域 ・子ども家庭福祉とは 社会福祉についての概念を知り、子どもや家庭における課題やニーズについてグループワークを行う 2回目以降、随時、課題の発表を行い適時意見の交換を行う	・児童福祉の科目で学ぶことを振り返る	30
2	子ども家庭福祉の歴史	・慈善・恩恵から権利保障へ ・子どもの権利擁護の変遷 ・子どもの家庭福祉と現代社会	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	45
3	子ども家庭を取り巻く現代社会	・子ども家庭を取り巻く社会環境☒ ・現代社会における課題と子育て・子育てへの影響	・テキストで予習を行う☒ ・課題を行う（子どもの権利について）	45
4	子ども家庭福祉の支援の基盤 1	・子ども家庭福祉の法体系 ・子ども家庭福祉の実施体制 ・子ども家庭福祉にかかわる関係機関・施設と利用方式	・テキストで予習を行う☒ ・授業の要点をまとめる	45
5	子ども家庭福祉の支援の基盤 2	・子ども家庭福祉の財源と費用負担 ・子ども家庭福祉の人材と専門職 ・子ども家庭福祉の計画推進	・テキストで予習を行う☒ ・授業の要点をまとめる	45
6	子どもの福祉課題と支援 1	・子ども・子育て支援 ・母子保健	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	45
7	子どもの福祉課題と支援 2	・保育 ・要保護児童等と在宅支援 ・児童虐待にかかわる支援	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	45
8	子どもの福祉課題と支援 3	・社会的養護 ・ひとり親家庭への支援 ・ドメスティックバイオレンスと女性支援	・テキストで予習を行う☒ ・課題を行う	45
9	子どもの福祉課題と支援 4	・スクールソーシャルワーク ・非行少年 ・若者支援	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	45
10	子どもの福祉課題と支援 5	・障害のある子どもへの支援 ・ソーシャルアクション	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	子ども家庭福祉のソーシャルワーク 1	・子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク ・子ども家庭福祉の支援の端緒と調査 ・子ども家庭福祉におけるアセスメント	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	45
12	子ども家庭福祉のソーシャルワーク 2	・子ども家庭福祉における支援過程展開と連携 ・子ども・子育て支援にかかわる実践 ・母子家庭や医療との協働による実践 ・保育における実践	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	45
13	子ども家庭福祉のソーシャルワーク 3	・児童虐待にかかわる実践その 1 ・児童虐待にかかわる実践その 2 ・社会的養護にかかわる実践	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	45
14	子ども家庭福祉のソーシャルワーク 4	・ひとり親支援にかかわる実践 ・女性福祉にかかわる実践 ・教育との協働にかかわる実践	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	45
15	子ども家庭福祉のソーシャルワーク 5 まとめ	・若者の自立支援にかかわる実践 ・障害児にかかわる実践 ・当事者参画とアドボカシーにかかわる実践 ・レポート等について全体にフィードバックを行う	・テキストで予習を行う ・授業の要点をまとめる	45

科目名	障害者福祉論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択	
担当教員	岡本 宏二			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ 障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。☑ 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕☑ 障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え方及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。☑			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☑ 障害者の生活実態、権利擁護、福祉・介護ニーズを理解し、障害者福祉の理念や法制度の発展過程を理解する。また、障害者総合福祉法や福祉・介護に関する法制度、組織、団体及び専門職について学び、福祉・介護の相談援助及び就労支援分野についての理解を深める。☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 資料を基に講義を行い、文献、映像や写真により興味・関心を育て、学生相互の討議を行って、学習を進める。☑ 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕☑ 障害者の置かれている現状を理解し、ノーマライゼーションやインテグレーションなどの考え方及び支援の方法や法制度の活用について学習し、ともに生きる社会について理解を深める。☑			
受講資格	人間生活学科福祉コース3年生	成績評価 方法	出席状況・学習態度（50）、定期試験等（50）総合的に評価する☑ ☑	
教科書	特に指定しない			
参考書	障害者福祉論（ミネルヴァ書房）☑ 新・現代障害者福祉論（法律文化社）			
学生への要望	意欲ある学習態度をもって、ノートを取り、予習復習をすること			
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室☑ 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション・障害とは	法律にみる障害の定義、ICFによる障害のとらえ方、しょうがいの表記の仕方などを通して、障害とはどういうことか考える。		0
2	障害者福祉の基本的視点	ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンなど障害者福祉の新しい視点について学習する。		0
3	障害者福祉のあゆみ	戦前から戦後にかけての障害者福祉、高度経済成長期以後の発展過程、障害者福祉の転換と国際的動向について学ぶ。		0
4	障害者福祉に関する制度や法律	障害者基本法・その改正の動向、身体者障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者健康福祉法等を学習する。		0
5	障害者の生活実態とニーズ	障害者の生活とニーズを理解し、暮らしや就労等の実情把握から現実の支援へとどうつなげていくかを学習する。		0
6	障害者総合支援法の概要	総合支援法の成立の背景や目的・理念について学び、給付や事業の全体像、サービスの実際やこれからの方向について学ぶ。		0
7	障害福祉サービスの利用プロセス	福祉サービス支給決定の流れ、介護給付や訓練等給付、利用者負担、障害支援区分、利用計画や支援者の連携等利用プロセスについて学習する。☑ ☑		0
8	相談支援	総合支援法における相談支援の概要や相談支援専門員の役割、相談支援と協議会の関係など、相談支援にかかわる実際について学習する。		0
9	就労支援	就労支援施策の全体像と雇用の促進について、障害者雇用促進法の概要や関係機関の役割を学び、障害者雇用推進の現状について学習する。		0
10	成年後見制度と 権利擁護	障害者虐待防止法、障害者の権利条約、差別解消法や成年後見制度、日常生活支援事業制度、苦情解決制度等の権利擁護に関する諸制度を学習する。		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	障害者プランにおける専門職の役割	市町村計画、当事者参加、民間活動等を学び、ケアマネジメントの手法や障害者支援に係る専門職の役割や実際について理解を深める。☑ ☑		0
12	障害者の文化スポーツ	障害者の社会参加、生活環境の改善及び文化やスポーツ、福祉レクリエーション活動などの地域交流について学習する。		0
13	障害者支援のニーズと対応	身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害等様々な障害について理解し、それぞれの特別な支援ニーズと対応について学ぶ。		0
14	事例研究	個別事例を通して、障害者支援の実際について学ぶ。☑ ☑		0
15	まとめ	障害者福祉の課題とこれからの方向について総合的に学ぶ。		0

科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修
担当教員	島野 光正		
開講期	前期		
授業概要	1. 社会福祉援助技術を社会福祉実践につながるかたちで学ぶ。☑ 2. 援助活動の基になる援助関係について知る。総合的・包括的な援助と多職種連携の意義と内容を理解する。☑ 3. 福祉専門職について考える。専門職の概念と範囲及び専門職の倫理について理解する。☑ ☑ 【授業全体の内容の概要】☑ 社会福祉における援助活動の意義を理解したうえで、専門的援助関係、社会福祉援助技術の体系・構成・内容、間接援助技術・関連援助技術、社会福祉援助技術の展開過程、多職種連携等を学ぶ。☑ ☑ 【授業修了時の達成課題（到達目標）】☑ 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。☑ 1. 社会福祉援助技術について実践に繋がるかたちで理解を深める。☑ 2. 援助関係について理解し、多職種連携の意義について理解を深める。☑ 3. 福祉専門職の概念や専門職の倫理について理解を深める。☑ 実務経験：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士兼主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務。		
達成目標	1. 社会福祉援助技術を社会福祉実践につながるかたちで学ぶ。☑ 2. 援助活動の基になる援助関係について知る。総合的・包括的な援助と多職種連携の意義と内容を理解する。☑ 3. 福祉専門職について考える。専門職の概念と範囲及び専門職の倫理について理解する。☑ ☑ 【授業全体の内容の概要】☑ 社会福祉における援助活動の意義を理解したうえで、専門的援助関係、社会福祉援助技術の体系・構成・内容、間接援助技術・関連援助技術、社会福祉援助技術の展開過程、多職種連携等を学ぶ。☑ ☑ 【授業修了時の達成課題（到達目標）】☑ 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。☑ 1. 社会福祉援助技術について実践に繋がるかたちで理解を深める。☑ 2. 援助関係について理解し、多職種連携の意義について理解を深める。☑ 3. 福祉専門職の概念や専門職の倫理について理解を深める。		
受講資格	社会福祉援助技術論Ⅰの終了を原則とする	成績評価 方法	出席状況20%)及びレポート(80%)により評価する
教科書	新・社会福祉士養成講座 8 ☑ 相談援助の理論と方法Ⅱ （中央法規出版）☑		
参考書	適宜紹介します。		
学生への要望	事前にテキストを読んでくるのを前提にすすめます。		
オフィスタイム	授業開始前：創学館 2 階教務部非常勤講師室☑ 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	・オリエンテーション ・相談援助とは	・講義の概要と到達目標について ・講義の進め方について ・予習復習について ☑ ☑ ◎社会福祉士と社会福祉援助技術☑ 1. ソーシャルワーカーの具体的な事例☑ 2. 仕事からとらえたソーシャルワーカーの定義と枠組み☑ 3. ソーシャルワークを構成する要素☑ 4. ソーシャルワークの職場 ☑ 5. ソーシャルワーカーが所属する組織	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	・社会福祉における援助活動の意義 ・相談援助の構造と機能	◎社会福祉援助技術の意義☑ 1. ソーシャルワークの構造☑ 2. ソーシャルワークにおけるニーズ☑ 3. ソーシャルワークの機能	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	・社会福祉士における援助活動の意義 ・人と環境の交互作用	◎社会福祉士における援助活動の意義☒ 1. 人と環境 2. 環境の意味 3. 人と環境の全体性 4. システムの作動とサイバネティクス 5. システム理論によるひとつのソーシャルワーク論☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	・社会福祉専門職と社会福祉援助技術 ・相談援助における援助関係	◎ソーシャルワーカーとは ◎専門援助活動、国際ソーシャルワーカー連盟（I F S W）の定義☒ 1. 援助関係の意義 2. 援助関係の形成プロセスに影響する要因 3. 援助構造と援助関係 4. 援助関係の質と自己覚知 5. 援助関係とミクロからマクロ実践領域☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	・専門援助技術と倫理 ・相談援助の展開過程Ⅰ	◎倫理的ジレンマ、専門性の構造と三つの要素、倫理・哲学、専門知識、専門技術とエンパワメント☒ 1. 相談援助の展開過程の流れ 2. ケース発見 3. 受理面接（インテーク） ☒ 4. 問題把握からニーズ確定まで 5. ニーズ確定から事前評価（アセスメント）まで ☒ 6. 事前評価から支援目標・目標設定まで 7. 支援目標から支援の計画（プランニング）まで☒ 8. 支援の計画（プランニング）から支援の実施まで☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	・専門的援助関係とコミュニケーション ・相談援助の展開過程Ⅱ	◎援助関係、コミュニケーション、共感、信頼関係☒ 1. 経過観察（モニタリング） 2. 再アセスメントと支援の強化 3. 支援の終結と効果測定、評価、アフターケア 4. 予防的対応とサービス開発☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	・ソーシャルワーカーの専門性 ・相談援助のためのアウトリーチ技術	◎倫理綱領、自己覚知と他者理解☒ 1. アウトリーチの意義と目的 2. アウトリーチの方法と留意点☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	・専門援助技術をめぐるわが国及び諸外国の動向 ・相談援助のための契約の技術	◎社会福祉援助技術の理解と動向、諸外国の動向、日本の動向、歴史☒ 1. 契約の意義と目的 2. 契約の方法と留意点☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	・社会福祉援助活動の共通課題 ・相談援助のためのアセスメント技術	◎契約、面談、記録、評価など☒ 1. ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性、援助関係、面接 2. アセスメントで得るべき情報 3. アセスメント面接で得た情報の使い方☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	・社会福祉援助技術の体系と内容 ・相談援助のための介入の技術	◎援助概念、体系、総合化☒ 1. 介入の意義と目的 2. 介入の方法と留意点☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	・社会福祉援助技術の構成 ・相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術	◎直接援助技術（個別援助技術、集団援助技術）☒ 1. 経過観察（モニタリング） 2. 再アセスメント 3. 効果測定☒ 4. 評価とサービス開発☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	・間接援助技術 ・相談援助のための面接の技術	◎地域援助技術、社会調査法、運営管理、社会福祉活動法、社会福祉計画法☒ 1. 相談援助にける面接の目的 2. 相談援助における面接の展開 3. 面接において用いられる技術とコミュニケーション 4. 面接援助における面接の形態☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	・その他の関連技術 ・相談援助のための記録の技術	◎ネットワーク、ケアマネジメント、カウンセリング、コンサルテーション☒ ◎介護保険法における居宅サービス計画と施設サービス計画☒ 1. 記録の意義とその活用目的 2. 記録の種類と活用 3. 記録の活用目的と種類との関係☒ 4. 記録の方法とIT化（倫理的配慮について） 5. 記録の技術の実際例と今後の課題☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	・専門職種の多職種連携（チームアプローチ） ・相談援助のための交渉の技術	◎意義と内容、統合化とチームによる対応、社会福祉援助技術の展開過程☒ 1. 交渉の意義と目的 2. 交渉の方法 3. プレゼンテーションの技術☒	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	・記録と計画	◎記録と計画 まとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	社会福祉援助技術論Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	島野 光正		
開講期	後期		
授業概要	【履修カルテの評価項目】☑ 1. 社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱをさらに深める。☑ 2. 援助技術における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。☑ 3. 援助技術の詳説として事例分析や意義について理解する。☑ ☑ 【授業全体の内容の概要】☑ 社会福祉援助技術の対象分野を理解した上で、個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等の展開過程を学ぶ。☑ また、社会福祉調査法、社会福祉計画、社会活動の理論と技術、さらに介護保健下におけるケアマネジメントについて学ぶ。☑ ☑ 【授業終了時の達成課題（到達目標）】☑ 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。☑ ☑ 実務経験：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士兼主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務する経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：社会福祉法人での生活相談員、ソーシャルワーカー、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援センター管理者を経て、現在社団法人にて事務部次長等として勤務。		
達成目標	【履修カルテの評価項目】☑ 1. 社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱをさらに深める。☑ 2. 援助技術における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。☑ 3. 援助技術の詳説として事例分析や意義について理解する。☑ ☑ 【授業全体の内容の概要】☑ 社会福祉援助技術の対象分野を理解した上で、個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等の展開過程を学ぶ。☑ また、社会福祉調査法、社会福祉計画、社会活動の理論と技術、さらに介護保健下におけるケアマネジメントについて学ぶ。☑ ☑ 【授業終了時の達成課題（到達目標）】☑ 対象別・分野別社会福祉援助技術の理解と、援助技術の具体的な展開過程を理解する。		
受講資格	社会福祉援助技術論Ⅱの終了を原則とする	成績評価 方法	出席状況(20%)および定期試験(80%)により評価する
教科書	新・社会福祉士養成講座 8 ☑ 相談援助の理論と方法Ⅱ（中央法規出版）		
参考書	適宜紹介します。		
学生への要望	事前にテキストを読んでくるのを前提に進めます。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前（創学館 2 階教務部内非常勤講師室）、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、人と環境の相互作用、相談援助における対象の理解	◎講義の概要の説明☑ ◎社会福祉援助技術の適用領域と対象分野☑ ☑ 1. 社会福祉援助活動の概念と定義 2. 相談援助の対象を動とらえるか。	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	相談援助の対象、ケアマネジメント	◎過程、援助関係、面接技術、アウトリーチ、社会資源の活用・調整・開発を理解する☑ 1. ケアマネジメントの基本 2. ケアマネジメントの過程 3. ケアマネジメントにおけるアセスメントの特徴☑ 4. ケアプランの作成・実施の特徴 5. ケアマネジメントの特徴 6. ケアマネジメントとソーシャルワークの関係	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	分野別社会福祉援助技術、グループを活用した相談援助	◎分野別社会福祉援助技術、対象別社会福祉援助技術☑ 1. グループを活用した相談援助 2. 自助グループを活用した相談援助	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	個別援助技術の展開過程、コーディネートとネットワーキング	◎インテーク、アセスメントとプランニング、援助の展開期（援助実施、モニタリング）、援助の終結期を具体的に学習する。☒ 1. コーディネーションの目的と意義 2. コーディネーションの方法、留意点 3. ネットワーキングの意義と目的☒ 4. ネットワーキングの方法 5. 地域福祉を推進するための総合的なネットワーキングの形成とシステム化	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	集団を活用した集団援助技術の展開過程、相談援助における社会資源の活用・調整・開発	◎援助の準備期（グループの計画、形成計画、波長合わせ、援助チームとの合意、他）☒ 援助の開始期（グループの特徴、援助者の役割、援助者の援助技術）援助の作業期（評価）☒ 援助の終結期（終結の評価、終結期の計画の確認、記録まとめ）☒ ☒ 1. 社会資源の活用・調整・開発の意義と目的 2. 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル☒ 3. ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチⅠ	◎展開過程を学ぶ☒ 1. 実践モデルとその意味 2. 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル☒ 3. ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ	◎社会福祉調査法の理論と技術を学ぶ☒ 1. 心理社会的アプローチ 2. 機能的アプローチ 3. 問題解決アプローチ 4. 課題中心アプローチ☒ 5. 危機介入アプローチ 6. 行動変容アプローチ	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	地域援助技術の理論と技術、さまざまな実践モデルとアプローチ	◎社会福祉計画法の理論と技術を学ぶ☒ 1. エンパワメントアプローチ 2. ナラティブアプローチ 3. その他の実践アプローチ☒ 4. 実践アプローチをめぐる課題	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	社会福祉の運営管理、スーパービジョンとコンサルテーションの技術	◎社会福祉の運営管理を学ぶ☒ 1. スーパービジョンの意義と目的 2. スーパービジョンの方法と留意点☒ 3. コンサルテーション	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	社会活動の倫理と技術、ケースカンファレンスの技術	◎社会活動の倫理と技術、ネットワーキング（多職種、他機関との連携を含む）☒ 1. ケースカンファレンスの意義と目的 2. ケースカンファレンスの運営と展開過程☒ 3. ケースカンファレンスの実際 4. ケースカンファレンスの評価と普遍化	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	ケアマネジメントとによる直接援助、相談援助における個人情報の保護	◎ケアマネジメントの目的と概念、構成要素、展開過程を学ぶ☒ 1. 相談援助と個人情報保護 2. 個人情報とは 3. 個人情報保護の考え方 4. 個人情報保護制度の展開☒ 5. 個人情報保護の制度 6. 相談援助における個人情報保護の課題	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	介護保険法下でのケアマネジメント、相談援助における情報通信技術（ICT）の活用	◎介護保険法下でのケアマネジメント、ケアマネジャー養成と四角などを学ぶ☒ 1. 情報通信技術（ICT）と福祉情報 2. 相談援助における情報通信技術の活用 3. 事例分析の目的と意義☒ 4. 事例分析の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	記録とスーパービジョン、事例研究・事例分析	◎記録とスーパービジョン、個人情報の保護と留意点を学ぶ☑ 1. 事例研究の方法 2. 事例研究の方法と留意点 3. 事例分析の目的と意義☑ 4. 事例分析の方法と留意点	テキストを読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	効果測定と評価	◎効果測定と評価を学ぶ☑ ◎事例1～5を学ぶ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	まとめ	◎授業のまとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	社会福祉援助技術論Ⅳ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択	
担当教員	熊田 伸子,近内 直美			
開講期	前期			
授業概要	・社会福祉援助技術Ⅰ～Ⅲで学んだ基礎的な援助技術論と援助技術演習、現場実習を結びつけることを目的とする☒ ・相談業務の実務経験のある近内が、現場実習で実践できるソーシャルワーク技術を教授する ☒実務経験：地域包括支援センター及び総合病院での相談業務（近内） 課題に対するフィードバック方法：最終授業で全体に対するフィードバックを行う 位置づけ・水準 HW2457			
達成目標	援助技術の体系及び具体的な方法が理解できている。 単位認定の最低基準：場面に応じた適切な援助方法が活用できる 【ディプロマポリシーとの関係】 論理的思考・問題解決力、倫理的、社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力 【履修カルテの評価項目】 ①ソーシャルワーク専門職として、社会福祉士が果たすべき役割としての援助技術の必要性とあり方を理解できたか。 ②社会福祉相談援助の理念、概念、範囲を理解できたか。 ③社会福祉援助技術の体系と主な援助技術の方法及び内容を理解できたか。			
受講資格	人間生活学科 福祉コース	成績評価 方法	定期試験80点☒演習参加状況20%	
教科書	新・社会福祉士養成講座 8 ☒ 「相談援助の理論と方法Ⅱ」（中央法規）			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	・ソーシャルワークの機能を理解し、実践できるようにしてください。			
オフィスタイム	熊田 金曜日Ⅲ・Ⅳ時限 創学館4F、No.6研究室☒ 近内 月曜日Ⅳ時限・水曜日Ⅳ時限 創学館4F、No.6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	総合的かつ包括的な支援の考え方（1）熊田	・多様化・複雑化した生活課題への対応 ・多様化・複雑化した生活課題への対応のプロセスとスキル	・新聞等を参考にし、現代社会における生活課題を書き出しておく	30
2	総合的かつ包括的な支援の考え方（2）熊田	・今日的な地域社会における課題とその対応	・自分の住む地域の「今日的な地域社会における課題」についてまとめる	30
3	ケアマネジメント①熊田	・ケアマネジメントとは何か、展開過程について理解する ・ケアマネジメントにおけるアセスメント方法を身につける	・ケアマネジメントの展開過程をテキストを参考に整理しておく	30
4	ケアマネジメント②熊田	・ケアマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する	・ケアマネジメントとソーシャルワークの関係についてまとめておく	30
5	カンファレンス①熊田	・社会福祉士としての業務や実践における会議	・社会福祉士がかかわる会議にはどのようなものがあるか調べておく	30
6	カンファレンス②熊田	・マイクロ・メゾ・マクロの会議	・事例を読んでおく	40
7	グループワーク①熊田	・グループワークとは何か、意義、援助展開について理解する	・グループワークの意義と方法についてまとめておく	40
8	グループワーク②近内	・自助グループワークの例を中心に相談援助の在り方を理解する	・自助グループワークについて調べまとめる	40
9	コーディネーションとネットワーク①近内	・チームアプローチとしての連携の重要性と必要性を理解する☒ ・コーディネーションの目的、意義、方法、技術を理解する	・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	コーディネーションとネットワーキング② 近内	・コーディネーションの方法と技術を理解し、さらにコーディネーションにおける留意点を知り、実際のコーディネート業務に応用できるようにする	・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する	30
11	コーディネーションとネットワーキング③ 近内	・ネットワークの意義、目的、方法を身につけることができる☑ ・コーディネーションが有効に機能するための連携や協働の基盤となる結びつきが理解できる	・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する	30
12	コーディネーションとネットワーキング④ 近内	・ネットワークを行うにはどのようにしたらよいのか、実際のケースカンファレンスや多職種連携の場面を想定し、理解を深める	・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する	30
13	コーディネーションとネットワーキング⑤ 近内	・地域包括ケアシステムや、地域トータルサポートシステム等の構築、地域福祉を推進していくための総合的なネットワークの形成とシステム化について理解することができる	・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する	30
14	相談援助における社会資源の活用・調整・開発 ① 近内	・利用者のもつ福祉課題やニーズを解決するための社会資源の活用、調整、開発の意義や目的、方法について理解することができる	・テキストで授業内容を確認する。 ・課題（ソーシャルアクションとアドボカシーについて）	60
15	相談援助における社会資源の活用・調整・開発 ② 近内	・社会資源の活用、調整、開発の意義や目的の理解をし、その方法についてさらに理解を深める。地域資源の開発と利用者の生活を充実していく社会開発・ソーシャルアクションの方法について理解をすることができる	・テキストで授業内容を確認する。 ・授業のポイントを整理する	30

科目名	医学一般	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 必修	
担当教員	大西 弘太郎			
開講期	前期			
授業概要	高齢者の健康管理に必要な医学知識を概説する。☒ ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。☒ ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準 HW2358			
達成目標	単位認定の最低基準：高齢者の健康にかんする基礎的知識が習得されていること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理観・社会的責任。			
受講資格	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年	成績評価 方法	小テスト (20%)☒ レポート (80%)	
教科書	人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版株式会社			
参考書	特になし			
学生への要望	双方向の授業を期待します。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。			
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日 13:00～17:00。 ☒ 木曜日 15:00～17:00。 ☒ 金曜日 08:30～17:00。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康寿命と平均寿命	主な死因と人口動態	寿命・死因・人口動態などについて予習・復習をしましょう。	120
2	高齢者の健康管理	高齢者の健康と死因	高齢者の疾患・死因などについて予習・復習をしましょう。	120
3	高齢者の感染症	日和見感染症☑ 院内感染症	日和見感染症・院内感染症などについて復習をしましょう。	120
4	認知症の諸問題	認知症とは☑ 認知症の疫学☑ 生理的健忘と認知症の健忘の異同☑ 認知症の中核症状とBPSD(行動・心理症状)☑ アルツハイマー病の概要☑ 脳血管性認知症の概要☑ 認知症の経過と予後	認知症について予習・復習をしましょう。	120
5	認知症とライフスタイル	認知症のリスクファクター☑ 認知症とライフスタイル☑ 認知症の予防	認知症について予習・復習をしましょう。	120
6	脳血管疾患 その1	脳卒中の疫学☑ 脳卒中の分類☑ 脳卒中のリスクファクター	脳血管障害について予習・復習をしましょう。	120
7	脳血管疾患 その2	脳梗塞の症状と治療☑ 脳出血の症状と治療☑	脳血管障害について予習・復習をしましょう。	120
8	呼吸器 その1	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	慢性閉塞性肺疾患(COPD)について予習・復習をしましょう。	120
9	呼吸器 その2	肺結核☑ ☑	結核について予習・復習をしましょう。	120
10	呼吸器 その3	高齢者と肺炎☑ 嚥下性肺炎☑ 予防とワクチン	肺炎について予習・復習をしましょう。	120
11	運動器 その1	ロコモティブシンドロームとは☑ 疫学☑ 治療と予防	ロコモティブシンドロームについて予習・復習をしましょう。	120
12	運動器 その2	高齢者と骨代謝	骨代謝、骨粗鬆症などについて予習・復習をしましょう。	120
13	運動器 その3	高齢者と骨折☑ 高齢者と易転倒性	骨折・転倒などについて予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	褥瘡	褥瘡とは☒ 褥瘡はなぜ危険か☒ 褥瘡の予防と治療	褥瘡について予習・復習をしましょう。	120
15	まとめ	要介護のリスク要因☒ 健康寿命とライフスタイル	(主として高齢者の)健康管理について予 習・復習をしましょう。	120

科目名	地域福祉論Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修	
担当教員	菊地 達美			
開講期	前期			
授業概要	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。☒ 実務経験：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。			
達成目標	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。			
受講資格	生活科学科福祉コース 2年	成績評価 方法	レポート提出50点、国家模擬試験50点	
教科書	「地域福祉の理論と方法」			
参考書	新・社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法☒ 中央法規			
学生への要望	国家試験の過去問を行っておくこと			
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常動控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講 義	地域福祉の発展過程	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	講 義	福祉サービスシステムとしての地域福祉	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	講 義	地域福祉の概念と体系化	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	講 義	地域自立支援と福祉圏域	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	講 義	地域コミュニティと社協・自治体の役割	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	講 義	地域福祉推進と福祉教育	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	講 義	福祉教育の内容及目標	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	講 義	地方分権と地域福祉計画	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	講 義	社会福祉協議会と社会福祉法人の役割	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	講 義	市民活動とコミュニティビジネス	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	講 義	コミュニティソーシャルワーク概念とシステム	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	講 義	チームアプローチとコミュニティソーシャルワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	講 義	専門職の役割と地域住民の関係	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	講 義	地域福祉推進と住民参加	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	講 義	市町村自治体と住民参加	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	地域福祉論Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択	
担当教員	菊地 達美			
開講期	後期			
授業概要	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。☒ 実務経験：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。			
達成目標	地域福祉における理論や体系について深め地域福祉の理念と内容について理解する。また、地域福祉の実践や政策的展開についても学ぶとともに、地域福祉計画や地域推進の意義やシステムについても理解を進める。			
受講資格	生活科学科 2年	成績評価 方法	レポート提出50点、国家模擬試験50点	
教科書	新・社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法 中央法規			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	国家試験の過去問を行っておくこと			
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講 義	ソーシャルサポートネットワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	講 義	ソーシャルサポートとコミュニティソーシャルワーク	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	講 義	社会資源の活用	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	講 義	福祉サービスの開発	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	講 義	まち作りとソーシャルアクション	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	講 義	地域生活における福祉ニーズ	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	講 義	福祉ニーズの把握	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	演 習	地域トータルケアシステムの展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	演 習	地域トータルケアシステムの展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	講 義	福祉サービスの評価と背景	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	講 義	福祉サービス評価の方法	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	講 義	プログラム評価と展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	講 義	イギリスの地域福祉	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	講 義	アメリカの地域福祉	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	講 義	地域福祉論のまとめ	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	福祉行財政と福祉計画	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	遠藤 広文		
開講期	後期		
授業概要	国や地方自治体における行財政や各種福祉計画の体系及び策定手順を理解し、財政の仕組みと福祉計画の視点を学ぶ。☑ 郡山市保健福祉部において各種の福祉計画策定に従事した経験を活かして、計画策定における具体的な事例を示すなど、理解が進むように授業を進める。☑ 実務経験：郡山市に36年勤務し、福祉部門として福祉事務所社会福祉課（社会福祉主事、3年間）をはじめ及び保健福祉部（部長、4年間）を経験☑ 課題やレポートなど、最終事業で☑ 全体に対するフィードバックを行います。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2461		
達成目標	①福祉行財政の実施体制（役割や財政、各機関との関係性、専門職の役割など）や実際について理解する。☑ ②福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。☑ 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること」☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	生活科学科福祉コース	成績評価 方法	定期試験50％、課題50％。
教科書	新・社会福祉士養成講座10 ☑ 「福祉行財政と福祉計画」中央法規		
参考書	適宜指示する。		
学生への要望	・専門用語など難解な単語を事前に学習し、授業内容の理解に努めてほしい。☑ ・主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。		
オフィスタイム	月曜日Ⅳ時限・金曜日Ⅲ時限☑ 創学館4F、No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	福祉行財政と福祉計画 1	・オリエンテーション☑ ・福祉と制度☑ 2回目以降適宜単元テストを行う。また、適時、学生自身の考えや発想を発表し、ディスカッションやグループワークを取り入れた双方向型の授業を行う。	・テキストで授業内容を確認する☑ ・授業のポイントをまとめる	45
2	福祉行財政と福祉計画 2	・社会福祉の法制度の展開 ・福祉計画の概要	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめ振り返る	45
3	福祉行政 1	・行政の骨格 ・社会福祉と法制度	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
4	福祉行政 2	・福祉行政の組織 ・社会福祉基礎構造	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
5	福祉財政 1	・財政と社会福祉 ・一般会計予算と社会保障関係費の動向 ・地方自治体の財政と民生費の動向	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
6	福祉財政 2	・民間社会福祉事業の財源 ・福祉サービスの利用と費用負担	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
7	福祉行財政の組織・団体と専門職の役割 1	・社会福祉基礎構造改革 ・相談過程と体制	・テキストで授業内容を確認する ・課題を行う（社会保障費・民生費について）	90
8	福祉行財政の組織・団体と専門職の役割 2	・専門諸機関について	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
9	福祉行財政の組織・団体と専門職の役割 3	・地域の相談システム ・専門職	・テキストで授業内容を確認する ・課題を行う（各種福祉計画の目的と連動性）	90
10	福祉計画の目的と意義	・福祉計画の目的と意義 ・福祉援助の現場から福祉計画へ ・計画のサイクルと福祉援助の現場	・テキストで授業内容を確認する ・授業のポイントをまとめる	45
11	福祉計画の理論と技法 1	・福祉計画の基本的視点 ・福祉計画の過程と留意点	・テキストで授業内容を確認する☑ ・授業のポイントをまとめる	45
12	福祉計画の理論と技法 2	・福祉計画におけるニーズ把握 ・福祉計画における評価 ・福祉計画における住民参加	・テキストで授業内容を確認する☑ ・授業のポイントをまとめる	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	福祉計画の実際 1	・福祉計画の事例研究の視点 ・老人福祉計画。介護保険事業計画	・テキストで授業内容を確認する☑ ・授業のポイントをまとめる	45
14	福祉計画の実際 2	・障害者計画・障害福祉計画 ・次世代育成支援行動計画	・テキストで授業内容を確認する☑ ・授業のポイントをまとめる	45
15	福祉計画の実際 4 まとめ	・地域福祉計画 ・課題、レポートなどのフィードバック	・不明な単語の意味を調べる☑ ・授業のポイントをまとめる	45

科目名	福祉サービスの組織と経営	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択	
担当教員	近内 直美			
開講期	前期			
授業概要	社会福祉施設を運営していくうえで必要な制度や管理運営について学び、地域の中で活動を展開するために必要な方法を学ぶ。☒ 社会福祉法人での勤務経験を活かし、福祉理念に基づく「福祉経営及び運営」の在り方を考える授業を行う。☒ 課題やレポートについて、最終授業でコメントや質疑応答によりフィードバックします。☒ 実務経歴：社会福祉法人笑風会 事業部長として勤務☒ ☒ 位置づけ・水準 HW2462			
達成目標	①ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解する☒ ②社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法を理解する☒ ③福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等について理解する ④福祉サービスに求められる☒祉人材マネジメントについて理解する 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること。」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科福祉コース	成績評価 方法	試験70％、課題30％	
教科書	最新社会福祉士養成講座 1福祉サービスの組織と経営 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育教育学校連盟編集 中央法規出版			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	社会福祉施設や団体の概要とその運営について必要な理念や理論を理解してください。 また、人事管理、運営管理の必要性と理論について理解してください これらについて幅広い視点を持ち、テキスト以外の書物も活用し、知識を吸収してください			
オフィスタイム	月曜日Ⅳ時限、水曜日Ⅲ時限☒ 創学館4F、NO. 6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業の進め方等について 不明な単語などの自主学習を行った発表や福祉・医療に関する組織の運営や経営について意見交換を行うなど、双方向型の授業を2回目以降適時行う。	「福祉サービスの組織と経営」についての概要を知る	30
2	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割①	・福祉サービスを提供する組織	・テキストで予習を行う☒ ・授業内容のポイントをまとめる	60
3	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割②	・福祉サービスの沿革と概要	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	60
4	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割③	・組織間連携と促進	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
5	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論①	・組織運営に関する基礎理論	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
6	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論②	・集団の力学に関する基礎理論	・テキストにて予習する☒ ・授業のポイントをまとめる	60
7	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論③	・リーダーシップに関する基礎理論	・テキストにて予習する	60
8	福祉サービス提供組織の経営と実際①	・経営体制	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
9	福祉サービス提供組織の経営と実際②	・福祉サービスの提供組織のコンプライアンスとガバナンス	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
10	福祉サービス提供組織の経営と実際③	・適切な福祉サービスの経営管理	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
11	福祉サービス提供組織の経営と実際④	・情報管理	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
12	福祉サービス提供組織の経営と実際⑤	・会計管理と財務管理	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
13	福祉人材のマネジメント①	・福祉人材のマネジメント	・テキストにて予習する☒ ・課題を行う	60
14	福祉人材のマネジメント②	・福祉人材の育成	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60
15	福祉人材のマネジメント③ まとめ	・働きやすい労働環境の整備 ・全体の振り返り	・テキストにて予習する ・授業のポイントをまとめる	60

科目名	公的扶助論	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	後期			
授業概要	公的扶助は、現代社会が生み出す貧困・低所得者問題に対応する制度的な取り組みを指し、社会保障・社会福祉制度の最後のセーフティネットと位置付けられている。そこで、公的扶助の概念や意義と、生活保護制度や低所得者対策のしくみとその動向を学ぶとともに、貧困・低所得者に対する相談援助活動の実際を事例を通じて理解し、実践活動に役立てられるようにする。☒ 課題に対するフィードバック方法 課題を返却し、コメントによるフィードバックを行う 位置づけ・水準 HW2363			
達成目標	【達成目標】 ①公的扶助の概念や意義は理解できたか。☒ ②生活保護制度や低所得者対策のしくみ、その動向を理解できたか。☒ ③貧困・低所得者に対する相談援助活動の実際を理解できたか。☒ 【単位認定の最低基準】生活保護制度の実施体制と仕組みが7割理解できている。 【ディプロマ・ポリシーとの関係】知識・理解、論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70％、課題30％。☒	
教科書	最新社会福祉士養成講座 4 ☒ 「貧困に対する支援」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規			
参考書	適宜指示する。			
学生への要望	生活保護を取り巻く社会の状況に関心を持ってください。☒ 予習・復習を心掛けて下さい。☒ ☒			
オフィスタイム	月曜日・水曜日 I 時限☒ 創学館4F、No.6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 公的扶助の概念（1）	授業の概略の説明 国家試験の出題実績について解説 公的扶助の概念と範囲	・テキストで低所得者支援の概略を確認する	40
2	公的扶助の概念（2） 貧困の概念	公的扶助の意義と役割 貧困の概念	・貧困の概念について調べる	30
3	貧困状態にある人の生活実態と これを取り巻く社会環境	貧困状態にある人の生活実態 貧困状態にある人を取り巻く社会環境	・「家庭の生活実態及び生活意識に関する調査」を閲覧し、テキストで取り上げていない項目について調べる	60
4	貧困の歴史	貧困状態にある人に対する福祉の理念 貧困観の変遷 貧困に対する制度の発展過程	・時代によって変化した貧困状態を調べておく	60
5	生活保護制度（1）	生活保護制度の原理☑原則 保護の種類と内容および方法	・生活保護制度の原理・原則を調べる	60
6	生活保護制度（2）	被保護者の権利および義務	・現在の生活保護基準額を調べる	60
7	生活保護の動向	保護率、被保護人員及び被保護世帯の動向について学ぶ 保護の開始、廃止の動向	・生活保護制度を利用している被保護世帯の動向について調べる	60
8	低所得者に対する法制度（1）	生活困窮者自立支援法に基づく各事業の概要	・生活困窮者の抱える複合的な課題について調べる	60
9	低所得者に対する法制度（2）	生活福祉資金貸付制度 低所得者対策	・自分の住む地域の減免措置について調べる	40
10	ホームレス対策	ホームレスの生活実態とホームレス自立支援法	・自分の住む地域のホームレスの実態やどのような対策が取られているかを調べる。	50
11	貧困に対する支援における関係 機関と専門職の役割（1）	公私の役割関係 国、都道府県、市町村の役割	・自分の住む地域の貧困に対する支援の実施体制について調べる	50
12	貧困に対する支援における関係 機関と専門職の役割（2）	福祉事務所の役割 自立相談支援機関の役割	・自分の住む市町村の福祉事務所の業務を調べる	50
13	貧困に対する支援における関係 機関と専門職の役割（3）	関係機関の役割 関連する専門職の役割	・貧困状態にある子どもが学校等で発見された場合、どのような支援が行われているか調べる	40
14	貧困に対する支援の実例（1）	貧困に対する支援と社会福祉士	・テキストにより予習しておく	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	貧困に対する支援の実際（2）	支援に必要とされる視点と基本姿勢 生活保護における相談援助活動の枠組み	・事例を読み、社会福祉士の支援の視点を考える	30

科目名	保健医療サービス	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択	
担当教員	近内 直美			
開講期	前期			
授業概要	保健医療サービスの基本的な構造を理解し、医療ソーシャルワーカーの利用者支援に必要な事柄を習得する。☑ 事例を用いて、支援の理解を深める。☑ 課題やレポートは最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑ ☑合病院でのソーシャルワーカーとしての経験を活かし、実践力を養う授業を行う 実務経験：太田綜合病院ソーシャルワーカーとして勤務 位置づけ・水準 HW2464			
達成目標	①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する ②保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する ③保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する ④保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解する 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること」☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	生活科学科 福祉コース	成績評価 方法	試験70％、課題30％	
教科書	最新社会福祉士養成講座 5保健医療と福祉 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規出版			
参考書	適宜指示する			
学生への要望	医療法等の法律や制度の仕組みを習得し、専門用語の理解に努めてください。			
オフィスタイム	月曜日Ⅳ時限、水曜日Ⅳ時限☑ 創学館 4 F 研究室No. 6			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 保健医療の課題を持つ人の理解 1	・授業概要の説明☑ ・病者の理解 医療に関する制度や不明な言葉についてなど課題の発表 やグループワークなど双方向型授業を2回目以降も適時行っ ていく。	・保健医療サービス（福祉）の概要を知る	15
2	保健医療の課題を持つ人の理解 2	・家族の理解 ・患者の理解	疾病や障がいによって起こる生活課題につ いて理解する	45
3	医療倫理 1	・医療倫理と倫理的課題	・不明な単語の意味を調べる ・課題を行う（医療施設の機能・類型）	45
4	医療倫理 2	・患者の意思決定をめぐる課題	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
5	保健医療の動向 1	・疾病構造の変化	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
6	保健医療の動向 2	・入院医療から在宅医療/病院完結型医療から地域完結型医 療へ ・保健医療における福祉的課題	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
7	保健医療領域に必要な政策・制 度およびサービスに関する知識 1	・保健医療の政策・制度 ・保健医療サービスの提供体制①	・不明な単語の意味を調べる☑ ・授業のポイントをまとめる	45
8	保健医療領域に必要な政策・制 度およびサービスに関する知識 2	・保健医療サービスの提供体制②	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	90
9	保健医療領域に必要な政策・制 度およびサービスに関する知識 3	・医療費の保障①	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
10	保健医療領域に必要な政策・制 度およびサービスに関する知識 4	・医療費の保障②	・不明な単語の意味を調べる☑ ・授業のポイントをまとめる	45
11	保健医療領域における専門職の 役割と連携①	・保健医療領域における専門職と院内連携	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
12	保健医療領域における専門職の 役割と連携②	・地域医療との連携の実際	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
13	保健医療領域における専門職の 役割と連携③	・医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門の 構築	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45
14	保健医療における支援の実際①	・保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	保健医療における支援の実際①	・保健医療領域における支援の実際 ・課題やレポートについて全体的なフィードバックを行う	・不明な単語の意味を調べる ・授業のポイントをまとめる	45

科目名	権利擁護と成年後見制度	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 必修	
担当教員	鈴木 康元			
開講期	後期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう☑ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☑ 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解☑ 実務経験：弁護士として、法律事務所長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：弁護士として、法律事務所長として勤務。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☑ 権利擁護の重要性と成年後見制度の実際及び更生保護制度について理解する☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 人権や民法の基本知識を教え、成年後見制度等の実態も理解してもらう☑ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕☑ 成年後見制度、更生保護制度の概要の理解☑			
受講資格	人間生活学科福祉コース 3 年	成績評価 方法	ペーパーテスト(80%)と出席状況(20%)	
教科書	その都度指定する☑ 配付資料			
参考書	その都度指定する☑ 配付資料			
学生への要望	積極的に授業に臨むこと			
オフィスタイム	授業開始前：創学館 2 階教務部非常勤講師室☑ 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	1 高齢者・障害者の人権と権利擁護	高齢者・障害者の人権と権利擁護	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	30
2	2 意思能力とは何か（民法の理解を含む）	意思能力とは何か（民法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	3 相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）	相談援助活動と法（日本国憲法、民法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	4 相談援助活動と法（行政法の理解を含む）	相談援助活動と法（行政法の理解を含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	5 成年後見制度とは何か（基本理解）	成年後見制度とは何か（基本理解）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	6 成年後見制度の運用実態（問題点も含む）	成年後見制度の運用実態（問題点も含む）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	7 日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について	日常生活自立支援及び成年後見制度利用支援事業について	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	8 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際（地方公共団体、社会福祉協議会、弁護士会等の役割）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	9 権利擁護活動の実際	権利擁護活動の実際	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	10 刑事司法、少年法の基本理解	刑事司法、少年法の基本理解	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	11 更生保護制度の概要（その必要性）	更生保護制度の概要（その必要性）	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	12 更生保護制度の担い手	更生保護制度の担い手	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	13 更生保護制度における関連機関・団体との連携	更生保護制度における関連機関・団体との連携	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	14 医療観察制度の概要	医療観察制度の概要	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	15 更生保護における近年の動向と課題	更生保護における近年の動向と課題	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	相談援助演習Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択	
担当教員	菊地 達美			
開講期	前期			
授業概要	個々人への総合的・包括的な支援や地域福祉の基盤整備、開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、援助場面を想定した実技指導を中心に授業を進める。☑ 実務経験：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。			
達成目標	個々人への総合的・包括的な支援や地域福祉の基盤整備、開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、援助場面を想定した実技指導を中心に授業を進める。			
受講資格	生活科学科福祉コース 3年	成績評価 方法	支援計画書等の提出60点、演習姿勢40点	
教科書	社会福祉士 相談援助演習 中央法規☑ 及びプリント配布			
参考書	介護記録の書き方・読み方・生かし方 中央法規			
学生への要望	PCを使用し各種計画書を作成する。			
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講 義	相談援助演習の概要	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	講 義	社会福祉サービス体制について(介護保険サービス)	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	講 義	社会福祉サービス体制について(障害者自立支援サービス)	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	演 習	対人援助における他者の理解	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	演 習	対象者と社会診断	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	演 習	他者の「思い」の理解	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	演 習	支援記録と実習記録	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	演 習	相談援助における面接の目的	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	演 習	インテーク面接のあり方	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	演 習	面接の基本と展開	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	演 習	要介護認定と障害程度区分認定について	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	演 習	福祉サービス利用計画と個別支援計画作成	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	演 習	地域包括支援における支援計画	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	演 習	介護計画と地域密着型介護サービス	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	演 習	障害福祉計画と障害者自立支援協議会の役割	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	相談援助演習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択	
担当教員	菊地 達美			
開講期	後期			
授業概要	相談援助における多様性、分野別技術の演習を中心に行い応用能力を向上させ福祉サービス利用者の個別ニーズに柔軟性のある福祉サービス提供者としての専門性を高める。☒ 実務経験：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務する経験を活かし、授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人勤務を経て、現在社会福祉法人施設長として勤務。			
達成目標	相談援助における多様性、分野別技術の演習を中心に行い応用能力を向上させ福祉サービス利用者の個別ニーズに柔軟性のある福祉サービス提供者としての専門性を高める。			
受講資格	生活科学科 3年	成績評価 方法	支援計画書の提出60点☒ 演習姿勢40点	
教科書	社会福祉士 相談援助演習 中央法規			
参考書	介護記録の書き方・読み方・生かし方 中央法規			
学生への要望	PCを使用し計画書の作成を行う			
オフィスタイム	月曜Ⅱ orⅣ限の教務部非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講 義	地域生活支援のケアプランの特徴		0
2	講 義	施設ケアプランの特徴		0
3	演 習	地域の支援課題と住民による支援のコーディネート		0
4	演 習	地域の支援課題と住民による支援のコーディネート		0
5	演 習	心理社会的アプローチに関する相談支援		0
6	演 習	心理社会的アプローチに関する相談支援		0
7	演 習	入所施設ケアプランと相談支援について		0
8	演 習	入所施設ケアプランと相談支援について		0
9	演 習	触法と与刑者アプローチと相談支援		0
10	演 習	触法と与刑者アプローチと相談支援		0
11	演 習	見えないニーズと権利擁護支援		0
12	演 習	生活目標設定における相談支援		0
13	演 習	個別支援計画の作成		0
14	演 習	グループ支援計画の作成		0
15	演 習	支援会議とモニタリング		0

科目名	相談援助演習Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択
担当教員	近内 直美,熊田 伸子		
開講期	前期		
授業概要	①ソーシャルワークの理論、モデルの枠組みについて理解する。☑ ②人と環境とその相互作用について、ソーシャルワーカー固有の概念に基づいて理解する。☑ ③理論あるいはモデルに準拠して人と環境とその相互作用を理解し、実際の援助技術の活用について理解する。☑ 近内直美 地域包括支援センターでの社会福祉士の経験を活かし、実践に結びつく授業を行う。☑ 実務経験：郡山中央地域包括支援センター（所長・社会福祉士）☑ 課題やレポートは最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2464		
達成目標	①ソーシャルワークの理論、モデルの枠組みを理解できたか。☑ ②人と環境とその相互作用について、ソーシャルワーカーとして理解し説明できるか。☑ ③理論あるいはモデルに準拠して人と環境とその相互作用を理解し、実際に援助技術を活用できるか。☑ 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること」☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	相談援助演習Ⅰ・Ⅱを修了していることを原則とする。	成績評価 方法	演習への参加姿勢80％、課題20％
教科書	「社会福祉士 相談援助演習」第2版 中央法規		
参考書	適宜指示する。		
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。		
オフィスタイム	熊田：金曜日Ⅲ時限・Ⅳ時限 創学館4F No.6研究室☑ 近内：月曜日Ⅳ時限・水曜日Ⅳ時限 創学館4F No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 近内	相談援助とは1 ☑ 2回目以降も含め、授業内容に応じて、ディスカッションを行うなど、双方向型の授業を行う	・相談援助を行う上で必要な振り返りを行う ☑	15
2	オリエンテーション② 近内	相談援助とは2	・相談援助のポイントをテキストで振り返りをしておく ☑ ・相談援助のついてポイントをまとめる	30
3	地域を基盤とした相談援助演習1 近内	地域福祉計画の策定についての発表及び相談援助演習 ☑	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
4	地域を基盤とした相談援助演習1－② 近内	地域におけるサービス提供の発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
5	地域を基盤とした相談援助演習2 近内	地域におけるネットワーキングにについての発表及び相談援助演習 ☑	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
6	地域を基盤とした相談援助演習2－② 近内	地域における権利擁護活動に関する発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
7	地域を基盤とした相談援助演習3 近内	社会資源の把握、活用、調整、開発に関する発表及び相談援助演習 ☑	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
8	地域を基盤とした相談援助演習3－② 近内	住民参加と組織化活動に関する発表及び相談援助演習	・不明な単語の意味を調べる ・発表担当時には発表の準備を行う ・授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 1 近内	医学モデル・社会モデル・生活モデルに関する発表及び相談援助演習☒	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
10	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 1 - ② 近内	ストレングスモデルに関する発表及び相談援助演習	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
11	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 2 近内	心理社会的アプローチに関する発表及び相談援助演習☒	・ 不明な単語の意味を調べる☒ ・ 発表担当時には発表の準備を行う☒ ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
12	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 2 - ② 近内	問題解決アプローチに関する発表及び相談援助演習	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
13	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 3 近内	危機介入アプローチに関する発表及び相談援助演習☒	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
14	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 3 - ② 近内	行動変容アプローチに関する相談発表及び援助演習	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
15	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 4 近内	認知行動療法に関する発表及び相談援助演習☒	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
16	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 4 - ② 近内	エンパワメントアプローチに関する発表及び相談援助演習	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
17	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 5 近内	ナラティブアプローチに関する発表及び相談援助演習☒☒	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
18	実践モデルやアプローチに関する相談援助演習 5 - ② 近内	家族システム論に関する発表及び相談援助演習	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
19	社会問題を基盤とした相談援助演習 1 熊田	社会的排除に関する発表及び相談援助演習①	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
20	社会問題を基盤とした相談援助演習 1 - ② 熊田	社会的排除に関する発表及び相談援助演習②	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
21	社会問題を基盤とした相談援助演習 2 熊田	ミクロ・メゾ・マクロ実践に焦点を当てた発表及び相談援助演習①	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
22	社会問題を基盤とした相談援助演習 2 - ② 熊田	ミクロ・メゾ・マクロ実践に焦点を当てた発表及び相談援助演習②	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
23	社会問題を基盤とした相談援助演習 3 熊田	サービス評価に関する発表及び相談援助演習☒	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	社会問題を基盤とした相談援助演習 3－② 熊田	就労支援（障がい者）に関する発表及び相談援助演習	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
25	社会問題を基盤とした相談援助演習 4 熊田	就労支援（母子）に関する発表及び相談援助演習☒	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
26	社会問題を基盤とした相談援助演習 4－② 熊田	病院からの退院に関する発表及び相談援助演習	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
27	社会問題を基盤とした相談援助演習 5 熊田	家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス：DV）に関する発表及び相談援助演習☒	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
28	社会問題を基盤とした相談援助演習 5－② 熊田	虐待についての発表及び相談援助演習	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
29	対象者別にみた相談援助演習 熊田	低所得者についての発表及び相談援助演習☒	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30
30	対象者別にみた相談援助演習 熊田	高齢者（要介護者）とその家族についての発表及び相談援助演習	・ 不明な単語の意味を調べる ・ 発表担当時には発表の準備を行う ・ 授業のポイントをまとめ、事例を振り返る	30

科目名	相談援助実習指導Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子,近内 直美		
開講期	前期		
授業概要	①相談援助実習の意義について理解する。 ②相談援助に係る専門的知識・専門的技術について、具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。 ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等への理解を深める。 近内が地域包括支援センターや病院での相談業務の経験を活かし、社会福祉士の役割や専門性について授業を行う。 実務経験 地域包括支援センターへ社会福祉士として勤務、相談業務にあたる。 課題に対するフィードバックの方法 ・レポート・課題を添削・返却し、コメントによるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 HW2371		
達成目標	①実習分野と施設・事業者・機関に関して基本的に理解できている。☑ ②実習先の相談援助で必要とされる知識と技術が活用できる。☑ 単位認定の最低基準：実習前に、実習を行う分野・利用者について7割が理解できている。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	社会福祉士課程履修登録者	成績評価 方法	課題50%、演習50%☑
教科書	「ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習」☑ 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規		
参考書	適宜紹介します		
学生への要望	ソーシャルワーク専門職養成における実習および実習指導の意義を理解してください。		
オフィスタイム	熊田 金曜日Ⅲ・Ⅳ時限 創学館4F、No.6研究室 近内 月曜日Ⅳ時限・水曜日Ⅳ時限 創学館4F、No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 熊田	・授業概要の説明 ・社会福祉士の役割・資格・働く領域 ・講義－演習－実習の循環	・社会福祉士が働く場を調べる ・社会福祉士の専門性について予習する	30
2	ソーシャルワーク実習の目的と構造（1） 熊田	・実習及び実習指導の意義と目的 ・実習におけるスーパービジョン	・テキストの「ソーシャルワーク実習」 「ソーシャルワーク実習指導」の目的および教育内容を読んでおく	30
3	ソーシャルワーク実習の目的と構造（2） 近内	・実習における教育評価 ・実習の構造	・相談援助実習ガイドラインに目を通して おく	30
4	ソーシャルワーク実習の目的と構造（3） 近内	・実習におけるリスクマネジメント	・実習に関連したリスクについて調べ、文 章にまとめておく	30
5	社会福祉士としての職業倫理 近内	・日本社会福祉士会の倫理綱領☑ ・社会福祉士の行動規範	・テキストで授業内容を確認する ・授業の内容を整理する	30
6	相談援助実習スーパービジョンの理解 近内	・スーパービジョンの意味と機能☑ ・実習スーパービジョン関係の理解	・テキストで授業内容を確認する ・授業の内容を整理する	30
7	実習先決定に向けた準備 熊田	・ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解	・自分の地域でソーシャルワーク実習を学 ぶことのできる施設・機関を調べる	30
8	実習先決定後の事前学習① 熊田	・自己の実習先機関・施設、利用者、地域の理解	・実習施設・機関について情報収集を行う ・利用者の特徴を調べる	30
9	実習先決定後の事前学習② 熊田	・実習先機関・施設、地域の理解☑ ・発表	・発表内容をまとめる	90
10	実習計画書の作成① 熊田	・実習目標と課題の設定☑ ・実習計画書の作成	・自己の実習目標を立てる ・ガイドラインを参考に実習計画書を作成 する	90
11	実習計画書の作成② 熊田	・実習計画書の作成と提出	・ガイドラインを参考に実習計画書を作成 する	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	実習の実際① 近内	・利用者やその関係者、施設・事業者等との人間関係の形成	・実習を通して人間関係の形成を学ぶ意義を考える	30
13	実習の実際② 近内	・多職種連携及びチームアプローチ	・社会福祉士が連携する専門職とその役割を調べる	60
14	実習先への事前訪問の意義 近内	・実習先の様子の把握☑ ・実習内容に関する共通認識づくり☑	・実習生個人調書の作成 ・事前訪問する際の質問項目等を作成する	60
15	まとめ 近内	・実習直前の最終確認 ・実習中に起こりうる問題への防止と対策を学ぶ	・実習を行うにあたり、ソーシャルワーカーとして実習の目的、意義を復習する ・スーパービジョンの受け方を復習する	45

科目名	相談援助実習指導Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ ・相談援助実習の意義や目的を理解することができ、養成校で学ぶ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるよう、また、実践的な技術等を体得できるようにする。☑ ・実習体験を通して、大学の講義で学んだソーシャルワークの価値・知識・技術がどのように現場実践で活かされているのかを振り返る。☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ ・体験した相談援助実習からソーシャルワーカーに必要な価値・知識・技術がどのように現場実践で展開されているか抽出を行いながら振り返ります。☑ ・他の学生の実習体験も学びながら、それぞれ違う施設であっても共通の価値や技術を元に社会福祉士が業務を行っていることを学びます。☑ ・また実習体験を振り返りながら、あらためて実習計画を立て直し、職場・職種・ソーシャルワーク実習の三段階実習の形に組み立て直します。☑ ・上記を通じて社会福祉士としての必要な価値・知識・技術について体験的に理解することを目標にします。☑ ・近内が地域包括支援センターや病院での相談業務の経験を活かし、社会福祉士に求められる価値・知識・技術について授業を行う。 ☑題に対するフィードバックの方法☑ ・レポートを添削・返却し、コメントによるフィードバックを行う。☑ ☑置づけ・水準 HW2372		
達成目標	【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ・福祉に求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力が習得できるようにする。☑ 【単位認定の最低基準】実習先の相談援助で必要とされる知識と技術の活用方法が説明できる☑ 【ディプロマ・ポリシーとの関係】論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	社会福祉士課程履修登録者	成績評価 方法	演習(20点)とレポート(80点)による100点
教科書	8最新社会福祉士養成講座 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[社会専門] 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規出版		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	自己の相談援助実習の振り返りがしっかりとできていること。		
オフィスタイム	熊田 金曜日Ⅲ・Ⅳ時限 創学館4F、No.6研究室☑ 近内 月曜日Ⅳ時限、水曜日Ⅳ時限 創学館4F、No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 熊田	・相談援助実習をめぐる諸課題☑ ・授業の進め方について☑ ・ソーシャルワーク実習指導ガイドラインの再確認	相談援助実習指導ガイドラインに目を通しておく	50
2	実習目標の再確認 熊田	・手引きの説明 ・職場・職種・ソーシャルワーク実習について☑ ・実習施設についてソーシャルワーク実習指導ガイドラインと照らし合わせ、不足している情報を収集する	実習の手引きに目を通しておく	50
3	実習計画の作成 熊田	・ソーシャルワーク実習指導ガイドラインを参考にし、各自の実習目標に沿った実習計画を作成する☑	相談援助実習ガイドラインを確認する	60
4	実習計画の共有 熊田	・実習計画の発表と意見交換 ・実習計画の組み直し	意見を参考に実習計画を組み直す	60
5	アセスメントツールの使い方 熊田	・事例によりエコマップやジェノグラムを作成する	アセスメントツールについて確認しておく	30
6	先輩の実習体験から学ぶ 熊田	・先輩の実習体験を聞く	発表を聞いて、大事な要点をまとめる	30
7	施設における社会福祉士の役割 近内	・社会福祉士として求められる役割について	実習で迷った経験や指導者の対応から学んだことをまとめる。	30
8	施設における相談員の役割を学ぶ 近内	・施設におけるソーシャルワークの意義 ・施設における相談員の業務について	各自の実習先施設における相談員の役割をまとめる	60
9	施設における守秘義務について 近内	・施設・相談員における守秘義務について	守秘義務。プライバシーの保護についてまとめる	50
10	施設虐待について 近内	・施設における虐待防止法について	虐待防止法のポイントをまとめる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	施設虐待について 近内	・施設虐待の事例から学ぶ	虐待事例をまとめ、虐待が発生する理由、予防、対応等をまとめる	40
12	社会福祉士に求められる価値・知識・技術を振り返る① 近内	・リスクマネジメントとは ・リスクマネジメントを事例から学ぶ	リスクマネジメントの意味をまとめる	40
13	社会福祉士に求められる価値・知識・技術を振り返る② 近内	・施設における相談員の支援を事例から学ぶ	相談員の業務の実際を事例からまとめる	60
14	実習に必要な書類・実習計画表の確認 近内	・事前打ち合わせ及び実習先への提出書類の確認を行う ・実習における目標達成のため、PDCAサイクルを復習する。質疑応答により疑問点を解消する	実習目標の達成のためのポイントやプロセスを整理する	60
15	・まとめ 近内	・講義のまとめと振り返り	授業の内容を整理し、ノートにまとめる	30

科目名	相談援助実習指導Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	近内 直美,熊田 伸子		
開講期	前期		
授業概要	相談援助実習における積極性と福祉サービスを利用する人の背景を感じ取り理解と共感をもつ体験を得ると共に情報の整理や実習の準備、実習計画の作成、記録のあり方などを体験する。☒ 1回～8回を熊田、9～15回を近内が担当する☒ 近内が地域包括支援センターや病院での相談業務の経験を活かし、社会福祉士の役割や専門性について授業を行う。☒ 実務経験 地域包括支援センターへ社会福祉士として勤務、相談業務にあたる。☒ 課題に対するフィードバックの方法☒ ・実習計画書を添削・返却し、コメントによるフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準 HW2473		
達成目標	相談援助実習における積極性と福祉サービスを利用する人の背景を感じ取り理解と共感をもつ体験を得ると共に情報の整理や実習の準備、実習計画の作成、記録のあり方などを体験する。☒ ☒ 単位認定の最低基準：実習機関・施設の実際に応じた実習計画書を作成できる☒ 実習先の相談援助で必要とされる知識と技術の活用方法の8割が理解できている☒ ☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	社会福祉士課程履修登録者	成績評価 方法	実習計画書の作成 60% ☒ 演習40%
教科書	「社会福祉士 相談援助実習」☒ 白澤政和、米本秀仁編（中央法規）☒ 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修		
参考書	随時紹介する		
学生への要望	PCを使用し実習計画書の作成		
オフィスタイム	熊田 金曜日Ⅲ・Ⅳ時限（12:50～16:00）創学館4F、No.6研究室☒ 近内 水曜日Ⅰ時限（8：50～10：20）・金曜日Ⅲ時限（12:50～14:20）創学館4F、No.6研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講 義	相談援助実習Ⅰ・Ⅱの振り返り	相談援助実習Ⅰ・Ⅱの体験を通し、相談援助実習Ⅲの課題を考える。	60
2	講 義	相談援助実習までの計画	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
3	演 習	職場・職種実習のための準備	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
4	演 習	実習目標の立て方	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
5	演 習	実習目標の立て方	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
6	演 習	実習計画の内容設定	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
7	演 習	実習計画の内容設定	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
8	演 習	実習計画の内容設定	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
9	演 習	実習記録の意味と必要性	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
10	演 習	実習記録の意味と必要性	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
11	演 習	実習におけるスーパービジョンとその活用	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
12	演 習	実習におけるスーパービジョンとその活用	教科書を読む。授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
13	演 習	実習自己評価	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	演 習	実習他者評価	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	演 習	実習報告書の作成	授業内容を整理し、ノートにまとめる。	60

科目名	相談援助実習Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 1単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	・現場体験を通して、社会福祉専門職として仕事をする上で必要な「専門技術」、「専門援助技術」、☒「関連内容」の理解を深める☒ ・社会福祉援助に必要な資質・能力・技術を習得する。☒ ・近内が地域包括支援センター及び総合病院での相談業務の経験を活かし、スーパービジョンを行う☒ 実務経験：地域包括支援センター及び総合病院での相談業務☒ ☒本科目は、熊田伸子、近内直美の2名で担当し、週に1回の巡回指導を行う。☒ ・相談援助実習Ⅰは、1日8時間とし、相談援助実習Ⅱと合わせ、☒8日間継続して行う。☒ ・実習期間中は、1週間に1回以上、巡回教員が巡回指導を実施す☒。 課題に対するフィードバックの方法 ・実習日誌、実習報告書を添削・返却し、コメントによるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 HW2374			
達成目標	・実習施設の役割や機能が理解できている。☒ ・実習施設の利用者の特徴が理解できている。☒ ・実習施設の職種について理解できている。 単位認定の最低基準：実習先の評価で1（達成できなかった）がないこと ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任			
受講資格	人間生活学科福祉コース ☒ 社会福祉士課程履修者		成績評価 方法	実習施設の評価60% ☒ 巡回時の面接20%、実習日誌20%
教科書	最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 中央法規			
参考書	特になし			
学生への要望	・実習には明確な目的を持って臨むこと。☒ ・十分な事前学習の上で実習に臨むこと。☒ ☒ ・相談援助実習の時間数は、相談援助実習Ⅱと併せ、8日間（64時間）の実習を行うことが基準として定められている。			
オフィスタイム	・熊田 水曜日Ⅰ時限・金曜日Ⅲ時限☒ 創学館4階 No.6研究室 ・近内 月曜日Ⅳ時限・水曜日Ⅳ時限 創学館4階 No.6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	現場実習	・オリエンテーション ☒	・オリエンテーション時に必要な書類等を 確認する	20
2	現場実習	・実習施設・事業・機関の目的と機能を理解する ☒ ・生活相談員の仕事内容についての講義	・講義の内容をまとめる	50
3	現場実習	・実習施設・事業・機関の概要を理解する ☒ ・利用者とのコミュニケーション	・実習内容の振り返りと実習ノートのま とめ	60
4	現場実習	・利用者の概況を把握する ☒ ・ショートステイ送迎の同行等	・実習内容の振り返りと実習ノートのま とめ	60
5	現場実習	・職員の職種、役割を理解する ☒ ・多職種連携について学ぶ	・実習内容の振り返りと実習ノートのま とめ	60
6	現場実習	・関係機関、関係施設などとの連携や関連施設見学 などを行う	・実習内容の振り返りと実習ノートのま とめ	60
7	現場実習	・実習計画書の現場での再検討と具体的な内容を考える	・実習内容の振り返りと実習ノートのま とめ	60
8	現場実習	・現場が抱えている課題について、実習生としての 課題意識を深める	・実習内容の振り返りと実習ノートのま とめ	60
9	現場実習	・現場が抱えている課題や方向性、実習生としての 課題意識を深める	・実習内容の振り返りと実習ノートのま とめ	60
10	現場実習 熊田・近内	・巡回教員の助言及びスーパービジョンを受ける	・質問等を整理しておく。助言内容をま とめる	60
11	現場実習	・実態調査への同行訪問	・同行訪問を通し、学んだことをまとめる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	現場実習	・ケアカンファレンスへの同席☑	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ	60
13	現場実習	・施設に関連する法制度について学ぶ	・実習施設種別に関連する法制度を調べる	70
14	現場実習	・地域住民への働きかけの取り組みについて説明を受ける	・実習内容の振り返りと実習ノートのまとめ	60
15	現場実習	・達成課題について評価する	・8日間の実習の振り返りをまとめる	90

科目名	相談援助実習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 1単位 選択
担当教員	熊田 伸子		
開講期	後期		
授業概要	・現場体験を通して社会福祉専門職として仕事をする上で必要な「専門技術」「専門援助技術」「関連内容」の理解を深める☑ 本科目は、社会福祉施設での現場実習である。1日8時間の実習時間とし、相談援助実習Ⅰとあわせ、8日間（6 4 時間）を継続して☑う。 その間、熊田・近内が週に1回巡回指導を行う。☑ また、近内は、地域包括支援センター及び総合病院での相談業務の経験を活かし、スーパービジョンを行う。☑ 実務経験：地域包括支援センター及び総合病院で社会福祉士として相談業務の経験☑ 課題に対するフィードバックの方法 ・実習日誌、実習報告書を添削・返却し、コメントによるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 HW2375		
達成目標	実習施設の福祉的意義、利用者ニーズ、社会福祉士の役割を理解できている 単位認定の最低基準：実習先の評価で1（達成できなかった）がないこと		
受講資格	社会福祉士課程履修者	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・実習日誌20%
教科書	最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 中央法規		
参考書	必要に応じて紹介します		
学生への要望	・実習課題が達成できるように、積極的な態度で臨んでください		
オフィスタイム	熊田 金曜日の1・2時限 創学館4階No.6 研究室 近内 水曜日の1・2時限 創学館4階No.6 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	現場実習	現場の生活相談員による業務の説明を受ける	実習日誌のまとめ	60
2	現場実習	業務内容の観察、同席、同行により、生活相談員の役割を学ぶ	実習日誌のまとめ	60
3	現場実習 熊田・近内	利用者や家族との援助関係の形成について学ぶ 巡回教員によるスーパービジョンを受ける	実習日誌のまとめ	60
4	現場実習	現場におけるチームアプローチのあり方を学ぶ	実習日誌のまとめ	60
5	現場実習	現場におけるチームアプローチのあり方を学ぶ	実習日誌のまとめ	60
6	現場実習	多職種連携について具体的事例より学ぶ	実習日誌のまとめ	60
7	現場実習	多職種連携について具体的事例より学ぶ	実習日誌のまとめ	60
8	現場実習	事例検討会・ケースカンファレンス等に同席させていただき、関連する専門職の役割や業務内容について学ぶ	実習日誌のまとめ	60
9	現場実習	事例検討会・ケースカンファレンス等に同席させていただき、関連する専門職の役割や業務内容について学ぶ	実習日誌のまとめ	60
10	現場実習	利用者へのアセスメントの方法について学ぶ	実習日誌のまとめ	60
11	現場実習	利用者のニーズキャッチ	実習日誌のまとめ	60
12	現場実習	実地調査に同行し、相談員の役割を学ぶ 連携する専門職の役割を学ぶ	実習日誌のまとめ	60
13	現場実習	実地調査に同行し、相談員の役割を学ぶ 記録の意義を学ぶ	実習日誌のまとめ	60
14	現場実習	他機関との連携の在り方を学ぶ	実習日誌のまとめ	60
15	現場実習	実習の反省と振り返り☑ 日誌のまとめ	実習日誌のまとめ	60

科目名	相談援助実習Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	前期			
授業概要	・現場におけるソーシャルワーカーの役割を個別支援計画の作成、・スーパービジョン・情報公開・第三者 評価・苦情処理・危機管理・運営管理・関連職種との関係の中で体験的に理解する ・相談援助実習Ⅲは、1日8時間で15日間（120時間）の学外実習を行うことが基準として定められている。 同一施設で120時間以上の実習を行うことにより、社会福祉士国家試験の受験資格の要件を満たす。 ・近内が、地域包括支援センターでの相談業務の経験を活かして、ソーシャルワーク技術についてスーパービジョンを行う。 【実務経験】地域包括支援センターに相談業務（社会福祉士）の立場で勤務 ・実習施設の評価に対し、面談によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 HW2476			
達成目標	目標：相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的且つ実際に理解し、実践的な技術等を体得できている 単位認定の最低基準：実習施設におけるソーシャルワーカーの役割が理解できている（巡回時の面談、実習日誌、実習報告書で確認） ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・課題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	相談援助実習Ⅰ・Ⅱ修了者		成績評価 方法	実習施設の評価80%
教科書	社会福祉士 相談援助実習 社団法人日本社会福祉士養成校協会 中央法規			
参考書	特になし			
学生への要望	実習計画を明確にして、実習に臨むこと			
オフィスタイム	熊田 水曜日1時限目、金曜日3時限 創学館 4 階 No.6 研究室 近内 月曜日4時限目、水曜日4時限 創学館 4 階 No.6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	現場実習	・ソーシャルワーカーの機能・役割を理解する	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60
2	現場実習	・多職種連携について、具体的な事例により学ぶ	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60
3	現場実習 熊田・近内	・苦情処理、情報公開、第三者評価、危機管理、運営管理（アドミニストレーション）などを学ぶ ・巡回教員によるスーパービジョンを受ける	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60
4	現場実習	・利用者やその関係者と援助関係を作る能力を体得する ・個別援助計画の作成	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60
5	現場実習	・利用者やその関係者の問題解決能力を高めるように援助する能力を修得する ・個別援助計画の作成	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60
6	現場実習	・福祉専門職としての職業倫理、施設・事業・機関・団体の経営や職員の就業などに関する規定を学び、組織の一員として仕事を計画し、責任を果たす能力を修得する ・個別援助計画の作成	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60
7	現場実習	・実習先がコミュニティへの機関・施設であることを理解するとともに、具体的なコミュニティへの働きかけについて学び、その援助のための能力を修得する ・個別援助計画の作成	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60
8	現場実習 熊田・近内	・実習で得た課題、問題点などを整理する ・個別援助計画の作成 ・巡回教員によるスーパービジョンを受ける	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60
9	現場実習	・達成課題について中間評価を行う	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60
10	現場実習	・反省会を通し、今後のためのスーパービジョン・指導・助言を受ける	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60
11	現場実習	・個別援助計画の作成 ・実習記録をまとめる☑	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60
12	現場実習	・福祉専門職のあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自己を客観視し、解決すべき自己の課題を明確化し、理解を深める	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	現場実習 熊田・近内	・実習指導者および巡回教員によるスーパービジョンを受ける	・実習内容の振り返りと実習日誌のまとめ	70
14	現場実習	・実習報告書をまとめる準備をする	・実習報告書の準備	90
15	現場実習	・振り返りと反省会	・15日間の実習を振り返り、達成課題について評価する	60

科目名	介護の基本Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	通年		
授業概要	介護の基本Ⅱでは、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。☑ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、さらに最終授業で全体のフィードバックを行います。また、個々に演習課題に取り組み他者の発表をもとに再度、課題への多様な取り組みや方策を検討する。☑ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。☑ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☑ ☑ 位置づけ・水準 DW2205		
達成目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしぐみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。☑ ①多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できるようにする。☑ ②介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようにする。☑ ③介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できるようにする。☑ 単位認定の最低基準：介護従事者自身の健康管理について8割理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	試験70%☑ 課題レポート30%
教科書	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅱ」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	介護の一つひとつの行為には、根拠があります。行為が行われる意義を常に認識してください。		
オフィスタイム	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限☑ 創学館 4 階 No.1 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 介護福祉士を必要とする人の理解	介護の基本Ⅱ概略説明（評価方法）☑ 私たちの生活の理解	演習1-1私たちの生活の理解	60
2	介護福祉士を必要とする人の理解	演習1-1について発表、グループディスカッション 介護福祉を必要とする人たちの暮らし 1) 介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解する 2) 介護福祉を必要とする高齢者の暮らし	授業の中で指示されたことをまとめる	30
3	介護福祉士を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人たちの暮らし 3) 介護福祉を必要とする障害者の暮らし 4) 個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点	演習1-2介護福祉を必要とする人たちの暮らし	60
4	介護福祉士を必要とする人の理解	演習1-2について発表、グループディスカッション 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 1) 「その人らしさ」とは何か 2) 「その人らしさ」の背景 3) 「その人らしさ」の介護福祉における活用	授業の中で指示されたことをまとめる	30
5	介護福祉士を必要とする人の理解	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 4) 「生活ニーズ」の理解 5) 個々の生活ニーズにどこまでこたえるか	授業の中で指示されたことをまとめる	30
6	介護福祉士を必要とする人の理解	生活のしづらさの理解とその支援 1) 生活のしづらさについて考える 2) 日常生活から考える「生活のしづらさ」	授業の中で指示されたことをまとめる	30
7	介護福祉士を必要とする人の理解	生活のしづらさの理解とその支援 3) 「生活のしづらさ」に対する支援 4) 家族介護者への支援	授業の中で指示されたことをまとめる	30
8	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは 1) 高齢者のためのフォーマルサービスの概要 2) 障害者のためのフォーマルサービスの概要	授業の中で指示されたことをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは 1) 費用負担による区分 2) フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係 3) インフォーマルサービスの種類・提供者 4) 介護福祉士に求められる支援の視点	演習2-2生活を支えるインフォーマルサービス（視点サービス）とは	60
10	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	演習2-2について発表、グループディスカッション 地域連携 1) 地域連携の意義と目的 2) 地域連携にかかわる機関の理解 3) 利用者を取り巻く地域連携の実際	授業の中で指示されたことをまとめる	30
11	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護における安全の確保 1) 介護福祉士の責務と安全の確保 2) 介護の場におけるセーフティマネジメント	授業の中で指示されたことをまとめる	30
12	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護における安全の確保 3) 安全を重要視する組織風土の醸成 4) 利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供を第一に考える	授業の中で指示されたことをまとめる	30
13	介護における安全の確保とリスクマネジメント	リスクマネジメントとは何か 1) 尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント 2) ルールや約束事を守ることの重要性 3) 福祉サービスに求められる安全・安心	授業の中で指示されたことをまとめる	30
14	介護における安全の確保とリスクマネジメント	リスクマネジメントとは何か 4) 事故防止のための対策 5) 終わりに	演習3-1身体拘束の廃止について	60
15	介護における安全の確保とリスクマネジメント	演習3-1について発表、グループディスカッション 感染症対策 1) 介護福祉職に必要な感染に関する知識 2) 安全な薬物療法を支える視点・連携 3) 終わりに	演習3-2感染予防のための観察ポイント	60
16	協働する多職種の機能と役割	演習3-2について発表、グループディスカッション 協働する多職種の機能と役割 1) 多職種連携・協働とは 2) 多職種連携・協働を要請する社会の働き 3) なぜ、多職種連携・協働が必要なのか	授業の中で指示されたことをまとめる	30
17	協働する多職種の機能と役割	協働する多職種の機能と役割 4) 多職種連携・協働を阻むもの 5) 多職種連携・協働の効果	演習4-1多職種連携・協働と社会の動きについて	60
18	協働する多職種の機能と役割	演習4-1について発表、グループディスカッション 多職種連携・協働に求められる基本的な能力 1) 介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意味 2) 多職種連携・協働のためのチームづくり 3) 多様な視点と受容を必要とする協働 4) 課題解決に対する多職種のかかわり	授業の中で指示されたことをまとめる	30
19	協働する多職種の機能と役割	多職種連携・協働に求められる基本的な能力 5) 多職種協働を成功させるための介護技術と知識 6) 多職種協働とホスピタリティ的視点 7) 多職種協働に求められるコミュニケーション能力	演習4-2チームに備わっているべき要素について	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	協働する多職種の機能と役割	演習4-2について発表、グループディスカッション 保健・医療・福祉職の役割と機能 1) 社会福祉士・介護支援専門員・医師・歯科医師・看護師・保健師・理学療法士・作業療法士	授業の中で指示されたことをまとめる	30
21	協働する多職種の機能と役割	保健・医療・福祉職の役割と機能 2) 言語聴覚士・管理栄養士・栄養士・歯科衛生士 公認心理師・薬剤師・サービス提供責任者・まとめ	授業の中で指示されたことをまとめる	30
22	協働する多職種の機能と役割	多職種連携・協働の実際 1) 専門職連携実践とは何か 2) 多職種における地域での連携・協働 3) 特別養護老人ホームの連携の実態調査から 4) 自立支援介護における多職種連携の実際	授業の中で指示されたことをまとめる	30
23	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的 1) 健康の意義と目的 2) 働く人の健康や生活を守る法制度 3) 介護労働の特性と健康問題 4) 介護に従事する人の健康問題	授業の中で指示されたことをまとめる	30
24	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的 5) 健康に働くための健康管理	授業の中で指示されたことをまとめる	30
25	介護従事者の安全	こころの健康管理 1) 介護従事者にとってのこころの健康問題 2) ストレスとこころの健康	授業の中で指示されたことをまとめる	30
26	介護従事者の安全	こころの健康管理 3) こころの病気 4) 職場で取り組むこころの健康管理	演習5-1ストレスの影響とこころの健康をよりよく保つための対処法について	60
27	介護従事者の安全	演習5-1について発表、グループディスカッション 身体の健康管理 1) 介護従事者の身体の健康障害の現状	演習5-2腰痛予防のための注意点	60
28	介護従事者の安全	演習5-2について発表、グループディスカッション 労働環境の整備 1) 労働環境について学ぶ意義 2) 労働条件がかかわる労働環境 3) 介護従事者の労働災害 4) 労働環境の実際	授業の中で指示されたことをまとめる	30
29	介護従事者の心身の健康管理	アロマセラピーの意義 1) アロマセラピーと健康	授業の中で指示されたことをまとめる	30
30	介護従事者の心身の健康管理 介護の基本Ⅱ（まとめ）	アロマセラピーの活用 後期授業の補足と介護の基本Ⅱの総括	授業の中で指示されたことをまとめる	60

科目名	介護の基本Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 選択	
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	介護の基本Ⅲでは、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。☑ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、最終授業で全体のフィードバックを行います。 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護実践の基本について授業を行う。☑ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☑ 位置づけ・水準 DW2206			
達成目標	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を総合的に修得した成果として国家試験への合格率を確かなものにする。☑ ①対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、社会保障の制度、施策について基礎的な知識を理解する。☑ ②介護の基本として、介護を実践する様々な場面に必要とされる介護の知識・技術を修得する。☑ ③介護の実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解する。☑ 単位認定の最低基準：介護福祉士国家試験の過去問題について7割理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	課題30% 定期試験70%	
教科書	中央法規出版介護福祉士養成講座テキスト「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」			
参考書	授業の中で随時紹介			
学生への要望	授業での学びをもとに介護福祉士国家試験関係知識について、積極的に身に付けられるように自学・自習に励むこと。			
オフィスタイム	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限☑ 創学館4階 No.1研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	「介護の基本Ⅲ」の学び方（評価方法）	人間の尊厳と介護について授業の中で指示されたことを調べてくる	30
2	人間の尊厳と介護	人間の尊厳と自立、介護における尊厳の保持・自立支援	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
3	人間関係とコミュニケーション	人間関係の形成、介護におけるコミュニケーションの基本	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
4	社会に必要な介護	生活と福祉、社会保障制度における介護	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
5	社会に必要な介護	介護保険制度と障害者自立支援制度における介護 介護実践に関連する諸制度	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
6	介護とコミュニケーション	介護場面における利用者・家族・チームのコミュニケーション	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
7	生活支援技術における介護の基本	自立支援における居住環境の整備、身支度の介護	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
8	生活支援技術における介護の基本	自立支援における移動・食事・入浴・清潔保持の介護	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
9	生活支援技術における介護の基本	自立支援における排泄・家事・睡眠の介護	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
10	生活支援技術における介護の基本	終末期の介護の基本	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
11	介護実践における介護過程	介護過程の意義と展開	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
12	介護実践における介護過程	介護過程の意義と展開実践とチームアプローチ	今回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	発達と老化の理解	人間の成長と発達の基礎的理解 老年期の発達と成熟	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
14	発達と老化の理解	老化に伴うところとからだの変化と日常生活 高齢者と健康	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
15	前期のまとめ	前期授業の補足と確認	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
16	認知症の介護	認知症を取り巻く状況 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
17	認知症の介護	認知症介護への多職種連携と協働 家族への支援	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
18	障害の理解	障害の基礎的理解	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
19	障害の理解	障害者介護への多職種連携と協働 家族への支援	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
20	ところとからだのしくみ	ところとからだのしくみの理解 身支度に関連したところとからだのしくみ	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
21	ところとからだのしくみ	移動・食事に関連したところとからだのしくみ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
22	ところとからだのしくみ	排泄・睡眠に関連したところとからだのしくみ 終末期のところとからだのしくみ	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
23	介護と医療的ケア	喀痰吸引、経管栄養の基礎知識と介護実践	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
24	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護福祉士を取り巻く状況 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
25	介護の基本Ⅲ（まとめ）	尊厳を支える介護 自立に向けた介護	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
26	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護を必要とする人の理解 介護サービス	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
27	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護実践における連携 介護従事者の倫理	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
28	介護の基本Ⅲ（まとめ）	介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護従事者の安全	次回の授業内容について、テキスト等で確認してくる。専門用語などは事前に調べる。	60
29	介護の基本Ⅲ（まとめ）	後期授業の補足と介護の基本Ⅲの総括	介護の基本の総括から、理解できていないところを確認し、国家試験に備える。	60
30	介護の基本Ⅲ（まとめ）	通年授業の補足と介護の基本Ⅲの総括	介護の基本の総括から、理解できていないところを確認し、国家試験に備える。	60

科目名	コミュニケーション技術A	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修	
担当教員	宇治 和子			
開講期	後期			
授業概要	介護や福祉の現場で必要とされるより良い人間関係形成のためのコミュニケーションの大切さや、福祉における基本的な個人の尊重の理念を理解し、専門職に求められる実践的技能的の修得を目指します。担当教員の臨床心理士としての実務経験を活かし、医療・福祉分野におけるリアルな人間の姿や心の動きを解説し、実践的なコミュニケーション技術を指導をします。☒ 授業は、双方向型対話形式を活用しながら進めていきますので、自発的で活発な意見や質問を歓迎します。ロールプレイやグループディスカッションも行いますので、そこで感じたことや気づいたことなどを大いに語り合い、理解を深めてください。☒ 課題（レポート等）提出後は、添削やコメントを各学生にフィードバックします。☒ 位置づけ・水準：HW2205☒ 担当教員の実務経験経歴：臨床心理士として、医療機関、福祉施設に勤務。			
達成目標	介護職は、利用者を理解して信頼関係を形成し、利用者家族や他職種との協働・連携をおこなって行きます。それらをのスムーズな遂行のために、3つの目標を掲げます。☒ ①他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。☒ ②相手の特性や障害の在りようを深く理解し、その特性に合わせた相手にわかりやすいコミュニケーション方法を工夫する姿勢を身に着ける。☒ ③的確な記録・記述・伝達の技術を学び、多職種連携のチーム対応を理解する。☒ 単位認定の最低基準：上記の内容について7割を理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力			
受講資格	人間生活学科☒ 福祉コース2年生	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80%）☒ 受講態度、発表内容、レポート（20%）	
教科書	「コミュニケーション技術」中央法規			
参考書	「介護スタッフのための声かけ表現集」凡人社☒ 「介護応対事例集」日総研など			
学生への要望	この授業では、理論や知識だけでなく、体験的な学習を積み重ねていきます。学生は、ひとりひとりの経験や感性、想像力、共感力を駆使して、グループワークやディスカッションに積極的に参加・発言してください。			
オフィスタイム	火曜日Ⅲ限、水曜日Ⅱ限、No.2(臨床心理学)研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法、国家試験および教員採用試験（科目）における授業の位置づけ等について。	この授業で学ぶことについて概要をつかみ、興味をもった内容について調べたり文献に当たったりする。	30
2	介護現場におけるコミュニケーションの意義と役割	利用者を人として尊重し、より良い人間関係を築くために、介護におけるコミュニケーションの意義と役割を考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
3	コミュニケーションの基本	「かわりを示す5つの基本動作」や敬語の使い方、相手に伝わりやすい表現方法、非言語表現（表情、声、しぐさ、ジェスチャー、沈黙）などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
4	話を聞くテクニック（1）	傾聴とは。共感とは。話しやすい＆安全な聞き手になること、質問法（Open&Closed Quesution）、感情に触れるアプローチ等について。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
5	話を聞くテクニック（2）	肯定的な言い換え、リフレーミング、焦点化、明確化、要約などの言語的テクニックの使い方について学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
6	相談・助言・指導の方法	バイステックの原則、利用者の意欲を引き出す技法などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
7	障害をもつ利用者への理解（1）	コミュニケーション障害を引き起こす主な疾患、脳疾患によるコミュニケーション障害、観察・理解・アセスメントの方法などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
8	障害をもつ利用者への理解（2）	失語症、視力・聴力障害、発話・構音障害などについて、障害部位や疾患名、コミュニケーション障害の状態などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション（1）	高次脳機能障害、失語症（運動性失語症・機能性失語症）、発話・構音障害の特性と、利用者の状況に応じたコミュニケーションの在り方や支援における工夫などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション（2）	認知症、自閉症、知的障害、精神障害の特性と、利用者の状況に応じたコミュニケーションの在り方、支援の際の工夫などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	チーム・コミュニケーション (1)	専門家チーム（多職種連携）、個別援助計画、報告・連絡・相談・会議、ケアカンファレンス、ミーティングなどについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
12	チーム・コミュニケーション (2)	記録の書き方：要約体と説明体の使い分け、フェイスシート・アセスメントシート、客観的事実と主観的事実などについて学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
13	チーム・コミュニケーション (3)	事故報告書、ヒヤリハット報告書、ハインリッヒの法則などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
14	チーム・コミュニケーション (4)	守秘義務とチーム内の情報共有、個人情報保護法、情報公表制度などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30
15	まとめと補足	ケース・スタディの掘り下げや、総合問題の練習、補足説明、まとめを行います。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉や調べてノートする。	30

科目名	コミュニケーション技術B	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	佐藤 邦子,滝田 真紀,加藤 三保子		
開講期	前期		
授業概要	<点字>☑ 視覚障害者の文字である「点字」の基礎を習得する。☑ 視覚障害者の状況について理解する。☑ <手話>☑ 聴覚障害者のくらしや歴史・特性を学び、日常生活に必要な手話表現技術を習得し、手話でコミュニケーションする楽しさを体験する。☑ 介護を必要とする聴覚障害者にあったコミュニケーション方法を学ぶ。		
達成目標	<点字>☑ 視覚障害者の文字である「点字」の基礎を習得する。☑ 視覚障害者の状況について理解する。☑ <手話>☑ 聴覚障害者のくらしや歴史・特性を学び、日常生活に必要な手話表現技術を習得し、手話でコミュニケーションする楽しさを体験する。☑ 介護を必要とする聴覚障害者にあったコミュニケーション方法を学ぶ。		
受講資格	生活科学科福祉コース 4年生	成績評価 方法	<点字・手話>☑ 実技及び試験で評価します☑ 学期末テスト：90点☑ 授業中の態度：10点
教科書	<点字>☑ 「初めての点訳第2版」☑ <手話>☑ 聴覚・言語障害者とのコミュニケーションろう者との対話のために		
参考書	<点字・手話>☑ 特に指定しない		
学生への要望	<点字>☑ 休まずに出席し、点字に関心を持ってほしい☑ <手話>☑ 積極的な学習意欲☑ 私語厳禁		
オフィスタイム	<点字>木曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室、授業終了後☑ <手話>水曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	<点字>視覚障害者の状況、点字の歴史と概要<手話>自己紹介、ビデオ	<点字>☑ 授業の進め方、概要について話します☑ 視覚障害の状況と点字の概要について話します☑ <手話>☑ 自分の名前を覚えて会話する。あいさつの手話を覚える。☑ 「私の大切な家族」感想文を書く☑ <見る力、まねる力、ゲーム>☑		0
2	<点字>点字の仮名遣い<手話>第1、第2講座	<点字>☑ 点字の仮名遣いについて説明と実技を行います☑ <手話>☑ 会話（あいさつ）☑ 「聴覚障害」とは☑ <伝言ゲーム>		0
3	<点字>数字・アルファベット<手話>第3講座	<点字>☑ 点字の数字・アルファベットの仕組みについて説明し、実技を行います☑ <手話>☑ 会話（数字を使って）☑ 「コミュニケーション方法」について☑ <口形ゲーム>		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	<点字>分かち書き<手話>第4講座	<点字>☑ 点字の文の仕組みや書き方について説明し、実技を行います☑ <手話>☑ 会話（名前、場所）☑ 「手話」とは☑ <名前組み合わせゲーム>		0
5	<点字>分かち書き<手話>第5講座	<点字>☑ 前回に引き続き、点字の文の仕組みについて学びます☑ <手話>☑ 会話（疑問詞を使って）☑ 「ろう者のくらし」仕事／医療／地域生活		0
6	<点字>点字の文を読む、点字で文を書く<手話>第6講座	<点字>☑ 点字で文を書く練習をします☑ また、実際の点字表示を読んでみます☑ <手話>☑ 会話（時の流れ）☑ 「ろう教育」について☑ <指文字ゲーム>		0
7	<点字>まとめ<手話>第7講座	<点字>☑ まとめと試験に向けて確認を行います☑ <手話>☑ 会話（季節）☑ 「制度、施設」について☑ スピーチの内容を考える		0
8	<手話>第8、第9講座	<手話>☑ 手話劇や歌にチャレンジ☑ スピーチの練習		0
9	<手話>まとめ	<手話>☑ スピーチ発表、手話の読み取り、筆記☑ 劇や歌の発表		0

科目名	生活支援技術C	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	廣野 正子,藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する生活支援技術の基礎を演習を通して体験し習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。☑ ②人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。☑ ③緊急時の対応を理解する☑ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得 〈授業担当〉☑ 藤田担当☑ 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし授業を行う。☑ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☑ 廣野担当☑ 実務経験：社会福祉法人での介護職員と相談援助の実務経験をもとに生活支援技術について授業を行う。☑ 実務経歴：社会福祉法人に介護福祉士として介護業務と生活相談員として勤務☑ ☑ 課題に対するフィードバック☑ 1適宜、確認テスト（ペーパーや実技）を実施し、解説をして振り返る。☑ 位置づけ・水準 DW2213		
達成目標	〔授業終了時の到達目標〕 ☑ ①「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する知識と技術を身につけ、利用者個人の状況に適した方法で援助できる能力を身につける。☑ ②個人のプライバシー保持と利用者の尊厳を守る援助法について学ぶ。☑ ③終末期におけるチームケアの実践について理解する。☑ ④緊急時の対応を理解する☑ ⑤介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する。☑ ☑ 単位認定の最低基準：個人のプライバシー保持と利用者の尊厳を守る援助法について7割理解できる。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任☑ ☑ 【履修カルテの評価項目】☑ ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための「入浴・清潔保持」「人生の最終段階」に関する生活支援技術の基礎を習得する。 また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。☑ ②人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	試験（筆記・実技）70%☑ レポート30%
教科書	中央法規出版☑ 介護福祉士養成講座テキスト☑ 「生活支援技術」Ⅰ・Ⅱ		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で取り組むこと☑ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	廣野：創学館No.1 研究室 水曜日 Ⅰ・Ⅱ限☑ 藤田：家政学館4階 被服学研究室 月・水曜日 IV限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 人生の最終段階における介護 藤田	授業の内容等についての説明 演習：人生の最終段階の意義について☑ 映像等を用いて考察する	今回実施した内容の概要と感想を記載し提出する。	30
2	人生の最終段階における介護 藤田	演習：人生の最終段階の意義について☑ 映像等を用いて考察する	今回実施した内容の概要と感想を記載し提出する。各家の宗派や埋葬について調べる。	30
3	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階の意義と介護の役割☑	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
4	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階の意義と介護の役割☑ 映像による考察	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
5	人生の最終段階における介護 藤田	☑生の最終段階におけるアセスメントの視点	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
6	人生の最終段階における介護 藤田	☑生の最終段階におけるアセスメントの視点	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	人生の最終段階における介護 藤田	演習 ①終末期患者の意思決定を支える 患者の排泄行動に対する思いに沿った事例について考察する	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
8	人生の最終段階における介護 藤田	演習 ①人生の最終段階における意思決定のあり方についてまとめる ②人生の最終段階におけるアセスメントの視点についてまとめる	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。 グリーフケアの必要性についてまとめる。	30
9	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階における介護 ①死を迎える人の介護☑ ②死を迎えた人の介護☑ ③亡くなった後の介護☑	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
10	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階における介護技術☑ ①死を迎える人の介護☑ ②死を迎えた人の介護☑ ③亡くなった後の介護☑ 演習	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
11	人生の最終段階における介護 藤田	人生の最終段階の介護における多職種の役割と協働	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
12	人生の最終段階における介護 藤田	①人生の最終段階における多職種の必要性☑ ②他の職種の役割（かわり方）	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
13	緊急時の介護 藤田	①想定される事故と予防の視点☑ ②応急手当とは	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
14	緊急時の介護 藤田	応急処置・緊急時の対応の実際	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
15	人生の最終段階における介護及び緊急時の介護 藤田	全体的な授業の補足及び確認	これまでのの内容を見直し、定期手テストに向け学習する。	30
16	人生の最終段階における介護及び緊急時の介護 藤田	全体的な授業の補足及び確認	これまでのの内容を見直し、定期手テストに向け学習する。	60
17	清潔保持の意義と目的 廣野	①授業内容に関する説明。☑ ②清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。 ☑	今回実施した内容を復習する。	30
18	清潔保持の意義と目的 廣野	①清潔保持の意義と目的に関して、生理的、心理的、社会的な側面から理解する。 ☑ ②ICFの視点から、入浴介助が必要な利用者のアセスメントの視点について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。	30
19	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくりと介護上の工夫について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。	30
20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	「入浴・清潔保持」を行う上で、爽快感・安楽を実感できる介護を提供するための環境づくりと介護上の工夫について学ぶ。	今回実施した内容を復習する。	30
21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	介護を必要とする人の状況に応じた介助の留意点として、感覚機能、運動機能、認知機能が低下している人への介助の技法と留意点について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
23	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
24	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として①一般浴、②シャワー浴、③機械浴について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
25	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として全身清拭について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
26	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として全身清拭について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
27	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
28	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	安全・安楽な入浴・清潔保持の介助方法として部分浴（手浴・足浴）について学ぶ。	今回実施した内容を復習し、次回の授業内容について教科書で確認する。	30
29	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認。	「入浴・清潔保持」について教科書等で振り返る。	30
30	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 廣野	全体的な授業の補足及び「清潔」に関する確認。	「入浴・清潔保持」について教科書等で振り返る。	60

科目名	生活支援技術D	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	後期		
授業概要	[授業の目的・ねらい]☑ ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学ぶ。☑ ②住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて理解する。☑ ③「睡眠・休息」「居住環境の整備」における多職種の役割と協働について理解する。☑ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☑ [授業全体の内容の概要]☑ ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学ぶ。☑ ②住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。☑ 実務経験：医療機関での臨床経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。☑ ☑ 課題に対するフィードバック☑ ・演習等を通し適宜解説する。☑ ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2110 ☑ ☑ ☑ ☑		
達成目標	[授業終了時の到達目標] ☑ ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解する。☑ ②住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて理解する。☑ ③「睡眠・休息」「居住環境の整備」における多職種の役割と協働について理解する。☑ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☑ ☑ 単位認定の最低基準：☑ ・健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について7割理解する。☑ ・住まいの役割と機能や高齢者・障害者の住まいについて7割理解する。☑ ディプロマポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力☑ ☑ [履修カルテの評価項目]☑ ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解する。☑ ②住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。		
受講資格	生活科学科福祉コースの学生	成績評価 方法	試験（筆記・実技）60％、レポート40％☑
教科書	中央法規出版☑ 「生活支援技術」		
参考書	授業の中で随時、紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。☑ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	水・木曜日 14時30分～16時 家政学館4階 被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	休息・睡眠時の介護	①ガイダンス・授業内容の説明☑ ②休息・睡眠とは	シラバスを確認する。今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
2	休息・睡眠時の介護	睡眠負債について映像を通して考察する	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
3	休息・睡眠時の介護	睡眠の介護に関して、安楽な姿勢について学ぶ（実習室）	演習を実施しての感想をまとめる。次回の内容を教科書で確認する。	60
4	休息・睡眠時の介護	安眠が得られるための環境づくりと、ベッドメイキングについて学ぶ	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
5	休息・睡眠時の介護	休息・睡眠の介護 ベットメイキング実技テスト	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
6	休息・睡眠時の介護	休息・睡眠の介護 ベットメイキング実技テスト	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
7	休息・睡眠時の介護	①多職種連携☑ ②これまでの授業内容に関する補足と確認	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	居住環境の整備	住まいの役割と機能☒ 生活空間の構成	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
9	居住環境の整備	快適な室内環境について教科書を参照し考察する	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	60
10	居住環境の整備	快適な室内環境について教科書を参照し考察する	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	60
11	居住環境の整備	安全に暮らすための生活環境 高齢者・障がい者の住まいについてまとめる	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
12	居住環境の整備	居住環境の整備における他職種の役割と協働 高齢者の住まいの課題を考察する（資料）	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
13	居住環境の整備	高齢者の住まいの課題を考察する（映像）	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
14	居住環境の整備	高齢者の住まいの課題を考察する（GW）	今回の内容を確認し、次回の内容を教科書で確認する。	30
15	総括	これまでの授業内容に関する補足と確認。	定期テストに向けた学習を行う。	60

科目名	介護過程Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	近内 直美,熊田 伸子		
開講期	前期		
授業概要	介護実習Ⅰ－Ⅱでの介護過程の展開を基に、フェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成とパワーポイントにまとめ発表する。発表に対して毎回のディスカッションを通して不足している情報や伝わる文章表現などを検討し各自の介護過程の展開をまとめる。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックと、事例発表について個別にフィードバックを行います。☒ 廣野☒ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護過程の実践について授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ ☒ 位置づけ・水準 DW2217		
達成目標	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う問題解決の思考課程を習得する。また、介護過程の展開事例から適切な評価ができるための視点を身につける。☒ 単位認定の最低基準：対象者の状態や状況を分析し、本人の望む生活課題について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	課題演習70％ 発表30％
教科書	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座テキスト 「介護過程」		
参考書	授業の中で、随時紹介		
学生への要望	自学・自習に励み発表では疑問、質問に対しての応答と他者の発表には積極的に質問を発言できるようにする。		
オフィスタイム	熊田：創学館4階No.6研究室 火曜日1時限・金曜日3時限 廣野：創学館4階No.1 研究室 水曜日1時限・木曜日1時限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・介護実習の情報整理① 熊田・廣野	①授業の概要について説明	介護実習Ⅰ-Ⅱで実施した、介護過程の展開関係の資料を確認し整理する。	60
2	介護実習の情報整理② 熊田・廣野	②介護実習での介護過程実践事例からの情報整理	介護実習Ⅰ-Ⅱで実施した、介護過程の展開関係の資料を確認し整理する。	60
3	介護実習の情報整理③ 熊田・廣野	介護実習での介護過程実践事例からの情報整理	介護実習Ⅰ-Ⅱで実施した、介護過程の展開関係の資料を確認し整理する。	60
4	介護実習の情報整理④ 熊田・廣野	介護実習での介護過程実践事例からの情報整理	介護実習Ⅰ-Ⅱで実施した、介護過程の展開関係の資料を確認し整理する。	60
5	介護過程の展開① 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成	発表にむけて資料の作成をおこなう。	60
6	介護過程の展開② 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのフェイスシート、アセスメント表1、アセスメント表2、個別援助計画書・実施評価表の作成	発表にむけて資料の作成をおこなう。	60
7	介護過程の展開③ 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表にむけてのパワーポイントの作成をおこなう。	60
8	介護過程の展開④ 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表にむけてのパワーポイントの作成をおこなう。	60
9	介護過程の展開⑤ 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
10	介護過程の展開⑥ 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	介護過程の展開⑦ 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
12	介護過程の展開⑧ 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例から、実践の介護過程の展開方法を学ぶ 発表のためのパワーポイントを作成	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
13	発表①（3名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
14	発表②（2名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
15	発表③（3名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
16	発表④（2名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
17	発表⑤（2名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
18	発表⑥（2名） 熊田・廣野	介護実習で各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する 発表事例を基にディスカッション	発表において質問事項や指摘事項を取り入れ、パワーポイントを修正する。	60
19	介護過程の評価① 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
20	介護過程の評価② 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
21	介護過程の評価③ 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
22	介護過程の評価④ 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
23	介護過程の評価⑤ 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
24	介護過程の評価⑥ 熊田・廣野	発表事例からのディスカッションを基に評価し、個別援助計画の修正・変更、さらに再度アセスメントを行う	修正、変更箇所について確認し、個別援助計画の見直しをする。	60
25	最終発表① 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。☒ 発表事例を基にディスカッション	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
26	最終発表② 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。☒ 発表事例を基にディスカッションをする。	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
27	最終発表③ 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。☒ 発表事例を基にディスカッションをする。	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
28	最終発表④ 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。☒ 発表事例を基にディスカッションをする。	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60
29	最終発表⑤ 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。☒ 発表事例を基にディスカッションをする。	本日のディスカッションを踏まえ、パワーポイントの修正・変更をする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	最終発表⑥ 介護過程Ⅲ（まとめ） 熊田・廣野	各自が取り組んだ介護過程の展開をモニタリングでの修正・変更を実施したものを発表する。 発表事例を基にディスカッションをする。 介護過程の展開についての実践的な理解度を確認する	授業の中で指示されたことにつてまとめる。	60

科目名	介護過程Ⅳ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択	
担当教員	藤田 京子			
開講期	後期			
授業概要	介護過程の視点から、チームアプローチの重要性を理解する。また、事例に基づいて、さまざまな利用者の生活と介護過程の展開方法について学ぶ。 ＜授業担当＞第1回～第15回 熊田・藤田 実務経験：医療現場での勤務経験を活かし、介護過程の展開方法について指導する。 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。 課題へのフィードバック ・発表後、他の学生や教員よりフィードバックを行う。 ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置付け・水準 HW2111			
達成目標	事例に基づいて、さまざまな利用者の生活と介護過程の展開方法が理解できている。 単位認定の最低基準 ①介護過程の展開について7割理解する ②チームアプローチの重要性を7割理解する ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決能力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科の学生	成績評価 方法	課題70％、発表30％	
教科書	中央法規出版☒ 介護福祉士養成講座テキスト☒ 「介護過程」			
参考書	特になし			
学生への要望	介護過程の授業の総まとめとして、介護実習Ⅱの介護過程レポートを確実にまとめてください。			
オフィスタイム	熊田：月曜日・水曜日 1時限 創学館4階 No6研究室☒ 藤田：月曜日・水曜日 4時限 家政学館4階 被服学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	アセスメントの実際 熊田・藤田	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。☒ ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	介護実習Ⅱ及び介護過程記録をまとめる。	30
2	アセスメントの実際 熊田・藤田	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。☒ ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
3	アセスメントの実際 熊田・藤田	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。☒ ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
4	アセスメントの実際 熊田・藤田	・介護実習Ⅱで各自が取り組んだ事例から、実際の介護過程の展開方法を学ぶ。☒ ・発表のためのレポート、パワーポイントを作成する。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
5	発表1-① 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
6	発表1-② 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
7	発表1-③ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
8	発表1-④ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
9	発表1-⑤ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	発表2-① 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
11	発表2-② 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
12	発表2-③ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
13	発表2-④ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
14	発表2-⑤ 熊田・藤田	・介護過程Ⅱで各自が取り組んだ事例について、介護過程の展開を発表する。☒ ・発表内容についてディスカッションを行う。	発表レポート、パワーポイントを進める。	60
15	まとめ 熊田・藤田	・介護過程の展開についてのまとめを行う	提出用パワーポイントの作成	60

科目名	介護総合演習Ⅲ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子,藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	介護実習Ⅰ－１、介護実習Ⅰ－２を通して体験した、様々な利用者に対する介護技術、多様なサービス形態の意義を整理し、介護実習Ⅱに向けて知識や技術を統合していく。☒ 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。☒ 【授業担当者】☒☒ 廣野担当☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 藤田担当☒ 実務経験：看護師として勤務した臨床経験を活かし授業を行う。☒ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☒ 位置づけ・水準 DW2221		
達成目標	介護実習Ⅱの介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、専門職としての態度を養う。☒ ①これまでの実習体験を包括的に考察し、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させ自己の課題を明確化する。 ☒ ②実習施設について地域との関わりを含め事前に理解する。☒ ③本人主体の生活を継続するための介護過程を展開できるように計画が作成できる。☒ 単位認定の最低基準：本人主体の生活を継続するための介護過程の展開について8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	課題レポート70%☒ 演習30%
教科書	なし		
参考書	光生館『介護福祉総合演習』		
学生への要望	・介護実習Ⅰ－２の振り返りを通して自己を客観的に振り返り、介護実習Ⅱに向けた学生自身の課題を明確にもってほしい。		
オフィスタイム	廣野：創学館4階No.1研究室 水曜日（Ⅰ時限）・木曜日（Ⅰ時限） ☒ 藤田：家政学館4階 被服学研究室 月・水曜日 Ⅳ限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護実習Ⅰ-2振り返り① 廣野	・介護実習関係書類の整理 ・介護実習の自己評価	介護実習Ⅰ-2を振り返り、発表できるようにまとめる	30
2	介護実習Ⅰ-2振り返り② 廣野・藤田	・介護実習施設の評価	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
3	介護実習Ⅰ-2振り返り③ 廣野・藤田	・介護実習報告会	実習Ⅰ-2の実習日誌を振り返り、記録が良く書けているものなど考察する。	30
4	介護実習記録（実習日誌）① 藤田	・実習日誌の書き方☑ 体験から考察までの記入方法 良く書けた記録、良く書けていない記録☑ ☑	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
5	介護実習記録（実習日誌）② 藤田	・実習日誌の書き方☑ 体験から考察までの記入方法 良く書けた記録、良く書けていない記録☑ ☑	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
6	介護実習記録（プロセスレコード）① 藤田	・プロセスレコードの発表と振り返り	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
7	介護実習記録（プロセスレコード）② 藤田	・プロセスレコードの発表と振り返り	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
8	介護実習Ⅱ（ねらい） 藤田	・介護実習Ⅱのねらいを理解する☑ ・介護実習Ⅱのモデル（目的や目標など）を具体的にイメージする	実習施設について調べてまとめる	60
9	介護実習Ⅱ（施設） 藤田	実習先の施設種別の特徴を理解する	授業の中で指示されたことをまとめる。	60
10	介護実習Ⅱ（実習目標） 廣野	個別の実習目標を作成する 配布：[実習日誌・承諾書の写し]	授業の中で指示されたことをまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	グループディスカッション 廣野	・利用者理解・自己理解の演習介護実習における学び（KJ法）	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
12	グループディスカッション 廣野	・利用者理解・自己理解の演習介護実習における学び（KJ法）を発表	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
13	介護実習Ⅱ（課題） 廣野	・介護過程の展開の進め方（1-2の体験を振り返り） ・実習目標達成のための方策 ☒	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
14	実習前指導② 廣野	・実習事前訪問の準備 ・介護実習Ⅱ関係書類の作成準備（個人調書、誓約書、健康診断書、健康チェック表など）	授業の中で指示されたことをまとめる。	30
15	実習前指導③ 廣野・藤田	・介護実習Ⅱの展開（まとめ）	授業の中で指示されたことをまとめる。	30

科目名	介護総合演習Ⅳ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 1単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	後期		
授業概要	これまでの介護実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに自己の課題を明確にし専門職としての考察を通し、介護観を構築する。☒た、事例を通してディスカッションを繰り返し、各自の介護に対する考えを確立していく。 課題・レポート提出後は口頭や添削によるフィードバックを行います。☒ ☒ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護総合演習の授業を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 位置づけ・水準 DW222		
達成目標	介護実践に必要な知識と技術の統合を行い、介護観を構築する。☒ ①介護実習で学んだ介護福祉士としての知識・技術の確認から自己の課題を明らかにする。☒ ②介護実習で展開された介護実践について、客観的な視点からの研究を通し実践研究の意義とその方法を理解する。☒ ③介護実践事例に対しての様々な意見に対して考察を深化させ「介護観」を構築する。☒ 単位認定の最低基準：実習を振り返り自己の課題を明確にするとともに、介護観の意義を8割理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻 ☒ 介護福祉士課程履修者	成績評価 方法	レポート課題70% 演習課題30%
教科書	なし		
参考書	日総研 「介護の誇り」、ワニブックス「最強の介護職、最幸の介護術」		
学生への要望	実習のみならず、これまで学内・学外で学んできた介護福祉に関する学びのまとめとして取り組んでほしい。		
オフィスタイム	・水曜日 Ⅱ時限 ・木曜日 Ⅱ時限☒ 創学館 4 階No.1 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	介護実習Ⅱ振り返り1	・介護日誌等の書類整理 ・介護実習の自己評価	介護実習Ⅱで使用した記録物を整理する	30
2	介護実習Ⅱ振り返り2	・介護実習Ⅱの報告会	介護実習Ⅱの振り返りをまとめる	30
3	介護実習Ⅱ振り返り3	・介護実習施設の評価	プロセスレコードについて発表できるように準備する	30
4	介護実習Ⅱ振り返り4	・プロセスレコードの発表とディスカッション	プロセスレコードからわかったことをまとめる。	30
5	介護観1	・介護観とはなにか	授業の中で指示された箇所を要約する	60
6	介護観2	「介護のプロとして護るべきもの」についてディスカッション	介護観についてその意義を調べる	60
7	介護観3	「対人援助の専門職としての誇り」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
8	介護観4	「認知症の人々の心に寄り添う」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
9	介護観5	「命に寄り添う使命」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
10	介護観6	「誇り高き介護を創るために」についてディスカッション	授業の中で指示された箇所を要約する	60
11	介護観7	「最強の介護職、最幸の介護術」	授業の中で指示された箇所を要約する	60
12	介護観8	「最強の介護職、最幸の介護術」	授業の中で指示された箇所を要約する	60
13	介護総合演習Ⅳ（まとめ）	・自身の介護観を発表する	他者の介護観について考察する	30
14	介護総合演習Ⅳ（まとめ）	・自身の介護観を発表する	他者の介護観について考察する	30
15	介護総合演習Ⅳ（まとめ）	・自身の介護観を発表する	他者の介護観について考察する	30

科目名	介護実習Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 4単位 選択
担当教員	廣野 正子		
開講期	前期		
授業概要	介護過程の展開を通して対象者の生活を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。また、専門職としての基本的技術を身につける。☒ 介護実習Ⅱは特別養護老人ホームのなどの福祉施設（入所）での実習となる。☒ 実習時間の構成は、1日8時間で24日間、計192時間となる。☒ 実習日誌等の記録について、巡回指導時などに口頭や添削によるフィードバックを行います。 【担当教員】 廣野☒ 実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに実習指導を行う。☒ 実務経歴：社会福祉法人聖明福祉協会において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☒ 藤田☒ 実務経験：看護師として総合病院勤務していた臨床経験を活かし実習担当する。☒ 実務経歴：看護師として総合病院に勤務。☒ 位置づけ・水準 DW2225		
達成目標	対象者を主体とする生活と自立支援の介護過程の展開を実践できる。 ☒ ①対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。☒ ②各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。☒ 単位認定の最低基準：対象者のニーズを適切にアセスメントし、介護過程を展開することについて8割以上理解し実践することができる。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科 社会福祉専攻	成績評価 方法	実習施設の評価80%、巡回時の面談・日誌の記録20%
教科書	新・介護福祉士養成講座☒ 介護総合演習・介護実習		
参考書	実習施設で配布される資料		
学生への要望	大学で学んだ専門的知識や技術を福祉の現場で実践できるよう、その能力を養ってほしい		
オフィスタイム	廣野：創学館4階 No.1研修室 ・水曜日Ⅰ時限、木曜日Ⅰ時限☒ 藤田：家政学館4階 被服学研究室 月・水曜日Ⅳ限		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	学外介護施設実習	オリエンテーション①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
2	学外介護施設実習	オリエンテーション②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
3	学外介護施設実習	オリエンテーション③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
4	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
5	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
6	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 指導者の助言と協力を得て対象利用者を決め、利用者の情報収集をする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
7	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
8	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
9	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 対象利用者の生活・介護上の問題を把握する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
10	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
11	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
12	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ニーズを明確化し、介護計画を作成する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
13	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
15	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 介護計画に基づき、適切な介護が実践できるようにする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
16	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
17	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
18	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
19	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
20	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 実践の記録をする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
21	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
22	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
23	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
24	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める 自ら行った介護の評価や計画の修正をすることができるようにする④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
25	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
26	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
27	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
28	学外介護施設実習	介護過程の実践を深める ケース会議等に参加し、介護計画の作成と評価される過程を学ぶ④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
29	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
30	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
31	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
32	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
33	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
34	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 業務の流れを把握し実践する④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
35	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
36	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
37	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
38	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 24時間の利用者状況の把握④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
39	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
40	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
41	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
42	学外介護施設実習	利用者の24時間の生活援助を経験する 緊急時の対応④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
43	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、 医療的ケアの実践に役立てる①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
44	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、 医療的ケアの実践に役立てる②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
45	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑤	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
46	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑥	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
47	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、 医療的ケアの実践に役立てる③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
48	学外介護施設実習	喀痰吸引及び経管栄養の現場を見学する 介護福祉士の業務として喀痰吸引及び経管栄養等を学び、 医療的ケアの実践に役立てる④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
49	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、 援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
50	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、 援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
51	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、 援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
52	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 実習を通して援助場面を振り返り、介護者としてのあり方、 援助の内容を分析し、介護福祉士としての自己覚知をはかる④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
53	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする①	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
54	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする②	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
55	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする③	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
56	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑦	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
57	学外介護施設実習 廣野・藤田	実習指導者および巡回教員によるスーパービジョン⑧	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60
58	学外介護施設実習	介護福祉士としての資質・適性を養う 自己の介護観を明確にする④	介護実習日誌を記録する。実習指導者の指示に従い次の準備を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
59	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120
60	学外介護施設実習	実習反省会および振り返り	介護実習日誌を記録する。実習指導者からアドバイスを伺い実習の振り返りを行う。	120

科目名	老化の理解	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修	
担当教員	紺野 信弘			
開講期	前期			
授業概要	成長・発達の観点から老化を理解し、老人に関する心理や身体機能の変化とその特徴に関する基本的知識を解説する。期末試験等の結果については採点終了後受験者に知らせる。【課題に対するフィードバックの方法】課題を提出し、後に学生から提出された報告について討論する。【位置づけ・水準】HW2122			
達成目標	老化の定義と共通原則について理解する。☒ 老化に伴う生体の生理的变化について理解する。☒ 高齢者の健康と生活の質（QOL）について理解する。【単位認定方法の最低基準】レポートや期末試験の結果を総合し60点以上取得したものを合格とする。【デプロマポリシーと授業科目の関連】この授業は、①の専門知識の修得と理解、②論理的思考と問題解決力を養う。			
受講資格	家政学部 人間生活学科 福祉コース 必修	成績評価 方法	課題（20%）および期末テスト（80%）の総合評価	
教科書	なし			
参考書	シェパード老年学（ロイ・J.シェパード 著、大修館書店）・発達と老化の理解（長谷川和夫他 編著、建帛社）			
学生への要望	実際に高齢者や障害のある方々に接することを念頭に置いて受講して下さい。			
オフィスタイム	火曜日のⅡ限および木曜日のⅣ限、その他適宜対応します。☒ 大学副学長室（家政学館2F）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	人間の成長と発達（1）	発達の理解	発達と成長の違いについて学ぶ	30
2	人間の成長と発達（2）	発達の各段階の課題	発達の原理と特徴について	30
3	老年期の発達と成熟	老年期の定義、老年期の発達課題	老年学からみた老化について	30
4	老化とは何か	老化の定義と共通原則、老化の事実、老化の学説	老化と学説、生理的老化の特徴	30
5	老化による心身の変化（1）	運動機能変化と日常生活への影響	骨・筋系の構造と加齢変化	30
6	老化による心身の変化（2）	循環器系の変化と日常生活への影響	心臓の構造と機能	30
7	老化による心身の変化（3）	神経系の変化と日常生活への影響（1）	神経の一般的性質 脳神経・末梢神経の機能	30
8	老化による心身の変化（4）	神経系の変化と日常生活への影響（2）	自律神経系の区分、化学的分類	30
9	生殖器系と内分泌系の変化	加齢に伴うホルモン分泌の変化	エストロゲン欠乏と骨粗鬆症	30
10	精神神経系と味覚の変化	認知機能の加齢変化	感情の加齢変化、味覚、咀嚼機能の変化	30
11	消化器系の加齢変化	嚥下機能、肝機能、膵臓の機能	加齢による機能の低下、糖尿病、骨粗鬆症	30
12	高齢者と健康（1）	老人保健、疫学について	主要死因別にみた死亡率	30
13	高齢者と健康（2）	高齢者に多い疾患、虚血性心疾患、脳血管疾患	脳血管疾患、高血圧の疫学	30
14	老人の健康と生活の質	高齢者の健康とは	高齢期の生活機能 健康寿命	30
15	まとめ	全体のまとめと復習	老化について興味ある視点からまとめる	30

科目名	老人の心理	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修	
担当教員	藤田 京子			
開講期	後期			
授業概要	人間の成長と発達の視点から老化を理解し、老化に伴う心理の変化及びその特徴、影響に関する基礎的な知識を習得する。☒ ・最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準 HW2 2 2 3 ☒ ☒			
達成目標	・単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。☒ ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力☒ 【履修カルテの評価項目】☒ ①生涯発達についての理解☒ ②老化の概念についての理解☒ ③老化による知能・記憶の変化についての理解 者の心理とその対応についての理解☒ ④痴呆性高齢			
受講資格	家政学部 人間生活学科 福祉コース 2年	成績評価 方法	受講態度（20％）、レポート（80％）	
教科書	介護福祉士養成講座「老人・障害者の心理」			
参考書	介護福祉士養成講座「老人・障害者の心理」			
学生への要望	授業目標を毎回確認すること。 ☒			
オフィスタイム	金曜日を除く昼休み（12:00～12:50） ☒ 創学館 4 階No. 2 研究室☒			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	発達の定義 発達段階とその特徴	発達は胎児期から老年期までの発達を含む「生涯発達」であることを認識する。主な発達段階説を認識する。双方向型授業を実施する。	講義資料について復習する。	60
2	発達課題	各発達段階特有の発達課題を認識する。	講義資料について予習・復習する。	60
3	高齢者の発達現象	高齢者の知的な発達の側面について認識する。	講義資料について予習・復習する。	60
4	老化の概念	老化現象及びそのメカニズムを説明する学説を認識するとともに、老いの生物学的・身体的特徴を認識する。老いと疾病との関係、健康の増進策などを認識する。	講義資料について予習・復習する。	60
5	老化による心理の变化と日常生活（1）	心理的変化としての知能の变化とその影響を認識する。	講義資料について予習・復習する。	60
6	老化による心理の变化と日常生活（2）	心理的変化としての記憶の变化とその影響を認識する。	講義資料について予習・復習する。	60
7	高齢者のストレスとライフイベント	高齢者にとってストレスとなるライフイベントについて認識する。	講義資料について予習・復習する。	60
8	老年期における心の变化と日常生活	老年期における社会的地位と役割の喪失感、退職による経済的不安、自己の価値低下の感情、退屈などが、高齢者の生活とどのように関係するかを認識する。高齢者の社会的活動の意義と課題、雇用・年金の重要性を認識する。	講義資料について予習・復習する。	60
9	施設高齢者の生活適応（1）	養護老人ホーム及び特別養護老人ホームにおける高齢者の入居と適応の状況について認識する。	講義資料について予習・復習する。	60
10	施設高齢者の生活適応（2）	多床室及び個室ユニット型特養ホームにおける生活適応の状況について認識する。	講義資料について予習・復習する。	60
11	痴呆性高齢者の心理とその対応（1）	痴呆の様々な病態－痴呆の記憶・感情・人格障害の特徴、痴呆性高齢者の心理的特徴、その他－について認識する。	講義資料について予習・復習する。	60
12	痴呆性高齢者の心理とその対応（2）	痴呆の様々な病態－日常生活動作能力の障害、問題行動、その他－について認識する。	講義資料について予習・復習する。	60
13	老いを生きる（1）	老衰が、それに対する高齢者の態度によって、その速度と範囲、それが人生の総体に及ぼす影響などが変化することを認識する。 （1）楽観的態度（2）遺恨の感情（3）諦めの態度 （4）不屈の態度	講義資料について予習・復習する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	老いを生きる (2)	高齢者が、現在、未来という時間とどのようにかわり、どのように受け止め、それぞれのなかでどのように生きるか、高齢者の生の内面について理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
15	老いを生きる (3)	老いが固有の本質あるいは価値を有するものであること、その価値をどのような形で体现しうるかを理解する。	講義資料について予習・復習する。	60

科目名	障害の理解A	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 必修	
担当教員	岡本 宏二			
開講期	後期			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ 1 介護実践に必要な知識という概念から、からだところのしくみについての知識を養う☑ 2 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害の分野でひつようとされる心理的なケアについての基礎的な知識を養う☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する☑ 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕☑ 障害のある人の体験を理解し、心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術を関連付けて考えることができる☑ サポート体制、他職種協働を理解し、実践できる☑ ☑ 【履修カルテの評価項目】☑ ①障害のある人の体験を理解したか。☑ ②心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術を関連付けて考えることができたか。☑ ③サポート体制、他職種協働を理解したか。			
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕☑ 1 介護実践に必要な知識という概念から、からだところのしくみについての知識を養う☑ 2 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害の分野でひつようとされる心理的なケアについての基礎的な知識を養う☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する☑ 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕☑ 障害のある人の体験を理解し、心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術を関連付けて考えることができる☑ サポート体制、他職種協働を理解し、実践できる☑ ☑ 【履修カルテの評価項目】☑ ①障害のある人の体験を理解したか。☑ ②心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と生活支援技術を関連付けて考えることができたか。☑ ③サポート体制、他職種協働を理解したか。			
受講資格	人間生活学科福祉コース2先生	成績評価 方法	①筆記試験50点（10点×5問）☑ ②小論文50点。	
教科書	特に使用しない			
参考書	「働く幸せ～仕事でいちばん大切なこと～」 大山 泰弘 著☑ 「こころの処方箋」 河合隼雄 著☑ 「障害の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会			
学生への要望	ボランティア活動への参加☑ （場面や機会は、こちらから沢山提示します。できる範囲で可能な限り選択してください）			
オフィスタイム	授業開始前☑ 授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	障害の基礎的理解：傷害に関する基本的な考え方	障害の基礎的理解：傷害に関する基本的な考え方		0
2	障害の基礎的理解：ノーマライゼーションの考え方	障害の基礎的理解：ノーマライゼーションの考え方		0
3	障害の基礎的理解：障害受容の過程	障害の基礎的理解：障害受容の過程		0
4	障害の基礎的理解：障害の捉え方や生活支援のあり方（ICIDHからICFへ）	障害の基礎的理解：障害の捉え方や生活支援のあり方（ICIDHからICFへ）		0
5	障害の基礎的理解：自立支援に向けた地域における取り組み	障害の基礎的理解：自立支援に向けた地域における取り組み		0
6	障害の医学的側面の基礎的理解	障害の医学的側面の基礎的理解		0
7	運動と協働：リハビリテーションの意義及び医療職との運動のあり方	運動と協働：リハビリテーションの意義及び医療職との運動のあり方		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	連動と協働：障害や特性に応じた医療職との連動	連動と協働：障害や特性に応じた医療職との連動		0
9	家族への支援：家族へのレスパイトケアについての基本的視点	家族への支援：家族へのレスパイトケアについての基本的視点		0
10	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：知識とアセスメント能力	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：知識とアセスメント能力		0
11	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：障害の知識、具体的な症状とその背景から自立に向けてどのような介護が望まれるか	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：障害の知識、具体的な症状とその背景から自立に向けてどのような介護が望まれるか		0
12	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：本人の意欲や主体的な行動を支え、地域で安心して暮らしていけるような生活支援を考える	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：本人の意欲や主体的な行動を支え、地域で安心して暮らしていけるような生活支援を考える		0
13	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：日常生活に及ぼす影響を考慮し、残存の力・潜在能力の活用を含めた生活支援を考える	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：日常生活に及ぼす影響を考慮し、残存の力・潜在能力の活用を含めた生活支援を考える		0
14	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：ライフステージに応じた自立支援のあり方	「その家族らしい生活」が実現するために必要なICFの概念理解と生活に焦点を当てた介護のあり方：ライフステージに応じた自立支援のあり方		0
15	まとめ	まとめ		0

科目名	障害の理解B	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択
担当教員	茂木 光代		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目標・ねらい〕 ☒ 障害の医学的側面からの基礎知識を習得し、障害者の体験を理解し、その心理的な影響や障害の受容、日常生活の「生活のしづらさ」を理解し、その自立に向けてのさまざまな支援のあり方をまなぶ。☒ 〔授業全体の内容の概要〕 ☒ 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携を中心とした授業。☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 ☒ 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携の概要を理解し、今後の自らの生活や福祉的な仕事に参考として生かしていけること。		
達成目標	〔授業の目標・ねらい〕 ☒ 障害の医学的側面からの基礎知識を習得し、障害者の体験を理解し、その心理的な影響や障害の受容、日常生活の「生活のしづらさ」を理解し、その自立に向けてのさまざまな支援のあり方をまなぶ。☒ 〔授業全体の内容の概要〕 ☒ 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携を中心とした授業。☒ 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 ☒ 精神保健、障害全般とリハビリテーション、チーム医療や連携の概要を理解し、今後の自らの生活や福祉的な仕事に参考として生かしていけること。		
受講資格	人間生活学科福祉コース 2年生	成績評価 方法	筆記試験100%
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編集☒ 1 3 「障害の理解」中央法規		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	積極的の授業に臨むこと。		
オフィスタイム	授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	序論	「障害者の概論と基本理念」を学び、基礎的理解をする。 地域における障害者の生活や医療保健福祉関係者との連携を理解する。		0
2	序論	「障害者の概論と基本理念」を学び、基礎的理解をする。 地域における障害者の生活や医療保健福祉関係者との連携を理解する。		0
3	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保健福祉の理念を理解する。（障害者の人権、ノーマライゼーション、ＩＣＦの概念とリハビリテーション等も含む）		0
4	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保険福祉の理念を理解する。（障害者の人権、ノーマライゼーション、ＩＣＦの概念とリハビリテーション等も含む）		0
5	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保健福祉の理念を理解する。（障害者の人権、ノーマライゼーション、ＩＣＦの概念とリハビリテーション等も含む）		0
6	「障害のある人の生活の理解」を学ぶ	視覚障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、精神障害等のある人の医学的側面（症状や疾患等）の理解及び心理的理解をし、その社会における支援や役割、医療保健福祉の理念を理解する。（障害者の人権、ノーマライゼーション、ＩＣＦの概念とリハビリテーション等も含む）		0
7	「障害のある人に対する介護」を学ぶ	障害者の生活の場における医療保健福祉制度をとおして、自分を含めた人間のメンタルヘルス、社会と人間と疾病の関係を理解する。		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	「障害のある人に対する介護」を学ぶ	障害者の生活の場における医療保健福祉制度をととして、自分を含めた人間のメンタルヘルス、社会と人間と疾病の関係を理解する。		0
9	「障害のある人に対する介護」を学ぶ	障害者の生活の場における医療保健福祉制度をととして、自分を含めた人間のメンタルヘルス、社会と人間と疾病の関係を理解する。		0
10	障害者の理解と「家族への支援」を学ぶ	障害のある人の家族に対し、どのように働きかけをしたらよいか。等の演習を通じて、これからの家族支援に求められているものを学ぶ。		0
11	障害者の理解と「家族への支援」を学ぶ	障害のある人の家族に対し、どのように働きかけをしたらよいか。等の演習を通じて、これからの家族支援に求められているものを学ぶ。		0
12	障害者の理解と「家族への支援」を学ぶ	障害のある人の家族に対し、どのように働きかけをしたらよいか。等の演習を通じて、これからの家族支援に求められているものを学ぶ。		0
13	医療・保健・福祉制度の概要を理解する。	地域における医療保健職種との連携や協同。また地域の社会資源の利用について学ぶ。		0
14	医療・保健・福祉制度の概要を理解する。	地域における医療保健職種との連携や協同。また地域の社会資源の利用について学ぶ。		0
15	医療・保健・福祉制度の概要を理解する。	地域における医療保健職種との連携や協同。また地域の社会資源の利用について学ぶ。		0

科目名	こころのしくみと機能	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 必修
担当教員	宇治 和子		
開講期	前期		
授業概要	人は皆、人間らしく生きたいという欲求を持っています。そして様々な環境で刺激を受け、感情や記憶や知能を働かせ、適応し、あるいは葛藤を抱えて生きていきます。行動の理由、不安の原因、言葉の背景など、こころの働きを理解することにより、介護や福祉で質の高い支援を行っていくことができるでしょう。この授業は、介護福祉士・社会福祉士および教職（高等学校福祉科）の資格必修科目に位置づけられ、こころに関する基礎知識を習得します。担当教員の臨床心理士としての実務経験を活かし、医療・福祉分野におけるリアルな人間の姿や複雑なこころの在り様を実践的に指導します。☒授業は毎回、双方向型対話形式を活用して進めていきますので、活発な意見や質問を歓迎します。ロールプレイやグループディスカッションも行いますので、そこで感じたことや気づいたこと等を大いに語り合い理解を深めてください。☒課題（レポート等）の提出後は、添削やコメントを各学生にフィードバックします。☒位置づけ・水準：HW2328☒担当教員の実務経験経歴：臨床心理士として医療機関、福祉施設に勤務。		
達成目標	【履修カルテの評価項目】☒ ①心の働きに関する用語を正しく理解し、使うことができる。☒ ②学習理論や記憶のしくみなどを正しく理解し、学んだ理論が日常でどう活用され、福祉や教育の場でどのように役立っているかを観察したり、考察することができる。☒ ③人間の尊厳、高齢者の権利、自立と自己決定、欲求と自己実現など、福祉の基本的な理念について理解している。☒ 単位認定の最低基準：上記の内容について、7割を理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、倫理的・社会的責任		
受講資格	介護福祉士の資格取得を目指す者（必修）☒ 社会福祉士の資格取得を目指す者（必修）☒ 教職（高等学校1種福祉）を目指す者（必修）	成績評価 方法	期末試験または期末レポート（80％）☒ 授業態度・発言内容・レポート（20％）
教科書	授業中にプリントを配布。		
参考書	テーマごとに授業で紹介する。		
学生への要望	理解を深めるために、体験的・実践的ワークを取り入れていきます。積極的に参加して、ディスカッションで多いに発言をしてください。		
オフィスタイム	水曜日Ⅳ、木曜日Ⅰ・Ⅲ No.2(臨床心理学)研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の目標、授業計画、授業ポリシー、評価方法、国家試験および教員採用試験（科目）における授業の位置づけ等。	この授業で学ぶことについて概要をつかみ、興味をもった内容について調べたり文献に当たったりする。	30
2	自己概念と尊厳・人間の欲求とは	マズローの欲求階層、自己実現、社会的欲求、心理的欲求、高齢者の権利、自立と尊厳などを学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	心の構造	心の層構造（フロイト、ユング等）、脳の構造、こころの要素（知能、記憶、人格、感覚）などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	適応のしくみ	フロイトの防衛機制を中心とした適応のしくみについて、やさしい例題を使って覚えていきます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	人格理論	人格のタイプ論、家族や環境と人格形成、人生劇場、人格特性と自己一致などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	心理検査	色々な心理検査（人格検査・知能検査・発達検査・認知症検査、質問紙法・絵画法・投影法）など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	発達理論	主要な理論家による生涯発達理論（エリクソン、ハヴィガースト）や認知発達理論（ピアジェ）、愛着理論（ボウルビー）等を学びます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	記憶のしくみ	記憶の貯蔵モデル、短期記憶、長期記憶、長期記憶の種類、作動記憶などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	感情のしくみ	感情理論、情動の抑制と行動化、気分障害、動機づけ等について。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	心理療法	いろいろな心理療法（遊戯療法、芸術療法、精神分析療法、家族療法、SST）などについて。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	学習理論と行動療法	行動療法の原理、学習理論（レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ）と認知行動療法。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
12	死の受容・障害の受容	キューブラ・ロスの「死」の受容プロセス、コーンの障害受容のステージ理論、介護する家族などについて考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
13	カウンセリングの理念と方法	ロジャーズの人間中心療法の基本理念、カウンセリングのプロセスと行動変容、カウンセラーの言葉など。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
14	ストレスと対処	ストレスとストレッサー、ストレス症状とストレス・コーピングについて学び、日常生活と心の健康について考えます。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
15	まとめ補足	補足解説、掘り下げ討論、練習問題、まとめを行います。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

科目名	医療的ケアⅠ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ ①医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解する☑ ②医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解する☑ ③「喀痰吸引」「経管栄養」について根拠に基づく手技が実施できるよう、基本的知識、実施手順方法を理解する。☑ ④介護福祉士国家試験に必要な知識の習得☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ ①医療的ケアに関連する制度②安全な療養生活 ③清潔保持と感染予防 ④健康状態の把握 ⑤高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論 ⑥「たん吸引」実施手順 ⑦高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論⑧「経管栄養」実施手順を理解する☑ 実務経験：総合病院での勤務経験を活かし、喀痰吸引や経管栄養等について安全にケアが提供できるような授業を実施する。☑ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☑ ☑ 課題に対するフィードバック☑ 適宜、項目ごとに確認テストを実施し、修得状況を確認していく。☑ 前期終了時には、喀痰吸引についての確認テストを実施し、後期の1回目で解説を行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2329		
達成目標	目標は☑ ①医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解する。☑ ②医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を理解する。☑ ③「喀痰吸引」「経管栄養」について根拠に基づく手技が実施できるよう、基本的知識、実施手順方法を理解する。☑ ④介護福祉士国家試験に必要な知識を習得する。☑ ☑ 単位認定の最低基準：医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」についての基礎的知識を7割理解する。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科福祉コース	成績評価 方法	期末試験80%、小テスト20%
教科書	中央法規出版「医療的ケア」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	自主的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。 前回の授業内容等については小テスト等で確認を行うため復習を行う。☑ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	月・水曜日14時30分～16時☑ 家政学館4階被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	医療的ケア実施の基礎	①ガイダンス ☑ ②医療的ケアとは☑ ③医行為について ☑	シラバスの内容を確認し、今回の内容について見直しを行う。	20
2	医療的ケア実施の基礎	①喀痰吸引制度☑ ②医療的ケアと喀痰吸引等の背景 ③その他の制度	今回の内容について見直しを行う。	30
3	安全な療養生活	☑たんの吸引や経管栄養の安全な実施☑ ②救急蘇生法(生活支援技術での復習を兼ね、救急蘇生法については学生がまとめて発表する。質疑応答も含む) ☑	発表用パワーポイントを作成する。 配布資料の準備（2分割、白黒可）	60
4	安全な療養生活	☑急蘇生法発表(生活支援技術での復習を兼ね、救急蘇生法については学生がまとめて発表する。質疑応答も含む) ☑	今回の内容について見直しを行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	清潔保持と感染予防	①感染予防 ②介護職の感染予防 ③療養環境の清潔、消毒法	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
6	清潔保持と感染予防	①消毒と滅菌☑ 手指消毒や滅菌手袋の着用方法について演習する。 ②介護施設等において注意が必要な感染症をまとめる。	今回の内容を見直すとともに、感染症についての発表資料を作成する。	60
7	健康状態の把握	①感染症について発表する ②身体・精神の健康☑ ③健康状態を知る視点 ☑ お互いのバイタルサインを測定し体感する。	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
8	健康状態の把握	①急変状態について☑ ②呼吸のしくみとはたらき	今回の内容を見直すとともに、確認テストに備えた学習を行う。	60
9	医療的ケアの基礎知識	前回までのまとめと確認テスト☑	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
10	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①呼吸のしくみとはたらき☑ ②いつもと違う呼吸状態	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
11	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①喀痰吸引とは☑ ②人工呼吸器と吸引☑DVD使用)	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
12	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①子どもの吸引について☑ ②吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
13	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①呼吸器系の感染と予防☑ ②たん吸引により生じる危険、事後の安全確認☑☑	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
14	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論	①急変・事故発生時の対応と事前対策☑ ②呼吸器系についてのまとめ	今回までの内容を見直すとともに、次回の確認テストに向け、教科書や配布プリントを見直し試験に向けた学習を行う。	60
15	前期総括	1～13講義までの確認テスト☑☑解説	試験の内容を見直す。	60
16	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の実施手順を映像等で確認する	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
17	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	①喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持☑ 演習：喀痰吸引の器具や器材を使用し清潔保持等について考える☑ ②喀痰吸引の技術と留意点☑	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
18	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の技術と留意点☑	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
19	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	①喀痰吸引の技術と留意点☑ 喀痰吸引で使用する器材に触れ、基本的な手技を学ぶ☑	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
20	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	①喀痰吸引に伴うケア☑ ②報告及び記録☑ ③口腔ケア☑	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
21	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」実施手順	喀痰吸引の実施手順の流れ、ポイントと留意点のまとめ☑	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
22	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①消化器系のしくみとはたらき ②消化・吸収と、よくある消化器の症状 ②経管栄養法とは	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
23	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①注入する内容に関する知識☑ ②経管栄養実施上の留意点☑	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①子どもの経管栄養について☑ ②経管栄養に関する感染と予防☑ ③経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意☑	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
25	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認☑ ②急変・事故発生時の対応と事前対策☑	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
26	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	経管栄養の種類としくみまとめと確認テスト☑	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
27	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	①経管形容で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持☑ ②経管栄養の技術と留意点	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
28	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	経管栄養の技術と留意点☑ 経管栄養で使用する器材に触れ、基本的な手技を学ぶ。	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
29	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	①経管栄養の技術と留意点☑ ②経管栄養に必要なケア☑ ③経管栄養のまとめ	今回の内容を見直すとともに、次回の授業内容については教科書で確認しておく。	30
30	統括	喀痰吸引や経管栄養についてのまとめ 確認テスト及び解説	今回の内容を見直すとともに、定期テストに向けて教科書や配布プリントで学習する。	60

科目名	医療的ケアⅡ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 1単位 選択
担当教員	藤田 京子		
開講期	前期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ ①介護職員が「喀痰吸引」「経管栄養」を行うに当たり、適切かつ安全に行為を行うことができるよう、対象者の健康状態及び生活を総合的に把握する☑ ②「喀痰吸引」「経管栄養」実施のため、確実な手技を習得する☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ ①「喀痰吸引」「経管栄養」について、根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する ②救急蘇生法についての手技を学ぶ。☑ 第1回 : 講義形式 ☑ 第2回～11回 : 講義30分・演習形式60分☑ 第12回～14回 : 演習評価 ☑ 第15回 : 講義30分・演習形式60分☑ ☑ 実務経験：医療機関に勤務していた臨床経験を活かし、授業を行う。☑ 実務経歴：看護師として医療機関に勤務。☑ ☑ 課題に対するフィードバック☑ ・実技試験を各項目ごとに5回実施していく中で、不足点について適宜指導していく。☑ ☑ 位置づけ・水準 HW2430☑		
達成目標	〔授業終了時の到達目標〕☑ ①介護職員が「喀痰吸引」「経管栄養」を行うに当たり、適切かつ安全に行為を行うことができるよう、対象者の健康状態及び生活を総合的に把握する。☑ ②「喀痰吸引」「経管栄養」実施のため、確実な手技を習得する。☑ ☑ 単位認定の最低基準：②「喀痰吸引」「経管栄養」実施のため、確実な手技を10割習得する。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、倫理的・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	生活科学科福祉コース	成績評価 方法	実技試験80%、レポート20%☑
教科書	中央法規出版「医療的ケア」		
参考書	授業の中で随時紹介		
学生への要望	主体的、積極的な姿勢で授業に取り組むこと。☑ 授業を欠席しないこと。		
オフィスタイム	☑・水曜日 14時30分～16時☑ 家政学館4階 被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
2	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①口腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
3	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①口腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
4	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①鼻腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
5	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①鼻腔内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
6	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①気管カニューレ内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
7	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」演習	①気管カニューレ内吸引の技術と留意点 ②喀痰吸引演習	喀痰吸引の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
8	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①経鼻経管栄養の技術と留意点 ②経鼻経管栄養演習	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
9	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①経鼻経管栄養の技術と留意点 ②経鼻経管栄養演習	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
10	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①胃ろう・腸ろうによる経管栄養の技術と留意点 ☑ ②胃ろう・腸ろう経管栄養演習	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30
11	基高齢者及び障害児・者の「経管栄養」演習	①胃ろう・腸ろうによる経管栄養の技術と留意点 ☑ ②胃ろう・腸ろう経管栄養演習☑	経管栄養の留意点を考慮し、演習内容のイメージトレーニングを行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養	実技テストに向け練習する。	30
13	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養	実技テストに向け練習する。	30
14	演習評価	①たんの吸引 ②経管栄養	救急蘇生について教科書等で確認する。	30
15	基本演習	救急蘇生法	喀痰吸引や経管栄養についての実施手順や留意点をまとめて提出する。	90

科目名	人体の構造と機能	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択	
担当教員	大西 弘太郎			
開講期	前期			
授業概要	解剖学についての基本的な知識を学ぶ。☒ 生理学についての基本的な知識を学ぶ。☒ 主な疾患の成り立ちについて学ぶ。☒ ☒ 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに講義を行う。☒ 実務経験：医師として医療機関に勤務している。☒ ☒ 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけではなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準 HW2331			
達成目標	単位認定の最低基準：解剖学および生理学の基本を理解できていること。主な生活習慣病の成り立ちの基本を理解できていること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、論理的思考・問題解決力			
受講資格	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年	成績評価 方法	小テスト (20%)☒ レポート (80%)	
教科書	人体の構造と機能及び疾病 新・社会福祉養成講座 中央法規			
参考書	特になし			
学生への要望	双方向の授業を期待します。☒ 学生の理解度などによりシラバスは適宜変更されることがある。			
オフィスタイム	臨床医学研究室☒ 火曜日 13:00～17:00。 ☒ 木曜日 15:00～17:00。 ☒ 金曜日 08:30～17:00。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	栄養と代謝☒ ☒ 糖尿病の諸問題	栄養と代謝☒ ☒ 糖尿病はいまや社会問題☒ 糖尿病はなぜ危険か☒ 糖尿病とは☒ 糖尿病の分類	糖尿病について予習・復習をしましょう。	120
2	栄養と代謝☒ ☒ 糖尿病の諸問題	糖代謝の動態とインスリンの働き☒ ☒ 糖尿病慢性合併症☒ 糖尿病になりにくいライフスタイル	糖尿病について予習・復習をしましょう。	120
3	消化管	食道の構造と機能☒ 胃の構造と機能☒ ☒ ピロリ菌感染と消化器疾患☒ ピロリ菌感染の臨床的意義☒ 予防と治療☒	消化管の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
4	肝臓	肝臓の構造と機能☒ ☒ 主なウイルス性肝炎☒ 慢性肝炎と肝臓がん☒ 脂肪肝☒ 予防と治療☒	肝臓の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
5	虚血性心疾患、不整脈	心臓の動きと急性冠症候群☒ 突然死とは☒ 不整脈	虚血性心疾患、不整脈について予習・復習をしましょう。	120
6	神経	神経系の構造と機能☒ ☒ 脳卒中とは☒ 脳卒中の分類	神経の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
7	高血圧	高血圧はなぜ危険か☒ 高血圧の現状☒ 高血圧と減塩☒	高血圧について予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	動脈硬化 その1	動脈硬化とは☒ 動脈硬化の種類☒ 動脈硬化はなぜ危険か	動脈硬化について予習・復習をしましょう。	120
9	動脈硬化 その2	動脈硬化とライフスタイル	動脈硬化について予習・復習をしましょう。	120
10	認知症	認知症は社会問題☒ 認知症の症状☒ 認知症の分類☒ 認知症とケア☒	認知症について予習・復習をしましょう。	120
11	運動器	運動器の構造と機能☒ ☒ サルコペニア☒ ロコモティブシンドローム☒ 廃用症候群の概要と予防	運動器の主な疾患について予習・復習をしましょう。	120
12	感染症	主な感染症	主な感染症について予習・復習をしましょう。	120
13	血液	貧血☒ ☒ 白血病とは☒ 白血病の分類☒ 白血病の治療☒ 分子標的薬の登場と寛解率の向上☒ 成人T細胞性白血病型リンパ腫	貧血、血液の悪性腫瘍について予習・復習をしましょう。	120
14	腎臓の構造と機能☒ 糸球体腎炎☒ ネフローゼ症候群	糸球体の構造と機能、尿管の構造と機能☒ 急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎☒ ネフローゼ症候群	腎臓の構造・機能、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群について予習・復習をしましょう。	120
15	慢性腎臓病	慢性腎臓病の概念、病理、臨床症状・所見・検査、予防	慢性腎臓病について予習・復習をしましょう。	120

科目名	被服管理学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	大泉 由美			
開講期	後期			
授業概要	被服の購入から廃棄までのライフサイクル全般において、安全・安心・快適、環境保全をめざした衣生活管理を自然・社会・人文科学の総合科学の視点から幅広く専門的に学び、家庭科教員としての指導力や個人の衣生活管理の向上をめざす、☒ また、私立高等学校での家庭科教員としての勤務経験を活かし、衣生活分野における学校教育での意味と重要性、指導上の留意点などを踏まえながら理解を図るとともに、ディスカッションや市場調査も取り入れ、主体的な学びとして探究心を養いながら教員養成の一助として資質向上に資する。☒ ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2232			
達成目標	①被服の役割を理解するとともに快適な衣生活が営める。 ☒ ②被服の購入及び手入れ時などの管理時において注意すべき取扱い絵表示、組成表示、その他の表示について理解している。 ☒ ③家庭教育における衣生活分野の学びの重要性を理解し、快適な衣生活のための被服管理の方法について理解している。☒ 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度7割以上であること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考			
受講資格	教職履修学生は必修	成績評価 方法	①課題レポート/課題への取り組み：30点☒ ②発表への取り組み：30点 ③期末レポート：40点	
教科書	配布プリント			
参考書	『被服管理学』朝倉書店、「衣服管理の科学」片山倫子編（建帛社、平成14年）、「改訂衣生活論 装いを科学する」（アイ・ケイ・コーポレーション2008）			
学生への要望	日常の衣生活を問題意識をもって見つめるとともに、課題を把握し探究心をもって取り組んでください。			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ・Ⅱ限（創学館No.3研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスにそって、授業の概要や到達目標、進め方や評価方法などを説明する。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。	30
2	衣服の起源と変遷	人類にとって「衣・食・住」は生命維持のための三大要素であるが、衣生活の始まりとその役割について考察する。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
3	心地よく「着て装う」	なぜ、着るのか、被服を着る目的やTPOに合った着方について考えるとともに、着こなす、個性を生かすとは、どういうことだろうか、考えるとともにディスカッションを行う。	本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 自分の考えをまとめるとともに、ディスカッションの内容についてまとめる。 ワークシートの整理	30
4	購入方法に関する事例研究	被服に関する法規制である「家庭用品品質表示法」、JISや自主規制などについて理解する。各個人の被服購入経験の失敗事例を発表する。事例を問題点別にまとめ、購入時における課題をまとめる。☑料の計画的な購入、購入時のチェックポイント、消費者の義務と権利、消費者苦情の重要性を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
5	安全で健康的な衣生活のために ～ユニバーサルデザイン～	失敗事例の中から、衣服の安全性の問題について考えるとともに健康的な衣生活のために留意すべき点について、グループごとにまとめ発表する。防止・予防方法を確認する。またユニバーサルデザインについても理解を深める。☑	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
6	被服の汚れ	着用による被服に付着する汚れの種類と成分、付着のしかたを繊維の性質との関係から学ぶとともに汚れの種類について考え、分類し理解を深め合う。また、汚れが人体と繊維に及ぼす影響を考える。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
7	被服の洗浄 ～家庭洗濯とドライクリーニング～	洗浄によって取り除くために用いられる洗浄剤、特に界面活性剤の働きについて理解を深めるとともに、家庭洗濯とドライクリーニングによる汚れ除去メカニズムの違いを知り、それぞれのメリット・デメリットを確認する。失敗事例から失敗しない洗濯手入れ方法を学ぶ。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
8	洗剤の科学	洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史の変遷を学ぶ。☑	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	しみ抜きと漂白	しみは、衣服に付着すると美観を損なうだけでなく、長期間放置しておくとも虫害やばい害をこうむり繊維が損傷する。しみ抜きの原理と方法について理解を深める。また黄ばみ、黒ずみなどの対応としての漂白について理解する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。 ワークシートの整理	30
10	被服の手入れ	洗剤の種類と成分、界面活性剤の種類と機能、汚れ除去のメカニズム、洗剤の歴史の変遷を学ぶ。☒	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。自宅に保管されている洗剤など被服の手入れに関する家庭用品について調査する。次回発表する。	60
11	仕上げ剤の種類と特徴	洗濯後、繊維をおろし立ての状態に保つために様々な商品が市販されている。代表的なものは漂白剤、柔軟剤、糊剤等である。これらの製品の成分、種類、使用方法を実物を手にしながら学ぶ。☒ ①漂白剤：種類と特徴、漂白のメカニズム、使用方法、蛍光増白との違い、しみぬきの原理と方法☒ ②柔軟剤：種類と特徴、効果・機能（柔軟効果、静電気防止、香りなど）の変化、使用方法☒ ③洗濯糊：種類と特徴、使用方法	配布資料を参考としながら、講義内容をまとめ、理解を深める。 各自市場調査をおこなう結果についてまとめ、発表用とする。	30
12	被服の保管	保管の目的、保管中の衣料の性能変化の原因、防虫・防かび、抗菌のための保管用具、防虫剤、乾燥剤などの種類と性能などを学び効果的な保管方法について理解する。さらに、市場調査により理解を深める。	配布資料を参考としながら、各自市場調査をおこない結果についてまとめ、次回発表用とする。	60
13	衣生活の課題を把握と快適な被服の管理	自分自身の衣類がどの程度あるのか、管理方法に課題はなかったか、計画的購入のあり方と死蔵品の把握とその対応はどうすべきか。また、日頃の被服の保管方法や手入れ等における課題をあげて望ましい被服管理のあり方についてディスカッションし、自分の考えをまとめる。期末レポートの課題を提示する。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。また、自分自身の被服管理の現状について見つめるとともに課題を捉えディスカッションする。期末レポート対応。	120
14	被服管理の事例研究	衣類の望ましい管理について学ぶ。 自分の家庭生活における課題を各自が発表し、問題点や課題、着用時・手入れ・保管時の問題点を抽出し、望ましい被服管理についてまとめる。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。前時でまとめた内容を各自が発表し、課題を共有し合うとともに望ましい被服管理のあり方についてまとめる。期末レポート対応。	120
15	総括・まとめ	本講義のまとめを行う。	配布資料を参考としながら、本日の講義内容をまとめ、理解を深める。確認テスト	30

科目名	衣造形学演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	瀬谷 真理子			
開講期	前期			
授業概要	[授業の目的・ねらい] ☑ 立体構成（洋裁）学を基に、衣服の成り立ちについての理解を深める。また、パターンの活用方法を習得することにより、体型と構成の関連性を理解し、着心地の良い作品を作る。製作実習により衣生活の重要性を学ぶとともに快適な衣生活の提案ができるように知識と技術の修得を目指す。更に、介護福祉士養成に向け、支援の必要な方への生活支援技術の習得につながるよう高等学校で家庭科教育に携わってきた教科指導での実務経験を生かし、基礎的技術の習得のために作品製作（基礎縫い・ブラウス・アウターパンツ）をとおして実践力向上に向けて理解を深め、基本から応用までの技術修得を目指す。 また、ワークシートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 [授業全体の内容の概要] ☑ 基本的な被服製作実習を通し技術の修得と定着を図るとともに、資質を育むため選択製作実習を取り入れ主体的に製作できる力を養う。 [実務経歴] 福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HL2233			
達成目標	①体の機能や形態を理解するとともに立体構成（洋裁）とは何かを理解できる。☑ ②衣生活分野を学ぶ意味について理解し、製作実習に必要な力を養う。☑ ③基本的な洋裁技術を修得するとともに、介護に携わる支援者としての実践力を養う。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的な評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	上記対象学生、介護福祉士資格取得希望の学生	成績評価 方法	①授業への意欲・態度 20%、②課題：部分作品（パターン、袖、衿等）20%、③完成作品（基礎縫い、ブラウス製作、選択製作）50%、④課題（レポート等）10%とし、①から④までの総合評価により60%以上を合格とする。	
教科書	自作テキスト配布。			
参考書	文部科学省後援：全国高等学校家庭科被服製作技術検定指導要項、「ファッション造形基礎」「パターン・裁断・縫い方の基礎の基礎」文化出版局、文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座「ブラウス・ワンピース」文化出版局			
学生への要望	1. 主体的・意欲的に取り組むこと。2. 実習用具、材料は指示通り各自用意すること。3. 製作が遅れてしまった場合は、空き時間を活用し進捗を揃え、完了できるように心掛けること。			
オフィスタイム	家政学館 4 F 被服学研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	オリエンテーション 1) 被服製作に必要な実習用具について理解する。 2) 衣生活における製作の意味を考える。	シラバスを確認し演習内容を理解する	20
2	実習内容と留意事項について	1) 実習計画の提示☑ 2) 体型と立体構成について☑ 3) 被服製作の基本	シラバスを確認し演習内容を理解する ワークシートの整理	30
3	被服製作における基本	1) 洋裁の基礎知識☑ 2) 基本的技術の確認と定着 3) 基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
4	被服製作における基本	1) 洋裁の基礎知識☑ 2) 基本的技術の確認と定着 3) 基礎縫いの実施と評価	ワークシートの整理	30
5	被服製作	1) パターンの記号を学ぶ☑ 2) パターンの利用の仕方と指導上の留意点を学ぶ	ワークシートの整理	30
6	ブラウスパターン作図	1) ブラウスのパターンを選定 ☑ 2) ブラウスパターン製図。提出カードに採寸結果・縮尺図・デザイン画を記入提出☑ 3) 使用用布の準備。各布地による地直しの方法学ぶ	パターンの展開方法を理解する	30
7	ブラウス製作①ー基本を学ぶー	1) パターン修正 ☑ 2) 裁断。型紙の置き方、針の打ち方、印のつけ方、裁断方法を学ぶ☑	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30
8	ブラウス製作②ー基本を学ぶー	1) 本縫い☑ 2) 縫い代始末方法を学ぶ。a、ジグザグミシンの方法。 b、ロックミシン c、端ミシン☑ 3) 接着芯の理解と取り扱いを学ぶ	パターンの展開方法を理解する 裁断前の準備について理解する ワークシートの作成	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	ブラウス製作③	ロックミシンの必要な個所を確認する。ロックミシンの使い方を学ぶ。ロックミシンを活用して縫いしろ始末を行う。※安全面に留意して、布地の扱いに配慮しながらロックミシンをかける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
10	ブラウス製作④	身頃本縫い まち針の打ち方、髷のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。☑身頃ダーツを縫い、始末の方法を学ぶ	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
11	ブラウス製作⑤	身頃本縫い まち針の打ち方、髷のかけ方、ミシンかけの方法を学ぶ。ポケットを作り、身ごろにポケットをつける。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
12	ブラウス製作⑥	表衿と裏衿の特徴を理解し、確認を行い、衿づくりを実施する。角衿の場合のきれいな角の出し方について、実技により学ぶ。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する 衿について提出できるように準備する	30
13	ブラウス製作⑦	デザインを生かした技法について学び、実践する。身ごろのヨークと肩、後ろ身ごろにタック寄せ、ギャザー寄せ等の手法を理解して身ごろの構成を考えながら製作する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
14	ブラウス製作⑧	衿と身ごろとの関係を理解して、きれいにつけて仕上げるための方法について学ぶ。待ち針の役割を理解し、待ち針の打ち方を実践できるようにする。バランスを考えながら身ごろに衿がつけられるようにする。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
15	ブラウス製作⑨	バイアステープの役割について学び、衿付け縫い代始末の方法として扱い方を理解する。衿付け縫い代の始末をする。切り込みの必要性について理解し、きれいな仕上げに向けて実践する。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
16	ブラウス製作⑩	袖付けを行う。左右の確認と身ごろとの関係に留意して立体的に仕上げることの構成上のポイントを学び、袖をつける。袖下脇縫いを行う。	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
17	ブラウス製作⑪	見返しと裾の始末を行い、仕上げを行う。 ミシンによるボタンホール製の、ボタン穴の開け方を学ぶ。☑	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
18	ブラウス製作⑫ー相互評価ー	1) 仕上げ 2) 着装から相互評価を通して、立体構成の意味を理解する 3) 自己評価票を作成して提出	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
19	選択製作ーアウターパンツ①	1) 製作計画の作成 2) デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
20	選択製作ーアウターパンツ②	1) 製作計画の作成 2) デザイン、型紙作成	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
21	選択製作ーアウターパンツ③	1) 製作計画の作成 2) 裁断	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
22	選択製作ーアウターパンツ④	縫い代始末、しるしつけ☑	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	0
23	選択製作ーアウターパンツ⑤	1) 縫い代始末、しるしつけ☑ 2) ポケット付け	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	0
24	選択製作ーアウターパンツ⑥	脇縫い、また下縫い、また上縫い	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
25	選択製作ーアウターパンツ⑦	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
26	選択製作ーアウターパンツ⑧	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
27	選択製作ーアウターパンツ⑨	ウエストの始末、裾の始末	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
28	選択製作ーアウターパンツ⑩	仕上げ、相互評価	製作の手順を理解する 製作の計画をワークシートに整理する	30
29	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出☑ ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	総合評価	作品提出と共に、レポート課題の提出☒ ※洋裁の技法及び服の成り立ちを学び、快適な衣生活を提案できるようにする。	レポートの作成	60

科目名	食品栄養学	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 2年 2単位 選択	
担当教員	郡司 尚子			
開講期	前期			
授業概要	〔授業の目的、ねらい〕 ☒ ヒトが身体を維持して生命活動を営んでいくために必要とされる栄養素(糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル)の基礎を学び、日常生活を送るうえで気を付けるべきことを知ることを目的とする。☒ 〔授業全体の内容の概要〕 ☒ 栄養素の基本的知識と共に、栄養摂取時の過剰症、欠乏症などについても学ぶ。食物の代謝(体内での分解・合成)や各栄養素を豊富に含む食品などについても学ぶ。☒ 〔課題(試験やレポート等のフィードバック)〕 ☒ レポートの提出後、コメントしてフィードバックを行います。☒ 〔位置づけ・水準〕 ☒ HL2235			
達成目標	〔達成目標〕 ☒ 食品に関わる「栄養」「栄養の欠乏症、過剰症」「食物の代謝」などを理解することで、食品や食材を購入する際や献立作成、調理時に、用途に合わせた食品を用いることができる技術を養えることを達成目標とする。☒ 〔単位認定の最低基準〕 ☒ 内容の6割を理解していること。☒ 〔ディプロマ・ポリシーとの関係〕 ☒ 1)知識・理解 2)問題解決力			
受講資格	家政学部 人間生活学科	成績評価 方法	定期試験の結果(60%)☒ 発表・レポート(40%)	
教科書	栄養の基本がわかる図解事典 成美堂出版 監修：中村丁次 1,540円 (2020.4.1発行)			
参考書	八訂食品成分表2021 (女子栄養大学出版部)			
学生への要望	食品や栄養に関する書籍や記事にも興味を持って目を通すようにしてください。			
オフィスタイム	水曜日の4コマ(No.2食品学研究室)☒ 木曜日の2コマ(No.2食品学研究室)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康・栄養の新事情	シラバスで本授業のガイダンスを行う。 最新データから見る、健康・栄養の現状について説明する。 また、授業最終日の課題発表について説明を行う。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
2	栄養の概念	栄養素・栄養について、栄養素の種類と働き、食事摂取基準、バランス献立の基本型、栄養と病気のかかわりなどについて説明する。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
3	活動と栄養 ～身体活動とエネルギー～	エネルギー出納、基礎代謝、摂取エネルギー、スポーツと栄養について説明する。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
4	栄養素の基礎知識 【炭水化物】	炭水化物の特徴・生理作用・過剰・炭水化物を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
5	栄養素の基礎知識 【脂質】	脂質の特徴・生理作用・過剰、不足・脂質を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。また、脂肪酸の種類についても学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
6	栄養素の基礎知識 【たんぱく質】	たんぱく質の特徴・種類・生理作用・過剰、不足・たんぱく質を多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。また、アミノ酸についても学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
7	栄養素の基礎知識 【ビタミン①】	脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンの違い、脂溶性ビタミンの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・脂溶性ビタミンを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
8	栄養素の基礎知識 【ビタミン②】	水溶性ビタミンの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・水溶性ビタミンを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
9	栄養素の基礎知識 【ミネラル①】	多量元素ミネラルと微量元素ミネラルの違い、多量元素ミネラルの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・多量元素ミネラルを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
10	栄養素の基礎知識 【ミネラル②】	微量元素ミネラルの特徴・種類・生理作用・過剰、不足・微量元素ミネラルを多く含む食品、食事摂取基準について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	機能性成分について	食品が持つ機能性について、保健機能食品について説明後、健康を守る注目の成分(フラボノイド、ポリフェノール、オリゴ糖、乳酸菌など)について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。	60
12	代謝のしくみ	食欲の仕組みを理解し、食物が体内でどのように消化、吸収、代謝、排せつされていくかを学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 発表課題のまとめ。	60
13	病状別の栄養①	食べる食品の種類、食べ方などによって引き起こされる疾病(肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症、サルコペニアなど)について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 発表課題のまとめ。	60
14	病状別の栄養②	食べる食品の種類、食べ方などによって引き起こされる疾病(肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、骨粗鬆症、サルコペニアなど)について学ぶ。	講義内容の振り返りと次週授業部分のテキストを読んでおく。 発表課題のまとめ。	60
15	まとめ	本授業で学んだものの中から、特に自分で興味を持ったことについて、一人5分程度でパワーポイントを使用して発表する。発表原稿をプリントして提出する。	講義内容の振り返りとテスト内容の確認を行う。	60

科目名	調理学演習	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
担当教員	瀬谷 真理子,大泉 由美		
開講期	前期		
授業概要	支援の必要な高齢者等がおいしく楽しめる介護食をつくるための基礎的な調理知識と技術を学習するとともに家庭において豊かな食生活を営めるよう基礎的な調理知識と技術を学習する。前半は一般的なスローフードに配慮したレシピでの調理を経験し、基礎的技術を修得する。後半は、日常食や行事食及び状態別献立として子どもや高齢者、成人向けの献立等、食材や調理方法の工夫により演習する。調理内容は、スローフード視点を大切にしながら選択した代表的な料理（日本料理・西洋料理・中国料理）の中から学び実践力を高める。実践的な演習を通じて、調理学の基本的な知識や技術修得とともに食材の栄養価や色・形・味・香などの調理による変化とその理由を五感で理解する。さらに、自宅での実践により応用力を身につけ、科学的視点を踏まえながら探究的視野でレポート作成を実施する。提出後のレポートを添削・返却し、フィードバックを行う。☑ さらに福島県高等学校での家庭科教員としての実務経験を生かしながら実践的な指導により基本から応用までの力を養う。 実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HL2336		
達成目標	①高齢者や介護を必要とする方をはじめ状態別献立を考慮し、それぞれの調理方法を習得し、実践できる。 ②日本料理、西洋料理、中国料理の代表的献立から料理の基本を理解し、実践できる。 ③日常的な献立から行事食までの調理について、基礎的な知識技術を習得し、生活支援技術の一つとして実践力を高める。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力		
受講資格	介護福祉士、教職履修者は必修	成績評価 方法	①授業態度：20％、②実技：40％、③レポート：40％ 以上の ①から③を総合評価して60％以上で合格とする。
教科書	「基礎から学ぶ調理実習」オーム社 ☑ プリント配布		
参考書	「フードデザイン」教育図書、家庭科教育振興会 全国高等学校家庭科技術検定実施要項		
学生への要望	準備から後片付けまでが調理学実習の一環と考え、積極的に取り組むこと。☑ また、豊かな食生活は家族団楽を営む基礎となることを理解し、実習後は自宅での実践（復習）を必ず実施し、家族とのコミュニケーションを深める一助とすることを期待する。		
オフィスタイム	被服学研究室（家政学館4階）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス（1） 授業の進め方や評価方法／食材の下ごしらえ・切り方など	シラバスにそって授業の概要や到達目標、評価方法などを説明する。授業を受けるにあたって特に必要となる授業後のレポート作成と自宅での実践の必要性を認識する。☑	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。	30
2	ガイダンス（1） 実習室・調理器具について・授業の進め方や評価方法	調理実習室の使い方、調理器具の使い方、洗い方、手入れ等について基本を学ぶ。使用していく教科書を用いて、調理の基本、調理実習時の衛生管理について理解させる。食することの意味について考え、ディスカッションする。	本日の講義内容をまとめ、問題点をピックアップする。ワークシートの作成を行う。	30
3	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①（ミルクゼリー：介護食）	【文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
4	ガイダンス（2） 文化鍋の使い方／西洋料理①（ミルクゼリー：介護食）	【文化鍋での炊飯とドライカレー、春野菜のスープ、いちごのミルクゼリー】のつくり方を学ぶ。 ①炊飯の原理を理解し、文化鍋での炊飯の仕方を学ぶ。 ②ゼラチンの特徴と扱い方を学ぶ。 ③果物の扱いについての基本を学ぶ。	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
5	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☑ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理☑ ②炊き込み飯の種類と作り方☑ ③だしの取り方☑ ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い☑	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	日本料理① 旬の食材を使った調理	旬の食材を使った調理について学ぶ。【たけのご飯、若竹汁、たけのこの天ぷら、いちご大福】☒ ①たけのこの下ごしらえと部位別調理☒ ②炊き込み飯の種類と作り方☒ ③だしの取り方☒ ④揚げ物について、衣のつくり方と揚げ方 ⑤白玉粉の特徴と取り扱い☒	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
7	西洋料理② (ブラマンジェ：介護食)	【コンソメジュリアン、グラタン、グリーンサラダ、ブラマンジェ】 代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
8	西洋料理② (ブラマンジェ：介護食)	【コンソメジュリアン、グラタン、グリーンサラダ、ブラマンジェ】 代表的な西洋料理の基本を学ぶ。 ①ホワイトソースの理解、作り方 ②エビの下ごしらえと扱い ③ドレッシングの基本と作り方 ④コーンスターチの特徴と扱い方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
9	日本料理② (そばろ・フルーツ羹：介護食)	【そばろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】 日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そばろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
10	日本料理② (そばろ・フルーツ羹：介護食)	【そばろ飯、吉野鶏の澄まし汁、青菜のごま和え、フルーツ羹】 日常的な和風献立の基本を学ぶ。 ①そばろのつくり方 ②煮出し汁の取り方と澄まし汁 ③野菜のゆで方と和え物の要領 ④寒天の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
11	中国料理① (とろみのあるスープ：介護食)	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴☒ ②寒天の扱い方☒ ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
12	中国料理① (とろみのあるスープ：介護食)	【青椒肉絲、黄花湯、奶豆腐】 代表的な中国料理のつくり方を学ぶ。※一品を実技テストを兼ねて行う。 ①中国料理の基本と特徴☒ ②寒天の扱い方☒ ③とろみのあるスープ（湯）のつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
13	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】 日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
14	中国料理②	【什錦炒飯、涼拌三絲、西米椰汁】 日常的な中国料理のつくり方を学ぶ。 ①炒飯の要領、食材の扱い ②はるさめの扱い方 ③薄焼き卵のつくり方 ④和え物の要領 ⑤タピオカの扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	状態別献立① ～高齢者向け和風献立～（しんじょ：介護食）	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】 ①炊き込みご飯のつくり方 ②各食材の扱い ③しんじょの扱い ④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
16	状態別献立① ～高齢者向け和風献立～（しんじょ：介護食）	状態別献立として、実施する。高齢者向けの内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【炊き込みご飯（五目ごはん）、エビしんじょの澄まし汁、かぼちゃのそぼろあんかけ】 ①炊き込みご飯のつくり方 ②各食材の扱い ③しんじょの扱い ④そぼろあんのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
17	状態別献立② ～子供向け洋風献立～（二色ゼリー：介護食）	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】 ①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。 ②クリーム煮の基本を理解する。 ③トマトの扱い方を理解する。 ④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
18	状態別献立② ～子供向け洋風献立～（二色ゼリー：介護食）	状態別献立として、実施する。子供向け（幼児・児童期）の献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【チキンピラフ、じゃがいもときのこのクリーム煮、トマトカップサラダ、二色ゼリー】 ①ピラフのつくり方、米の扱い方を理解する。 ②クリーム煮の基本を理解する。 ③トマトの扱い方を理解する。 ④ゼラチンの扱いと応用調理	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
19	状態別献立③ ～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】 ①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
20	状態別献立③ ～成人向け和風献立～	状態別献立として、実施する。成人向けの献立内容として基礎知識の定着と基本的技術の定着を図る。【肉じゃが、菜飯、切り身魚のホイル焼き、カブと油揚げの味噌汁】 ①基本的な煮物のつくり方 ②ホイル焼きの要領 ③味噌汁の基本	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
21	中国料理③（とろみのあるスープ：介護食）	【古老肉、涼拌海蜇、粟米湯】 日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	中国料理③ (とろみのあるスープ：介護食)	【古老肉、涼拌海蜇、粟米湯】 日本で好まれ日常食となっている中国料理を実施する。 ①中国料理の溜菜の要領を学ぶ ②くらげの扱いを理解する ③とろみのあるスープの応用について	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
23	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
24	弁当料理	日常食の一つとして昼食の献立を弁当料理として、基本的な理解と実践を行う。※盛り付けの実技テストを行う ①主菜、副菜への理解 ②常備菜のつくり方 ③彩の工夫	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
25	行事食① 誕生日の献立（ひき肉料理：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
26	行事食① 誕生日の献立（ひき肉料理：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。※一品を実技テストとして行う。【ハンバーグステーキ、クラムチャウダー、フルーツサラダ】 ①ひき肉を使った焼き物のつくり方 ②つなぎ材料の役割とその割合 ③貝類の扱い、煮込み方 ④果物の扱い、ソースのつくり方	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
27	行事食② 七夕祭りの献立（寒天：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
28	行事食② 七夕祭りの献立（寒天：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【ちらし寿司、澄まし汁、青菜の辛し和え、フルーツみつ豆】 ①酢飯のつくり方 ②だし汁の取り方 ③青菜の扱い方 ④寒天の扱いと白玉粉の扱い	説明したレポートの書き方にそって、本日の演習内容結果をレポートにまとめるとともに発展として食材や調理方法等の探究を行う。さらに、学んだ料理を自宅で実践し、レポート作成する。	60
29	行事食③ 敬老の日の献立（茶わん蒸し：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぷら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	行事食③ 敬老の日の献立（茶わん蒸し：介護食）	行事食として、日常の中の食生活に家族のお祝いを考えた調理の実践を行う。【天ぶら、茶わん蒸し、豆ごはん、水ようかん】 ①揚げ衣のつくり方 ②卵の性質、蒸し物の要領 ③寒天の扱い		60

科目名	家庭電気・機械	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択	
担当教員	石原 正道			
開講期	後期			
授業概要	日常では様々な機器を利用することで、日々の生活を快適に過ごすことができる。これらの機器は便利ではあるが、一方で使い方を誤ると危険でもある。本講義では、機器を有効かつ安全に利用でき、機器の維持管理を行えるよう、日常生活で利用している機器について動作原理・構造・注意点を学ぶ。 フィードバックとして理解度確認ペーパーの返却・課題内容の説明等を行う。 位置づけ・水準 HL2340			
達成目標	本講義では機器の原理および構造を理解するために、(1)基本的な物理法則の理解すること、(2) 機械の動作原理の理解すること、(3) 家電製品の動作原理の理解すること、を目標とする。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・理解			
受講資格	なし。	成績評価 方法	課題(理解度の確認) 2 回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、理解度確認ペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚 (表裏記入可) のみに限る。成績評価の観点は、 1) 基本的な物理法則の理解、2) 機械の扱い方や構造や原理の理解、 3) 家電製品の動作原理の理解、である。科目の特性から、とくに 2) と 3) に重点を置く。	
教科書	適宜プリントを配布する。			
参考書	・池本 洋一, 吉田 章, 家庭機械・電気・電子, 理工学社 (1996) ・小暮 陽三, 物理で読みとく フシギの世界, 日本実業出版社 (2002) ・横田 俊昭, ぶつり学, 共立出版 (1993)			
学生への要望	基本的な物理を理解していることが望ましい (科目「生活物理学」を履修していることが望ましい)。			
オフィスタイム	水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室 金曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	講義の目的・内容・成績評価の方法・資格との関係などの説明を行う。次回以降の準備として、数学の基礎事項(比率・指数・接頭辞・比例と反比例)を復習する。	本時の復習として冪乗の計算および比例・反比例の変数間の関係を確認すること。	15
2	基礎物理	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原理解を学ぶ。状態の記述に必要な位置・速度・加速度の概念を復習したのち、運動の記述に必要な力や、保存則と関係する運動量・角運動量の基礎事項を学ぶ。	本時の予習として冪乗の計算および比例・反比例の変数間の関係を確認しておくこと。また本時の復習として力・運動量・角運動量の定義を調べておくこと。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
3	基礎物理および機械の構成要素	機器の構造等を理解するために必要となる、運動の基本原理解を学ぶ。モーメント・仕事・仕事率・エネルギー・エネルギー保存則の基礎事項を学ぶ。これらの基礎事項を学んだのちに、機械の構成要素(道具やリンク機構)を学ぶ。本時では様々な道具を実際に触ることで道具への理解を深めることとする。またノギスやマイクロメーターを用いて様々な物体の長さ・厚さ・深さを測り、道具の使用方法を学ぶ。	本時の予習として力・運動量・角運動量の定義を確認しておくこと。本時の復習として各保存則とリンク機構について確認しておくこと。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
4	機械の構成要素	機械の構成要素としてベルト・チェーン・歯車・軸などを学ぶ。また回転とモーメントの関係や仕事の原理とシーソーやギアなどの機構の関係を学ぶ。	本時の復習として、配布されている資料と授業内容をもとに機械の構成要素について整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	熱力学基礎	人間は有限温度中で生活し、実生活では熱を扱う機会が多い。そのため機器でも熱を扱うものが多い。ここでは熱や温度とは何かを復習し、動作原理を理解するための基礎となる理想気体の状態方程式を理解することとする。また熱に関する基本的な法則である熱力学第一法則・第二法則についても概略を学ぶ。	本時の復習として熱力学の第一法則および第二法則の内容を確認すること。また日常現象に熱力学の法則がどのように関連しているか確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
6	熱を利用した機器	燃焼に関係する器具や機関について学ぶ。バーナーやヒーターといった気体や液体燃料を利用する燃焼器具、内燃機関と外燃機関の違い、内燃機関であるエンジンの基本動作などについて学ぶ。	本時の復習として、本時で扱った器具や機関の仕組みを整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
7	ヒートポンプ	実生活では温度を適切に調整することが必要な場合がある。ここでは熱力学の観点からヒートポンプの原理を理解し、ヒートポンプの特徴を学ぶ。とくに効率の観点からヒートポンプの優位性を理解し、ヒートポンプの利用例を知ることとする。	本時の復習として、ヒートポンプのサイクルにおける各過程での熱の出入り及び温度の高低を再確認すること。またヒートポンプの特徴を再確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
8	冷蔵庫	現代の家庭では、冷蔵庫は必須の電気機器である。冷蔵庫はヒートポンプを応用した冷蔵庫のほか、様々なタイプの冷蔵庫があることを学ぶ。また、それぞれの冷蔵庫の冷却原理について学び、どのような特徴があり、どのような場所で使用されているのか学ぶ。	復習として、冷却方法を整理すること。また電気冷蔵庫の冷却方法とヒートポンプのサイクルにおける過程を対応をまとめてみる。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
9	課題 1	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。	120
10	電磁気の基礎と電気の伝達	日常機器の殆どは電気を利用して動作する。このため日常機器の動作を理解するには電磁気の基本的な性質を理解しておく必要がある。ここでは電気・磁気・電磁波などの電磁気の基礎的な概念や性質を学ぶ。また電気を伝達する上での注意事項を学ぶ。	本時の復習として、電気と磁気の関係や電磁気学における各種法則について整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
11	電力生成と蓄電	電気のエネルギーは便利なエネルギー形態である。しかし現在の技術では、多くの電気によるエネルギーを蓄えておくことは容易でない。このため、必要に応じて他のエネルギーを電気のエネルギー(電力)に変換する必要がある。電力は発電所で作られていると考えがちであるが、家庭でも電力を生成することがある。電気を利用した機器を理解するため、ここでは電力の生成方法や蓄電方法について学ぶ。	本時の予習として、本授業の前半で学んだエネルギー保存則を確認しておくこと。本時の復習として、電力生成を電磁気学の基本法則で説明できるよう、電力生成の原理を確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
12	電磁気を利用した調理システム	家庭における電磁気を利用した器具に調理器がある。ここでは電気あるいは磁気を利用した調理器である、電磁調理器(IH)・電気炊飯器・電子レンジの動作原理を学ぶ。動作原理を知ること、これらの機器の危険な面も理解することとする。	本時の復習として、誘導加熱と誘電加熱の原理を確認すること。また両加熱方法の違いを確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
13	電気を利用した発光システム	現代社会において灯りは必須のものである。ここでは光を供給する電球・蛍光灯および近年使用されることの多い、Light Emitting Diode(LED)の仕組みを学ぶ。それぞれの製品の特徴を掴み、適切な使用ができるよう理解をはかる。本時では圧電素子や電子レンジを利用して蛍光灯を光らせる簡易実験を行い、蛍光灯の発光原理を理解する。また本簡易実験により、前回の授業で学んだ電子レンジの加熱原理を確認する。	本時の復習として、発光原理とエネルギーの利用効率について整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	ディスプレイと情報の記録	液晶等が実用化されたことで、ディスプレイの厚さは極めて薄くなり取り扱いが簡単になった。ここでは広く用いられている液晶などの原理を学び、どのような機器に用いられているか学ぶ。また、これまで情報を記録するには紙媒体が使用されてきたが、コンピュータの普及に伴い、情報を電子媒体に記録されることが増えてきている。ここでは情報の記録方法について、機械と磁気の観点から学ぶことにする。	本時の復習として、本時で説明したデータ保存用の機器の実物を、Webなどで確認すること。またその際に示されている接頭辞を確認すること（接頭辞は本授業当初の説明事項である）。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
15	課題2	これまでの内容理解を確認するための課題を行う。課題実施後にこれまでの内容について整理する。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。	120

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	通年			
授業概要	2年次までに学んだ建築学と個々人の将来を見据えて、興味ある卒業研究テーマを決定する。また、統計処理の手法について学ぶ。課題発見及び問題解決に関わるレポート等に対して、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	単位認定の最低基準は以下に示す①～③について、7割達成していること。☒ ①研究方法やその進め方、各種分析の方法を把握し、論理的に物事を捉える能力を養う。☒ ②論文構成や文体を学ぶ。☒ ③興味あるテーマの社会的意義を考え、問題解決に向けた思考力を培う。☒ ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力・問題解決力」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習経験・創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	①自主性・積極性などの取り組む姿勢50%☒ ②研究報告・発表50%☒	
教科書	資料を配布する。			
参考書	個々に指導・提示する。			
学生への要望	様々な論文を読み、積極的に調査をすすめること。また、建築に関わることに問題意識を持つこと。			
オフィスタイム	家政学館 4 階 生活科学研究室 月曜Ⅰ・Ⅱ時限（8：50～12：00）☒ 木曜Ⅰ時限（8：30～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	今後のゼミの進め方	研究テーマ決定の際に研究の目的や、独自性、研究結果の仮設が重要であることについて解説する。☑	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
2	研究方法について	研究の目的によって、研究方法が多数あることを事例を踏まえて述べる。☑	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
3	研究の時間配分	限られた時間の中で研究を達成する為に、研究に要する時間の配分について、各々が考えることを促す。また、この作業が社会に出てからの仕事にも重要であること述べる。☑	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
4	章立てについて	予め論文の章立てをすることにより、全体を掌握することの重要性について述べる。☑	研究テーマに沿った章立てをすることで、研究の方向性を明確にする。	60
5	アンケート調査について	アンケート調査の質問方法について、事例を用いて説明する。質問方法によって回答を導くことの弊害等についても述べる。また、SD法の質問による統計処理について説明する。☑	アンケート調査の事例を整理する。	60
6	統計処理 1	統計処理の利点と弊害について述べる。続いてアンケート調査に必要な単純集計の手法について述べる。☑	統計処理の手法について理解を深める。	60
7	統計処理 2	クロス集計の手法と意義について述べる。	クロス集計の手法について理解を深める。	60
8	統計処理 3	SD法による調査における、相関関係、相関係数について説明する。☑ ☑	SD法による調査法について理解を深める。	60
9	統計処理 4	エクセルを用いて因子分析の意味と手法を学ぶ。☑	エクセルを用いた因子分析について理解を深める。	60
10	統計処理 5	例題を与えて因子分析の分析結果を読む学習を行う。	エクセルを用いた因子分析について理解を深める。	60
11	統計処理 6	エクセルを用いて主成分分析の意味と手法を学ぶ。☑	エクセルを用いた主成分分析について理解を深める。	60
12	統計処理 7	例題を与えて主成分分析の分析結果を読む学習を行う。☑	エクセルを用いた主成分分析について理解を深める。	60
13	研究テーマの模索 1	興味のある研究テーマについて考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
14	研究テーマの模索 2	引き続き、興味のある研究テーマについて考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	研究テーマの決定 1	個々に研究テーマを決定する。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
16	先行研究の調査 1	研究の独自性が最も重要であることから、先行研究の調査が必要であることを述べ、先行研究に親しむことを促す。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
17	先行研究の調査 2	決定した研究テーマに関する先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
18	先行研究の調査 3	引き続き、先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
19	先行研究の調査 4	引き続き、先行研究の調査を進める。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
20	研究方法決定	テーマに対する有効性を検討し、研究方法を決定する。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にする。	60
21	論文構成の検討	論文全体の構成を考える。	研究テーマの目的を達成するために、先行研究、方法論等模索し、研究の方向性を明確にし、構成を考える。	60
22	論文の章立て	論文の章立てについて検討する。	構成と章立てを整理する。	60
23	研究テーマ発表	個々に研究テーマ・研究方法・章立てについて発表し、その有効性について討論する。	研究テーマについて先行研究等を踏まえてその有効性を検討する。	60
24	研究テーマの決定 2	前回のテーマに関して、改善点を検討する。以後、個人指導とする。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
25	研究計画と資料収集 1	研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
26	研究計画と資料収集 2	継続して、研究テーマに関する研究計画を立て、資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
27	調査研究と資料収集 3	研究計画の基づき、調査研究を開始する。また、テーマに沿った資料を収集する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
28	調査研究と資料収集 4	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
29	調査研究と資料収集 5	継続してテーマに沿った資料を収集する。また、調査研究の経過を確認する。	研究テーマ、方法論を明確にし、研究をすすめる。	60
30	研究経過報告	これまでの作業を振り返って、来年度の論文完成に向けての予定を立てる。☑	論文完成に向けて計画を立てる。	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修
担当教員	石原 正道		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究の内容は物理・情報に関する研究のみならず、計量文献学・応用統計など非常に多岐に渡ります。卒業研究Ⅰでは主に研究を進めるための基礎的な知識と技術を得ることを目的とします。テーマによって異なりますが、統計処理・数的な処理(数式の演算)・プログラミングなどを学ぶことになります(建築デザインコース向けの研究では数式は扱うものと考えてください)。☒ 資料の取集状況の確認や修得した統計処理方法の確認等により、研究の方向性の決定や研究過程における修正を通じてフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2351		
達成目標	卒業研究では(1)問題を発見する力を養うこと、(2)課題を解決するために、資料を収集し、考察を行い、結論を導く力を得ること、(3)結論を伝達するための、論理的な文章の作成力・発表技術を身につけること、を養成することを目標とします。☒ 卒業研究Ⅰでは、これらの目標を達成するための基礎的な知識と技術を得るため、(1)必要な資料の収集と内容の把握ができること、(2) 数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、☒ (3)大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること、を目標とします。☒ ☒ 単位認定の最低基準：内容の8割を理解していること☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」「総合的な学習経験、創造的思考力」		
受講資格	なし	成績評価 方法	研究を進める上で必要となる基礎的な知識と能力の習得状況により判定します。☒ 具体的には、(1)必要な資料の収集と内容の把握ができること、(2)数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、(3)大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること、を評価対象とします。評価割合は(1)を40%、(2)を30%、(3)を30%とします。ただし研究テーマによって(1)から(3)で不必要な項目がある場合は、不必要な項目を除いた残りの項目を均等(50%)に評価します。
教科書	適宜提示する。		
参考書	適宜提示する。		
学生への要望	卒業研究を完了するには自学自習する必要があります。目標を明確にし自学自習を進めてください。		
オフィスタイム	前期 月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室☒ 水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ 後期 水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ 金曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ ☒ 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。☒ アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。	事前に自分の興味のある事柄について整理しておくこと。	30
2	研究テーマの設定	卒業研究として行う研究テーマとしてどのようなものが可能であるか提示し、卒業研究のテーマについて相談・決定していきます。	事前に自分の興味のある事柄について整理しておくこと。	30
3	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☑ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
4	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☑ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
5	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☑ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
6	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☑ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
8	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
9	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
10	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
11	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
12	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
13	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
14	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
15	研究テーマに沿った基礎事項の習得	将来必要となると予想される、研究に必要な基礎事項について学習していきます。☒ 内容は研究テーマによって異なりますが、統計処理などの習得を進めていきます。	研究に必要な基礎事項を学んでいくので、学習した内容(統計処理等)を自ら再度確認すること。	60
16	基礎事項習得状況の確認	卒業研究前半の基礎事項習得状況を確認します。	これまでに学んだ事項について整理・確認しておくこと。	120
17	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることに。 また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
18	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることに。 また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
19	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることに。 また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
20	文献調査	卒業テーマに沿った文献の収集を行います。	予め必要となる文献を選定してみることに。 また収集した文献の基礎データを一覧としてまとめること。	30
21	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
22	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
24	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
25	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
26	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
27	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
28	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
29	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90
30	文献内容の整理	収集した文献の内容把握を行います。☒ 目的・結論・仮定などについてまとめ、文献での主張や研究の問題点があるかなどを把握していきます。☒ また必要に応じて、更に文献を収集していきます。	内容を確認した論文について、要点をまとめてデータベース化すること。	90

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	これまでの学修や体験、また専門的な知識・技術を基に自らの疑問を明らかにして、研究テーマを確定する。☑ 課題・レポートの発表を元にディスカッションを行い、その都度口頭や添削によるフィードバックを行います。☑ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの生活相談員として相談援助の実務経験をもとに社会福祉分野での研究・調査について授業を行う。☑ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☑ 位置づけ・水準 DS2361			
達成目標	自らのテーマに対して、その答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得することができる。☑ 1. 明確にしたい解決すべき現象・問題などを絞り込み、研究課題を決定する。☑ 2. 研究目的を明らかにする。☑ 3. 研究目的にそって研究計画をたてる。☑ 4. 研究計画にそってデータを収集する。☑ 単位認定の最低基準：研究の意義と倫理について8割理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題50%、経過報告・演習等の発表50%	
教科書	ありません。随時、印刷物の配布			
参考書	ゼミの中で随時紹介			
学生への要望	関係資料の情報の取り方、また先行研究等について素朴な疑問を大切にアセスメントを意識して主体的に発表すること。			
オフィスタイム	・水曜日 Ⅰ時限 ・木曜日 Ⅰ限 ☑ 創学館4階 No.1研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究の意義、進め方について学ぶ。☑ これまでの授業、体験から興味のあることについて発表する。☑	現在、興味のある事象やテーマについてその理由を含め具体的に発表できるように準備する。	60
2	テーマ設定に向けて（1）	研究テーマの設定についての方向性を明確にする。 各自、調べたことを発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
3	テーマ設定に向けて（2）	学生が関心を持っている研究内容についてディスカッション	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
4	論文の書き方（1）	卒業論文の書き方について解説する。 研究倫理教育（論文作成のきまり）☑ ・☑会福祉学会倫理規定のガイドライン（参考資料） ・引用文献☑ ・専門用語の定義のしかた 前回の授業で指示された内容について各自発表	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
5	論文の書き方（2）	文献の必要性☑ ・文献などの探し方☑ ・データの収集方法☑ ・新聞記事の切り抜きと辞書の活用☑ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。 ☑	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
6	論文の書き方（3）	参考文献の活用法☑ ・参考文献の読み方☑ ・データのまとめ方☑ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。 ☑	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
7	研究手法について（1）	量的研究☑ ・アンケート調査に関する基本的知識について☑ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
8	研究手法について（2）	量的研究☑ ・アンケート調査の方法について 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	研究手法について (3)	質的研究☒ ・面接調査に関する基本的知識☒ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
10	研究手法について (4)	質的研究☒ ・面接調査の方法について学ぶ☒ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
11	テーマ設定に向けて (3)	研究テーマを決定する。☒ 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
12	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	ゼミの中で指示されたことを調べて、発表できるように準備する。	60
13	先行研究	文献の検索方法として、キーワードを入力し、研究テーマに関する先行研究について学習する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
14	事前学習 (学外学習)	学外学習の見学先について、抱えている課題などについて確認する。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
15	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
16	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
17	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
18	学外学習 (8～9月実施)	福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。 前回の授業で指示された内容について各自発表する。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	60
19	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
20	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
21	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
22	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
23	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
24	仮テーマに関する先行研究調査	テーマに関係する文献を調査・収集し整理する。その際、疑問・批判をまとめテーマについて探求する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
25	研究計画書の作成	テーマに関する、調査計画書を作成し討議する。修正箇所を明らかにする。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
26	研究計画書の作成	テーマに関する、調査計画書を作成し討議する。	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	調査依頼	調査書など調査に関係す書類の作成	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
28	調査依頼	調査書など調査に関係す書類の作成	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
29	調査依頼	調査書など調査に関係す書類の完成	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60
30	調査の実施	調査を実施する	ゼミの中で指示されたことを調べ、発表のためレポートを作成する。	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	通年			
授業概要	・卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている☑ ・卒業研究Ⅰでは、先行研究を調査・分析することで、自身のテーマ・目的を明確にし、テーマに即した研究手法を修得する 課題に対するフィードバック方法 課題を添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	・テーマに関する基礎的な知識が理解できている☑ ・テーマに即した研究手法が修得できている☑ 単位認定の最低基準：研究テーマに関する基礎的知識の8割を修得している。 ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	生活科学科学生	成績評価 方法	課題70％、経過報告・演習等の発表30％	
教科書	特になし			
参考書	地域福祉情報、月刊福祉等の月刊誌☑ その他、随時紹介する			
学生への要望	・福祉に関するテーマについて、日常生活においても常に意識を☑ 持っていることが大切です。☑ ・自主的に取り組んでください			
オフィスタイム	前期：水曜日Ⅰ時限☑金曜日Ⅲ時限 後期：月曜日Ⅰ時限、金曜日Ⅰ時限☑ 創学館4階No.6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・卒業研究の意義☑ ・卒業研究の進め方☑ ・研究室のこれまでの論文の紹介	・テーマ設定のために課題を探る	60
2	卒業研究のテーマについて	・学生が問題意識や関心を持っているテーマについてディスカッションを行う	・現代社会における問題や課題について、これまで学んできたこと、今後学びたいことなどについてまとめる。	60
3	研究倫理について学ぶ	・研究倫理とは ・研究活動上の不正行為について	・卒業研究を進める上での研究倫理について調べる	60
4	研究手法① 文献研究	・文献などの探し方☑ ・データの収集場所☑ ・新聞記事の切り抜きと辞書の活用	・学会誌（日本社会福祉学会）に目を通し、研究方法について予習する	60
5	研究手法② 文献研究	・参考文献の活用法☑ 参考文献の読み方☑ データのまとめ方	・学会誌(社会福祉学会)に目を通し、参考文献の用い方を予習する	60
6	研究手法③ 文献研究	・文献検索の方法について学ぶ	・文献検索の方法について調べる	60
7	研究方法Ⅳ④ 量的調査	・アンケート調査に関する基本的知識について	・アンケート調査の1つの手法である量的調査についてテキストを読んでおく	60
8	研究方法⑤ 量的調査	・アンケート調査の方法について	・社会福祉学会誌を参考に、量的調査の方法を学ぶ	60
9	研究方法⑥ 質的調査	・面接調査に関する基本的知識	・面接調査の方法についてテキストを読んでおく	60
10	研究方法⑦ 質的調査	・面接調査の方法について☑	・社会福祉学会誌を参考にして、どのようなテーマの研究で面接調査の方法が用いられているかを学ぶ	60
11	テーマの検討	・地域における福祉の問題や課題について学ぶ	・自分の生活する地域や大学のある郡山市における福祉課題を調べておく	60
12	テーマの検討	・地域における福祉の問題や課題の中から関心のあるテーマや問題意識を持っているテーマについてまとめ、発表する	・発表の準備☑ ・質問を受けた内容について調べておく	90
13	先行研究調査	・研究テーマに関する先行研究について調べる	・自己のテーマに関する先行研究を調べる	90
14	研究計画書の作成	・おおよその研究計画を立てる	・先行研究を調べ、その手法を学ぶ	90
15	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究☑ ・随時、進捗状況を報告する	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる☑ ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を整理する	60
17	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる☑ ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を整理する	60
18	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる☑ ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を加えてまとめる	60
19	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる☑ ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を整理する	60
20	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・自己のテーマに関する内容を調べ、まとめる☑ ・まとめた内容を報告し、指導を受けた点を整理する	60
21	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
22	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
23	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
24	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
25	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関連した文献を読む	60
26	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
27	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
28	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
29	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究	・テーマに関する記事を探し、まとめる	60
30	基礎研究	・卒論執筆のための基礎研究☑ ・4年次に向け、研究計画を再検討する☑	・研究計画について見直しを行う	40

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行います。☒ 2年次までに学んだ建築に関する知識を活かし、ゼミ内で実施する各種外部調査活動に参加することで、自身が興味ある卒業研究テーマを決定する。具体的な課題を通して、研究方法やその進め方、各種分析の方法を習得し、論文の書き方を習得する。☒ また、実地課題では現地調査を実施し、調査研究能力だけでなく、社会性やコミュニケーション能力の向上を図ること。☒ 研究の進捗状況や課題に関して、適宜フィードバックを行い、修正・改善点などを示します。☒ ☒ 位置づけ・水準：HL2351			
達成目標	①各種調査活動に参加し、自身が興味を持つテーマを設定する。☒ ②先行研究を調査し、自身のテーマの新規性を把握する。☒ 研究テーマにおいて、自身の研究が「対象」・「視点」・「方法」のうち、どの部分が新しいのかを把握して、研究目的を執筆すること。☒ ③研究倫理を理解し、論文の書き方を習得すること。☒ 単位認定の最低基準は、上記の①と②を遂行し、③の内容の7割を理解していること。☒ ☒ ディプロマポリシーとの関係：論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	建築デザインコース3年生	成績評価 方法	提出課題80％、作業姿勢や対応20％	
教科書	資料を配布する。			
参考書	個々に指導する。			
学生への要望	積極的に調査活動をすすめること。関連する様々な論文を読破し、建築に関する問題意識を持つこと。			
オフィスタイム	通年：月曜日 8：50～10：20☒ 木曜日 8：50～10：20☒ 本館1F No.2 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業論文作成のための手引き1	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。☑研究倫理教育) 1.論文とレポート・報告の違いについて☑ 2.論文に必要な新規性を有すには 対象・視点・方法☑	指導内容を配布資料を用いて復習する	30
2	卒業論文作成のための手引き2	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。☑研究倫理教育) 1.先行研究の探し方と要点の把握について	指導内容を配布資料を用いて復習する	60
3	卒業論文作成のための手引き3	卒業論文を作成するために必要な事項やスキルについて学習します。☑研究倫理教育) 1.文章の書き方について☑ 2.資料の収集方法について	指導内容を配布資料を用いて復習する	60
4	実地課題1	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☑ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査場所を選定するための基礎調査	60
5	実地課題2	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☑ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査場所を選定するための基礎調査	60
6	実地課題3	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☑ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	実地課題4	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☑ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査	120
8	実地課題5	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☑ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	調査成果をまとめる	60
9	実地課題6	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☑ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	調査成果をまとめる	60
10	実地課題7	自身が選定した集落・町・都市について実地調査を行い、建物・都市・人の3つの視点からまとめます。☑ 外部で情報を得るためのコミュニケーション能力や調査準備に必要な計画の重要性を認識し、実際のモノに触れて体験することでしか得ることができない情報の必要性和現地に訪れる積極的な姿勢を養います。	実地調査に関するレジュメとプレゼン資料作成	120
11	実地課題発表	機器を用いて実地課題をビジュアルに発表します。（研究倫理教育）	実地調査に関するレジュメとプレゼン資料作成	120
12	文献・史料課題1	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	実地調査場所を選定するための基礎調査	60
13	文献・史料課題2	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	外部施設で資料調査	120
14	文献・史料課題3	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	外部施設で資料調査	120
15	文献・史料課題4	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる	60
16	文献・史料課題5	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる	60
17	文献・史料課題6	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	調査成果をまとめる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	文献・史料課題7	自身が興味のある建物や生活、構造や仕様、建築家などについて一つのテーマを選定し、文献史料を用いて考察します。資料収集の方法と、多くのデータを用いた場合の研究方法を学び、得られた情報の見方や見せ方について学習します。	レジュメとプレゼン資料作成	120
19	文献・資料課題発表	機器を用いて文献・資料課題をビジュアルに発表します。 (研究倫理教育)	レジュメとプレゼン資料作成	120
20	テーマ設定のための基礎調査1	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
21	テーマ設定のための基礎調査2	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
22	テーマ設定のための基礎調査3	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
23	テーマ設定のための基礎調査4	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	研究テーマの設定およびそのための調査	60
24	テーマ設定のための基礎調査5	興味・関心のある分野や対象（建物・都市）、得意な研究方法などを参考にして卒業論文のテーマを仮設定し、卒業論文になりうるのか先行研究などの基礎調査や現地調査を行います。	レジュメとプレゼン資料作成	120
25	卒業論文テーマ発表	これまでの調査・検討内容を踏まえ、研究の目的と方法を明確にします。 これから行う卒業研究が対象・方法・視点のうち、どの点に新規性を有すのか、他の研究との比較を通して発表します。 (研究倫理教育)	レジュメとプレゼン資料作成	120
26	先行研究の整理と研究計画の決定1	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
27	先行研究の整理と研究計画の決定2	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
28	先行研究の整理と研究計画の決定3	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
29	先行研究の整理と研究計画の決定4	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60
30	先行研究の整理と研究計画の決定5	先行研究について整理し、今後の研究計画を策定します。	先行研究の整理	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	通年			
授業概要	これまでに学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、研究テーマを指導教員と相談の上決定し、自主的に実験・調査を行い、論文としてまとめる基礎力を修得する。レポートは添削・返却しコメントによるフィードバックを行います。☒ 位置付け・水準 HL2351			
達成目標	単位認定の最低基準は、「卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了し、指導内容の7割を理解していること」。 ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」、「倫理観、社会的責任」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース3学年	成績評価 方法	毎週のレポート提出70%、予備調査、分析の進行状態30%	
教科書	適宜、資料配付			
参考書	適宜、紹介する。			
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00☒ 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究に関する概論。☒ 研究テーマの設定についての方向性を明確にする。	卒業研究を進める	60
2	テーマ設定に向けて（1）	研究テーマについての相談。	卒業研究を進める	60
3	テーマ設定に向けて（2）	研究テーマについての相談。	卒業研究を進める	60
4	研究テーマ決定	研究テーマの背景と目的を明確にし、卒研究テーマ（仮）を決定する。	卒業研究を進める	60
5	論文の書き方について（1）	卒業論文の書き方について解説する。☒	卒業研究を進める	60
6	論文の書き方について（2）	卒業論文の書き方について解説する。☒	卒業研究を進める	60
7	論文の書き方について（3）	梗概集等の論文の書き方について解説する。	卒業研究を進める	60
8	既往論文の研究（1）	研究テーマにおける既往論文、先行研究について研究する。	卒業研究を進める	60
9	既往論文の研究（2）	継続して、既往論文、先行研究について研究する。☒	卒業研究を進める	60
10	既往論文の研究（3）	継続して、既往論文、先行研究について研究する。☒	卒業研究を進める	60
11	研究倫理について	研究倫理について、研究上の注意点について確認する。☒ ☒	卒業研究を進める	60
12	研究方法について（1）	研究テーマに沿って、既往研究の研究方法について研究する。☒	卒業研究を進める	60
13	研究方法について（2）	継続して、研究テーマに沿った既往研究の研究方法について研究する。☒	卒業研究を進める	60
14	研究方法について（3）	研究テーマにおける、研究方法を決定する。☒ ☒	卒業研究を進める	60
15	研究計画（1）	研究テーマに沿った、研究計画を策定する。☒ ☒	卒業研究を進める	60
16	研究計画（2）	継続して、研究テーマに沿った研究計画を策定する。☒ ☒	卒業研究を進める	60
17	研究計画（3）	策定した研究計画の妥当性を検討する。☒ ☒	卒業研究を進める	60
18	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を開始する。	卒業研究を進める	60
19	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
20	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
21	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
22	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
23	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
24	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
25	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
27	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
28	実験及び調査研究	研究テーマ、研究計画に基づき、実験及び調査研究を継続する。	卒業研究を進める	60
29	プレゼンテーション	これまでの、実験及び調査研究結果について、プレゼンテーションを行い、討論する。	卒業研究を進める	60
30	実験及び調査研究の評価	卒業研究Ⅰ全般の、研究結果を評価し、改善等を加える。	卒業研究を進める	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	大泉 由美			
開講期	通年			
授業概要	これまでの学修を通して自身が興味ある研究テーマを決めたうえで、先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につける。そして論文執筆方法を習得・体得する。課題発見及び問題解決に関わるレポート等に対して、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準：HL 2 3 5 1			
達成目標	①明確にしたい、または解決したい問題などをとりあげ、研究テーマを決めたか。☒ ②先行研究の検討、研究・調査方法、分析方法など研究スキルを身につけることができたか。 最低基準は、内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力 ・単位認定の			
受講資格	3年生	成績評価 方法	①課題への取り組み姿勢（自主性・積極性）50% ②研究報告・発表50%	
教科書	必要に応じて資料を配付			
参考書	授業内で随時紹介			
学生への要望	1. 主体性を持って参加すること☒ 2. 途中経過を報告すること			
オフィスタイム	水曜Ⅰ限☒水曜Ⅱ限（創学館4階No.3研究室）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 卒業研究の意義、進め方について 2. 今後のスケジュールの検討☑	課題を見つける	60
2	卒業論文の書き方（1）	・研究林立についての説明 ・卒業論文の書き方についての解説	課題を見つける	60
3	卒業論文の書き方（2）	・文献の探し方、データの収集について	課題を見つける	60
4	卒業論文の書き方（3）	・参考文献の活用方法（1）	課題を見つける	60
5	卒業論文の書き方（4）	・参考文献の活用方法（2）、データのまとめ方	課題を見つける	60
6	研究テーマ設定（1）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
7	研究テーマ設定（2）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
8	研究テーマ設定（3）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
9	研究テーマ設定（4）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
10	研究テーマ設定（5）	1. 先行研究の検討 2. 研究テーマの検討・ディスカッション	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
11	論文作成方法を学ぶ（1）	文献調査による調査方法を知る	文献研究方法について関連研究を調べる	60
12	論文作成方法を学ぶ（2）	データ分析による調査方法を知る	データ分析方法について関連研究を調べる	60
13	論文作成方法を学ぶ（3）	質問紙・関係者へのインタビュー方法を知る	質問紙・関係者インタビュー方法についての関連研究を調べる	60
14	論文作成方法を学ぶ（4）	調査方法を選定し、進め方を検討する	論文作成についてまとめる	60
15	中間まとめ	1. 研究テーマの仮報告☑ 2. スケジュール確認☑	論文作成についてまとめる	60
16	研究テーマの決定	1. 研究テーマの決定	論文作成についてまとめる	60
17	資料収集・分析（1）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析☑	収集資料の整理と分析	60
18	資料収集・分析（2）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析☑	収集資料の整理と分析	60
19	資料収集・分析（3）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析☑	収集資料の整理と分析	60
20	資料収集・分析（4）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析☑	収集資料の整理と分析	60
21	資料収集・分析（5）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析☑ 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	資料収集・分析（６）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析 ☑. 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60
23	資料収集・分析（７）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析 ☑. 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60
24	資料収集・分析（８）	1. 資料収集☑ 2. 資料分析 ☑. 収集した先行研究等を分析し、研究が進められていない分野を見つける。その分野で研究が進めていけるかを検討。確認する。	収集資料の整理と分析	60
25	資料収集・分析（９）	資料収集（１）～（８）の収集・分析から、論文タイトルを考える	収集資料の整理と分析	60
26	論文制作	1. 執筆のルール☑ 2. 文章表現法☑	研究に必要な資料収集に取り組む。関連書籍10冊以上に目を通す	60
27	論文制作	1. 執筆のルール☑ 2. 文章表現法☑	研究に必要な資料収集に取り組む。関連書籍10冊以上に目を通す	60
28	論文制作	1. 執筆のルール☑ 2. 文章表現法☑	研究に必要な資料収集に取り組む。関連書籍10冊以上に目を通す	60
29	中間報告（１）	1. 論文執筆状況の報告☑ 2. 今後のスケジュール☑	資料収集及び論文の制作に取り組む、卒業研究Ⅱに向けて準備をすすめる	60
30	中間報告（２）	1. 中間報告 2. 研究スケジュールの検討☑	資料収集及び論文の制作に取り組む、卒業研究Ⅱに向けて準備をすすめる	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	ダニエル ホーナー			
開講期	通年			
授業概要	A. The number (ナンバリング) of this subject is HL2351.☑ B. Instructor taught English at Koriyama Women's University Attached High School☑ (郡山女子大学附属高等学校) for 19 years. 郡山開成学園の教員として高校に勤務していました。☑ C. Be an active learner who enthusiastically pursues growth and excellence. ☑ D. Express succinctly research themes and personal career information. ☑ E. Demonstrate comprehension of terminology specific to your career choice. ☑ F. Write terminology and career information in contemporary formats. ☑ G. Express clearly the results of your research in reports and presentations.☑ H. Active learning is substantially utilized in every lesson!☑ FEEDBACK: Educative feedback is frequently given to students on their conduct, homework, quizzes and tests that is positive, constructive and considers the individuality of each student but also the diversity of all of the students.			
達成目標	1. The main objective is to improve all four skills (reading, writing, listening and speaking) pertaining with a focus on persuasive expression of your skills and abilities. ☑ 2. Learn how to self-evaluate all four skills as they relate to careers, and then learn ways to improve your own abilities. ☑ 3. Express concise and correct information about prospective companies and employers.☑ 4. The minimum standard to receive 4 credits for this subject is to achieve 70% or higher on the overall average of these main criteria: attitude, 4 skills in research, documents submitted, research reports and presentations. ☑ 5. The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates "Problem Solving Skills," "Comprehensive Learning Experiences" and "Creative Thinking Skills Development."			
受講資格	大3年	成績評価 方法	1. Participation and Attitude (10%)☑ 2. Demonstration of the Four Skills through Research (40%) ☑ 3. Documents, Research Reports and Presentations (50%)	
教科書	(none)			
参考書	Documents produced by students and instructor, Daniel O. Horner.			
学生への要望	1. Please keep all appointments and research deadlines.☑ 2. For each hour of lecture by professors, students need 2 hours of preparation and review on their own.☑ 3. Be an active learner with very lofty goals.☑ 4. Conduct and continue research on a daily basis. ☑ 5. Stay ahead of schedule; avoid procrastinating!			
オフィスタイム	Office hours are Monday and Wednesday 5th period (16:10 ~ 17:40), ☑ and by appointment, 創学館 4 F No.3 研究室.			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	Guidance	Preliminary Guidance.	Preparation	120
2	Guidance	Second Guidance Session.	Preparation	90
3	Preliminary Research	Discussion of preliminary research.	Preparation	120
4	Preliminary Research	Continued discussion of preliminary research.	Preparation	120
5	Defining Objectives	Define the objectives for the first semester of the year.	Review	90
6	Defining Objectives	Define the objectives for the second semester of the year.	Preparation	120
7	Research Themes	Brainstorm potential research themes to be completed.	Preparation	120
8	Additional Research Themes	Brainstorm more potential research themes to be completed.	Preparation	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	Career Objectives	Correlate research themes to career objectives.	Preparation	120
10	Career Objectives	Continue to correlate research themes to career objectives.	Review	90
11	Career Terminology	Plan the initial research report on career terminology.	Prepare initial research report.	180
12	Additional Career Terminology	Submit the initial research report on career terminology.	Preparation	120
13	Career Parameters	Define in-depth career parameters and related themes.	Preparation	120
14	Career Parameters	Define additional in-depth career parameters and related themes. Write a detailed outline of personal career parameters.	Preparation	150
15	Report on Parameters	Write and the rough draft of report on career parameters.	Prepare second research report.	120
16	Report on Parameters	Submit the final document of the report on career parameters.	Preparation	120
17	Initial Consultation of Four Skills	Have the initial consultation on ways of improving the four main skills needed for career success.	Preparation	120
18	Consultation on Listening Skills	Have the initial consultation on ways of improving listening as related to career choice and success.	Preparation	120
19	Consultation on Speaking Skills	Have the initial consultation on ways of improving speaking as related to career choice and success.	Preparation	120
20	Consultation on Reading Skills	Have the initial consultation on ways of improving reading as related to career choice and success.	Preparation	120
21	Consultation on Writing Skills	Have the initial consultation on ways of improving writing as related to career choice and success.	Preparation	90
22	Report on Four Skills	Submit the rough draft of research conducted on the four skills needed for success in careers.	Prepare the third research report.	120
23	Report on Four Skills	Submit the report on the four skills needed for success in careers.	Preparation	120
24	Current Technologies	Consultation on current technologies and the impact they have on the ever-changing job market.	Preparation	120
25	Research Current Technologies	Conduct research on current technologies that pertain to the student's career choice.	Prepare fourth research report.	120
26	Report on Current Technologies	Report on current technologies that pertain to the student's career choice.	Review	90
27	Consultation on Final Research Report	Consult with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the previous year.	Preparation	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	More Consultation on Final Research Report	Continue consultation with students on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.	Prepare final cumulative research report.	240
29	Final Report and Outline of Presentation	Submit the final research report to the instructor, and submit the outline of the final presentation for review by the instructor.	Study, review and prepare for final presentation.	240
30	Final Research Report and Presentation Practice	Use the final cumulative research report to practice for the final presentation that includes decisive conclusions on the student's career choices.	Review	90

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	安田 純子			
開講期	通年			
授業概要	各自が生活に関して関心を持っていることについて、詳しく調べ、考察していきます。探究することのおもしろさを知って研究を進めます。 ☑ 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑ ☑ 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	目標は、各自が生活に関して関心を持っていることについて、研究を進め、まとめの仕方や発表の仕方を学び、また、文章で表現できるように学んでいきます。 ☑ ☑ 単位認定の最低基準は、関心や問題を見つけ、研究の進め方がある程度把握し、7割以上方向性が示せること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力			
受講資格	家政学部 人間生活学科 3年	成績評価 方法	研究過程（態度・発表準備等）（60％）、研究論文等の中間のまとめ（40％）	
教科書	特になし（必要に応じて指示する。）			
参考書	各自その都度必要な文献			
学生への要望	積極的に課題を見つけ、真摯に取り組んでほしい。			
オフィスタイム	前期：月曜日と木曜日の13:00~16:30☑ 後期：水曜日と金曜日の13:00~16:30☑ 創学館N o. 1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマを見つける	興味のあるテーマを探す	テーマを見つける	30
2	図書館の使い方	図書館の使い方、資料の探し方	資料の探しかたになれる。	30
3	テーマを見つける	調べてみたいテーマ探し	テーマを見つける	30
4	資料集め	必要な資料の探し方・集め方	必要な資料の探し・集めをやる。	30
5	資料集め	資料を集める	資料を集める	300
6	資料を読み取る	論文に向けて参考となる資料の読み取り	資料を読み取る	300
7	必要資料集め	再び不足資料を探す	不足資料を探す	60
8	資料を読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	90
9	論文構想①	論文構想の大枠を考える。	論文構想の大枠を考える。	60
10	論文構想②	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
11	論文構想③	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
12	論文構想④	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
13	パワーポイントと発表について	発表用パワーポイントと原稿の作成について	発表用パワーポイントの作成の練習	60
14	プレゼンテーションについて	プレゼンテーションについて説明	プレゼンテーションのし方の確認練習	60
15	論文構想⑤	書ける論文について研究倫理等	書ける論文の骨組みを模索する。	30
16	論文の骨組み	論文の骨組みについて考える。	論文の骨組みを考える。	30
17	論文構想⑥	論文のテーマの見直し	論文のテーマをいろいろな角度から考える。	60
18	論文執筆①	論文の書き方	論文の書き方を復習する。	60
19	論文執筆②	論文執筆練習	本論文に向け執筆（練習）する。	240
20	論文執筆③	論文執筆練習	本論文に向け執筆（練習）する。	240
21	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
22	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
23	資料集め（参考文献）	参考文献の読み方	参考文献を読む。	60
24	本論文に向けての追加資料	本論文に向けて足りない資料など	本論文に足りない資料などを集め、読む。	60
25	論文執筆④	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
26	論文執筆⑤	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
27	論文執筆⑥	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
28	論文のテーマ	論文のテーマの方向性についてのまとめと確認	論文のテーマの方向性を確認をする。	60
29	論文テーマ	論文テーマを確認する。	論文のテーマをしぼる。	120
30	卒研全体のまとめ	全体のまとめ	全体を見直し、テーマを再確認する。	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修	
担当教員	近内 直美			
開講期	通年			
授業概要	大学での学修の総まとめとして、探究したいテーマをもとに卒論のテーマを決定していく。☒ 課題・レポート提出後、コメントや質疑応答によりフィードバックする。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	①テーマに関する知識を習得する。☒ ②テーマに即した研究の手法を取得し、研究についてふさわしい手法を習得する。☒ 単位認定の最低基準は：「内容の8割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的な思考力			
受講資格	人間生活学科学学生	成績評価 方法	課題70%、経過報告・演習等の発表30%	
教科書	特に無し			
参考書	随時紹介			
学生への要望	・社会福祉に関心を持ち、国施策や地方自治と住民の生活との関連性を意識し、課題に気づいてください。☒ ・自主的に学習に取り組み、意欲的に発表を行いながら内容を深めてください。			
オフィスタイム	前期：月曜日Ⅳ時限・水曜日Ⅳ時限、後期：水曜日Ⅰ時限・Ⅱ時限☒ 創学館4階No6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・卒業研究を進めるうえで必要な倫理や研究方法を知る。☑ ・倫理については、講義や論文作成の過程でも適宜確認を行っていく。☑ ・卒業研究の全体像をイメージし、方向性を検討する。☑ ・2回目以降も含め、自己学習による発表と授業における意見交換を行い、双方向性の授業を行う。☑	・卒業研究について、興味のある事例を調べる	30
2	卒業研究のテーマ設定について1	・卒業研究に関連した論文を読む。☑ ・学生が関心を持っているテーマについて関連した情報を得、知識を増やす。	・自己学習を行う☑ ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
3	卒業研究のテーマ設定について2	・研究テーマに関連した課題や検討事項について考える。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
4	論文の書き方について1	・文献などの探し方について学ぶ☑ ・データの収集の仕方について学ぶ	・自己学習を行う☑ ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
5	論文の書き方について2	・参考文献の活用について学ぶ☑ ・データの活用について学ぶ	・自己学習を行う☑ ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
6	論文の書き方について1	・参考文献を活用する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
7	論文の書き方について2	・アンケート調査に関する基本的知識について学ぶ。	・自己学習を行う☑ ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
8	論文の書き方について3	・アンケート調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う☑ ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
9	論文の書き方について4	・アンケート調査の方法について学ぶ。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
10	論文の書き方について5	・その他調査の方法について学ぶ。☑	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
11	テーマの検討1	・論文のテーマを検討する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
12	テーマの策定2	・論文のテーマを決定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	研究方法の策定	・研究テーマに沿った研究方法を策定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
14	研究計画書の作成 1	・研究計画を検討する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
15	研究計画書の作成 2	・研究計画を策定する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
16	既往論文の研究 1	・既往論文、先行研究について研究する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
17	既往論文の研究 2	・既往論文、先行研究について研究する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
18	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。 ・研究内容により学外での調査などを実施する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
19	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。 ・研究内容により学外での調査などを実施する。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
20	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
21	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
22	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
23	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
24	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
25	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
26	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
27	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
28	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の備えて自己学習を行う	60
29	研究の実施	・卒論執筆のための研究をすすめる。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60
30	研究の実施	・研究の中間評価を行い、改善点を見直す。	・自己学習を行う ・授業を振り返り、次回の授業に備えて自己学習を行う	60

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修
担当教員	山本 裕詞		
開講期	通年		
授業概要	自らの課題意識をもとに調査研究を進め、論理実証的に結論を導き出し、卒業論文にまとめる。特に、卒業研究Ⅰは、自らの課題意識を明確化することを目的に、先行研究の収集、整理、批判を行う。具体的には、年度末までに自らの課題意識の研究上の位置づけを明らかにして、論文構成を試案する。学生は、個別指導の際に、自らの課題に対する調査研究結果を発表し、それに対する小職からの講評を受け、次回の個別指導までの課題内容をフィードバックする。なお、研究の必要に応じて、小職の中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う。☒ 実務経歴：中高の教員として神奈川県立新羽高等学校、学校法人白根開善学校等で勤務。発達障害者教育の教員としてはフリースクール飛翔中等部等で勤務。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2351		
達成目標	1. 自らの課題意識を、先行研究との関係で位置付ける(課題意識の具体化)。☒ 2. 論理実証的手法を用いて考察を深める(先行研究批判と論理実証性)。☒ 3. 研究の作法を意識し、自律的研究能力の基礎を培う(研究倫理の意識化と遵守)。☒ 4. 4年次の中間報告、最終報告を見通して、伝える技術を経験的に学ぶ(研究テーマの確定と論文構成)。☒ 単位認定の最低基準は、上記1～3の総合的評価が達成度7割以上であること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力		
受講資格	相談により担当となった学生	成績評価 方法	達成目標の達成度の総合的評価☒ 内訳：1. 課題意識の具体化 20％ ☒ 2. 先行研究批評と論理実証性 30％☒ 3. 研究倫理の意識化と遵守 30％☒ 4. 研究テーマ確定と論文構成 20％
教科書	特になし。		
参考書	河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会 2002年		
学生への要望	主体的に取り組むこと。		
オフィスタイム	前期、後期とも学生と相談して決定します。 ☒ 場所：教職課程推進室 ☒ そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	仮テーマの設定と先行研究の抽出 1	仮の研究テーマを設定し、それに関する先行研究を調査収集する。また、収集した先行研究を対象にテキスト批評を行う。	発表用レポートの作成	180
2	興味関心・課題意識の言語化	自らの興味関心・課題意識を言葉で表現することによって、既に理解できていることと、不鮮明なことを意識化する。	レポート	180
3	テキスト批評 1	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	発表用レポートの作成	180
4	テキスト批評 2	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	発表用レポートの作成	180
5	テキスト批評 3	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	発表用レポートの作成	180
6	テキスト批評 4	指定されたテキスト（先行研究）をもとに、文章の要約と批評を行い、自分なりのテーマと問題を想起して議論する仕方を身に付ける。	発表用レポート作成	180
7	仮テーマの設定と先行研究の調査 1	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポート	180
8	仮テーマの設定と先行研究の調査 2	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	仮テーマの設定と先行研究の調査 3	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
10	仮テーマの設定と先行研究の調査 4	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
11	仮テーマの設定と先行研究の調査 5	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
12	仮テーマの設定と先行研究の調査 6	自らの興味関心・課題意識をもとに仮テーマを設定し、それに関連する先行研究を調査・収集する。また、先行研究の一部について、テキスト批評をすることで、仮テーマの理解を深め、必要に応じてテーマの修正を行う。	発表用レポートの作成	180
13	テーマの設定と先行研究の整理 1	先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。	発表用レポートの作成	180
14	テーマの設定と先行研究の整理 2	先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。	発表用レポートの作成	180
15	テーマの設定と先行研究の整理 3	先行研究を整理し、自らの研究の意義を位置付け、研究テーマを確定する。	発表用レポートの作成	180

科目名	卒業研究Ⅰ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 4単位 必修
担当教員	瀬谷 真理子		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☒ 卒業研究は、大学の学修の集大成として、総合的に学問を捉え、主体的に新たな発想力をもって物事の本質を見極め、学問への探究心を忘れず、専門分野での新たな知見を得られるような人材の育成を目指すことを目的とする。☒ 〔授業全体の内容の概要〕☒ Ⅰ．研究テーマの設定 1、先行研究論文の収集。2、先行調査の分析。3、テーマの設定。Ⅱ．設定テーマを基に、関連書籍、論文などのデーター収集、解析、分析、経過発表、学生間の討論を行う。☒ コメント等によるフィードバックを行う。☒ さらに福島県高等学校での家庭科教員としての実務経験や社会教育に携わってきた実務経験を生かしながら実践的な指導を行います。☒ 〔実務経歴〕福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。☒ 位置づけ・水準 HL2351		
達成目標	〔到達目標〕☒ ①論文調査方法を学び、研究倫理を踏まえ、自分にあった方法を理解する。☒ ②論文の構成を理解する。☒ ③論文の作成ができ、発表することができる。☒ 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考		
受講資格	特になし。	成績評価 方法	①卒研に取り組む姿勢30%、②報告会及び課題提出状況30%、③途中経過状況40%、①～③の総合評価60%以上で単位認定する。
教科書	論文課題に対応し提示。		
参考書	随時案内する。		
学生への要望	1．指定日に必ず出席すること。2．課題を次週までに終わらせる（場合により、話し合いで変更する）。 3．テーマの選定に努力を惜しまず積極的に望む。		
オフィスタイム	家政学館4F 被服学研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1年間の内容と留意事項	課題を見つける	60
2	研究倫理について	研究倫理を学ぶ	「科学の健全な発展のために～誠実な科学者の心得～」を熟読し、考えをまとめる	60
3	研究倫理について	研究倫理を学ぶ	「科学の健全な発展のために～誠実な科学者の心得～」を熟読し、考えをまとめる	60
4	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
5	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究調査	各自研究の先行研究を調べまとめる	60
6	テーマの設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ	先行研究を整理する	60
7	テーマ設定方法を学ぶ	先行研究分析方法を学ぶ	先行研究を整理する	60
8	テーマ設定	第2回から第7回までに行った、先行研究分析から、最も興味関心を持ったテーマを取り上げ、書籍収集、先行研究収集等をし、第10回の討論会準備を行う。	資料作成	90
9	テーマ設定	第8回に引き続き、討論会準備を行う。	資料作成	90
10	仮テーマにおける討論会	仮テーマをもとに調査をおこなった内容を発表する。討論会形式とする。	内容を記録	90
11	仮論文テーマにおける討論会	第10回仮テーマにおける討論会をおこない、論文制作が可能か検討。	これまでの発表用内容の確認	60
12	論文テーマ設定	第11回からテーマ選定。第10回において論文テーマの選定に至らなかった場合は、再度調査発表を行い決定する。	これまでの発表用内容から独自のテーマが可能か文献収集する。	60
13	論文作成方法を学ぶ	文献調査による調査方法とは。☒	文献研究について関連研究を調べる	60
14	論文作成方法を学ぶ	データー分析による調査方法とは。	データ分析について関連研究を調べる	60
15	論文作成方法を学ぶ	調査方法を選定し、進め方を決定する。	論文作成についてまとめる	60
16	資料収集	調査方法が決定したのち、論文制作に必要な参考資料等の収集を行う。	授業内容を整理しまとめる	60
17	資料収集	第16回同様に資料等の収集を行う。	収集資料の整理	60
18	資料分析調査	第16回から17回までに収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。	収集資料の整理と分析	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	資料分析調査	第18回同様に、収集した先行研究を分析し、まだ、研究が進められていない分野を見つけ、その分野で進めていけるのか確認する。	収集資料の整理と分析	60
20	資料分析調査	第19回までに行った調査分析から、論文タイトル（サブの有る場合は、サブタイトルも考える）、論文の章立てを考える。	論文の目次を考える	60
21	資料分析調査	第20回同様に論文タイトル、章立てを行い指導教員に確認を得る。	論文タイトルと目次を再検討する	60
22	調査及び資料収集	調査方法として、アンケートを希望（必要）とする場合は、アンケート項目の選定を行う。	アンケート方法を調べる	60
23	調査及び資料収集	アンケート内容項目の選定、確認が済み次第、アンケート調査に取り掛かる。	アンケート項目を考える	60
24	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意を払い、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載をすることを徹底する。	先行研究の論文を要約する	60
25	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意を払い、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載をすることを徹底する。	先行研究の論文を要約する	60
26	調査及び資料収集	文系論文制作者は、研究に必要な資料収集に取り組む。書籍に関しては、論文執筆は最低10冊の関連書式に目を通す。また、論文への引用には、細心注意を払い、先行研究及び書籍から論文へ引用する場合は、必ず記載をすることを徹底する。	先行研究の論文を要約する	60
27	論文制作	必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。	授業内容を整理する	60
28	論文制作	必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。	授業内容を整理する	90
29	論文制作	必要最低限の調査及び資料の収集を行い、章立て通り分類を行う。	授業内容を整理する	90
30	論文制作	第29回において、はじめに（序）の添削をおこなった結果を受けて、再度提出した内容の確認をする。以降、春休みを使って資料収集及び論文の制作に取り組み卒業研究Ⅱに向けて準備を整えていく。	序文の作成及び添削後の修正	90

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	廣野 正子			
開講期	通年			
授業概要	研究テーマに関する疑問に対して、調査を実施し考察することで自らの答えを導き出す。☑ 課題や実施報告を元にディスカッションを行い、その都度口頭や添削によるフィードバックを行います。☑ 実務経験：特別養護老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに社会福祉の課題に対して卒業研究指導を行う。☑ 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。☑ 位置づけ・水準 DS2462			
達成目標	研究テーマに対しての答えを導き出すというプロセスから問題解決力を修得すること。☑ 1. 研究計画にそってデータを収集し調査、分析を行う。☑ 2. 研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成する。☑ 単位認定の最低基準：研究の意義と倫理について8割理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	人間生活学科	成績評価 方法	課題70%、発表30%	
教科書	随時、印刷物の配布			
参考書	授業内で適宜紹介する			
学生への要望	諦めないで、研究をやり遂げること。			
オフィスタイム	・水曜日 1時限 ・木曜日 1時限 ☑ ☑ 創学館 4 階 No.1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	調査依頼及び集計	研究倫理教育（調査計画、情報収集等において不備がないか点検する） 調査結果の集計	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
2	調査依頼及び集計	調査結果の集計	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
3	学外調査	調査結果について学外調査実施場所に確認	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
4	学外調査	調査結果について学外調査実施場所に確認	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
5	調査内容のまとめ及び考察	調査結果について文章化する。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
6	調査内容のまとめ及び考察	調査結果について文章化する。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
7	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
8	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
9	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
10	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察を完成させる。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
11	調査内容のまとめ及び考察	調査結果から考察を完成させる。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
12	引用文献	引用文献について整理をする。	ゼミの中で指示されたことを修正等を行いまとめてくる。	120
13	事前学習（学外学習）	学外学習の見学先について、特徴を確認する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
14	事前学習（学外学習）	学外学習の見学先について、抱えている課題について確認する。	学外学習で見学場所について、事前に調べる。	120
15	学外学習（8～9月実施）	現場の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
16	学外学習（8～9月実施）	現場の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
17	学外学習（8～9月実施）	現場の福祉課題について、現地におもむき実践されている方々に苦勞されている点などお話を伺う。	見学での説明とそこから考察したことをまとめる。	120
18	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
20	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
21	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
22	卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	調査のまとめ、及び卒業研究発表に向けたパワーポイントの作成	ゼミの中での指示に従いパワーポイントの修正、訂正を行う。	120
23	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
24	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
25	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
26	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
27	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
28	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
29	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180
30	卒業論文の作成	卒業論文の作成	ゼミの中で修正、訂正の指示に従い文章を完成させる。	180

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	通年			
授業概要	・卒業研究は、大学での学修を総合化することを目的としている			
達成目標	・卒業研究Ⅱでは、10月末の発表会で報告し、2年間の成果として論文をまとめる			
受講資格	人間生活学科		成績評価 方法	報告・発表30％、論文70％
教科書	特になし			
参考書	随時プリントを配布する☑ 適切な論文を適宜紹介する☑ 地域福祉情報、月刊福祉等を参考とする			
学生への要望	・研究計画に沿って、主体性を持って進めてください			
オフィスタイム	前期：月曜日及び金曜日の3時限☑ 、後期：木曜日の1～3時限☑ 創学館4階 No.6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	演習	・テーマに即した内容を調べ、発表し、ディスカッションを行う		0
2	研究計画書の作成	・研究計画書を作成する☑ ・論文の構成を考える		0
3	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う		0
4	論文の作成	・テーマに関連する研究会等に参加する		0
5	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う		0
6	論文の作成	・テーマに即した内容を調べ、考察を行う		0
7	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる		0
8	論文の作成	・テーマに関連する社会資源について調べる		0
9	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
10	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
11	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
12	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
13	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
14	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
15	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
16	論文の作成	・論文の執筆☑ ・経過報告		0
17	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
18	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
19	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
20	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
21	発表に向けての原稿の作成	・論文をまとめ、10月末の卒研発表会の原稿を作成する		0
22	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成		0
23	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成		0
24	パワーポイント作成	・卒研発表会のためのパワーポイントの作成		0
25	発表	・卒業研究発表会で発表する		0
26	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0
27	論文作成	・卒研発表会でのご指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	論文作成	・卒研発表会での指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0
29	論文作成	・卒研発表会での指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0
30	論文作成	・卒研発表会での指導や質問内容をふまえ、論文をまとめる		0

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	長田 城治			
開講期	通年			
授業概要	建築に関連する歴史的な建物および都市に関するテーマで卒業研究を行います。☒ 研究の意義や目的意識をしっかりと持ち、4年間の集大成としての論文をまとめることにより文章力や分析力を養い、地域の課題などを解決する能力を身に付けることを目的とします。☒ 研究テーマによっては現地に訪れることを推奨し、建物実測調査や聞き取り調査、資料調査などを実施して研究成果をまとめ、調査研究能力だけでなく、社会性やコミュニケーション能力の向上を図ること目指します。☒ 研究の進捗状況や課題に関して、適宜フィードバックを行い、修正・改善点などを示します。☒ ☒ 位置づけ・水準：HL2452			
達成目標	①客観性のある分析と論理的な文章構成を習得し、卒業論文を製作する。☒ ②地域や社会貢献に寄与する研究を実施し、研究成果を地域に公表および還元すること。☒ ③研究倫理を理解し、論文の書き方を習得すること。 単位認定の最低基準は、上記の①と②を遂行し、③の内容の7割を理解していること。☒ ☒ ディプロマポリシーとの関係：論理的思考力・問題解決力、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験・創造的思考力			
受講資格	建築デザインコース4年生	成績評価 方法	論文完成度80%☒ 研究への取り組み20%	
教科書	適宜、資料を配布する			
参考書	特になし			
学生への要望	研究に対する目的意識や問題意識をもつこと。☒ 論理的に考察する能力や順序立てて説明するプレゼンテーション能力を身につけるよう努力すること。			
オフィスタイム	通年：月曜日8：50～10：20☒ 木曜日8：50～10：20☒ 本館1F No.2 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマ決定	卒業論文のテーマを明確にし、研究活動をはじめると共に、10月の中間発表、1月の本発表にむけた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める	120
2	先行研究の整理1	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
3	先行研究の整理2	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
4	先行研究の整理3	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
5	先行研究の整理4	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理	120
6	先行研究の整理5	自身の研究テーマに関する先行研究を収集し、それらの研究について対象・視点・方法の3つの項目から評価する。また、自身の研究とどの点が異なるのか明確に示し、自身が取り組む研究の独自性のある点について再確認する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 研究目的の精査と先行研究の整理 プレゼン作成	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	進捗状況発表1	研究目的を明確にすることを目的に、口頭発表を行う。自身の研究の新規性のある部分について、先行研究と比較しながらまとめ、何をどんな方法で明らかにするのか、研究の骨子となる部分を明瞭にする。また、これまでの進捗状況を整理し、今後の研究計画について発表する。（研究倫理教育）	指導を参考に研究を進める 調査準備	120
8	調査活動1	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査準備	120
9	調査活動2	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 現地調査	120
10	調査活動3	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
11	調査活動4	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
12	調査活動5	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
13	調査活動6	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析	120
14	調査活動7	自身の研究テーマに関連する建物・場所・文献・資料などについて、実際に現地に赴き調査を行う。調査の事前準備として、調査では何を見て（聞いて）、どんな情報を得ることが目的なのか、これまで得た情報を整理する。調査後は、得られた情報や知見を早急にまとめて、調査成果報告を行う。	指導を参考に研究を進める 調査成果の整理と分析 プレゼン作成	120
15	進捗状況発表2	調査などで得られた情報を整理し、今後の研究計画について発表する。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成	120
16	進捗状況発表3	夏季休暇中に行った内容について発表する。	指導を参考に研究を進める	120
17	プレゼンテーション作成	中間発表会に向けたプレゼンテーションを作成する。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成	120
18	中間発表練習	中間発表に向けた練習を行う。	指導を参考に研究を進める プレゼン作成	120
19	研究計画の整理1	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める	120
20	研究計画の整理2	これまで行ってきた研究の進捗状況を整理し、提出に向けた研究計画を策定する。	指導を参考に研究を進める	120
21	論文の執筆1	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	論文の執筆2	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
23	論文の執筆3	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
24	論文の執筆4	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 プレゼン作成	120
25	進捗状況発表4	これまでの進捗状況について発表する。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
26	論文の執筆5	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
27	論文の執筆6	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆	120
28	論文の執筆7	論文の執筆を行い、適宜補足調査などを行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習	120
29	発表練習	本発表に向けた発表練習を行う。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習	120
30	本発表と論文投稿	本発表に向けて、発表データを作成し、投稿にむけて論文を完成させる。	指導を参考に研究を進める 卒業研究の執筆 発表練習	120

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	山形 敏明			
開講期	通年			
授業概要	卒業研究Ⅰで決定した研究テーマについて、これまで学んできた家政学並びに建築学の知識と技術を基に、自主的に実験・調査研究を行い、論文としてまとめ、プレゼンテーションを行う。研究指導、論文指導では提出したレポート並びに論文について添削しコメントによるフィードバックを行います。☑また、大学で学んだことの集大成であるとともに、実社会での仕事の基礎となる部分も多いので、自主的かつ積極的に取り組むことが必要である。☑位置付け・水準 HL2452			
達成目標	単位認定の最低基準は、「卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了し、指導内容の7割を理解していること」。☑ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」、「倫理観、社会的責任」、「総合的な学習経験、創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース4年		成績評価 方法	毎週のレポート提出60%、調査、分析の進行状態20%、研究の完成度20。
教科書	特に用いない。			
参考書	テーマに沿って随時紹介する。			
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
オフィスタイム	前期：水曜日14:30～16:00☑ 後期：木曜日14:30～16:00☑ 山形：本館3F No.1 住居学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	最終学年に向けて、卒業研究の意義を再確認し、卒業研究Ⅰでの進捗状況の発表を行う	テーマに沿って研究を進める。	60
2	研究計画の妥当性	卒業研究Ⅰでの研究計画について、その妥当性を再検討する。	検討結果を再整理する。	60
3	研究倫理について	研究倫理について、卒業研究Ⅰで確認した研究上の注意点について、学生の研究テーマに沿って再確認する。	再確認した内容を整理する。	60
4	論文構成（1）	論文作成に向けて、論文構成を行う。	卒業研究を進める。	60
5	論文構成（2）	論文構成の妥当性を確認する。	卒業研究を進める。	60
6	実験・調査の継続（1）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
7	実験・調査の継続（2）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
8	実験・調査の継続（3）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
9	実験・調査の継続（4）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
10	実験・調査の継続（5）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
11	実験・調査の継続（6）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
12	実験・調査の継続（7）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
13	実験・調査の継続（8）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
14	実験・調査の継続（9）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
15	中間発表の準備（1）	中間発表に向けて、研究成果の確認と発表準備。	プレゼンテーション準備をする。	90
16	中間発表の準備（2）	プレゼンテーション用の構成を行う。	プレゼンテーション準備をする。	90
17	中間発表の準備（3）	プレゼンテーション内容の確認を行う。	プレゼンテーション準備をする。	90
18	中間発表の準備（4）	中間発表の練習。	プレゼンテーション内容を再確認する。	90
19	実験・調査内容の再確認	中間発表での指摘及び指導に対して、今後の研究内容の追加等について確認する。	卒業研究を進める。	60
20	実験・調査の継続（10）	追加実験及び調査研究の確認を踏まえて、実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
21	実験・調査の継続（11）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
22	実験・調査の継続（12）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
23	実験・調査の継続（13）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
24	実験・調査の継続（14）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
25	実験・調査の継続（15）	実験・調査を継続する。	卒業研究を進める。	60
26	プレゼンテーション	実験・調査結果のプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーション結果を論文に反映させる。	90
27	論文の仮提出	卒業研究論文の仮提出。	指摘された内容を再確認する。	60
28	本発表の準備	卒業研究本発表に向けた、発表内容の確認を行う。	本発表練習をする。	60
29	本発表の準備	本発表と論文の仮提出を行う。	本発表練習をする。	90
30	論文提出	卒業研究論文の提出。	本論の内容を再確認する。	60

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	阿部 恵利子			
開講期	通年			
授業概要	研究の意義及び目的意識を明確に、4年間の集大成としての論文をまとめることで文章力・分析力を養う。☑ レポート及び論文を添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う。位置づけ・水準 HL2452			
達成目標	単位認定の最低基準は以下に示す①～③について、7割達成していること。。☑ ①研究テーマについて、深い知識と論理的思考力を身に付ける。☑ ②問題解決のために、ものの見方・考え方を深める。☑ ③論文作成にあたり、文章力・分析力を養う。☑ ディプロマポリシーとの関係：「論理的思考力・問題解決力」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習経験・創造的思考力」			
受講資格	建築デザインコース4年生	成績評価 方法	①取り組む姿勢20％☑ ②研究報告・発表30％☑ ③論文の完成度50％	
教科書	適宜、資料を提示する。			
参考書	テーマに沿った参考書をその都度提示する。			
学生への要望	先行研究をしっかりと読み、主体的・積極的な姿勢で取り組むこと。			
オフィスタイム	家政学館4階 生活科学研究室☑ 月曜Ⅰ・Ⅱ時限（8：30～12：00）☑ 木曜Ⅰ時限（8：30～10：20）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	春季期間の研究経過報告	春季期間の研究経過を確認し、研究テーマ、研究方法、章立て等について再検討する。☑	研究テーマ、研究方法、章立てについて再検討する。	60
2	論文の文体について	論文の文体について、接続詞の使い方等の論文の文体について解説する。グラフや表の表現方法について、再確認する。☑	論文の文体、グラフや表の表現方法について整理する。	60
3	研究データ整理 1	研究データの整理をする。	研究データの整理をする。	60
4	研究データ整理 2	引き続き、研究データの整理をする。	研究データの整理をする。	60
5	研究データ整理 3	引き続き、研究データの整理をする。	研究データの整理をする。	60
6	研究データ整理 4	中間発表に向けて表やグラフ、写真を整理する。	研究データの整理をする。	60
7	研究データ整理 5	引き続き、中間発表に向けて表やグラフ、写真を整理する。	研究データの整理をする。	60
8	論文執筆 1	論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
9	論文執筆 2	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
10	論文執筆 3	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
11	論文執筆 4	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
12	論文執筆 5	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。☑	論文の訂正・確認、執筆する。	180
13	論文執筆 6	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	180
14	中間発表準備	研究成果の確認と発表に向けての準備を行う。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。	300
15	プレゼンテーションの練習 1	中間発表に向けてプレゼンテーションのテクニックをマスターする。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。	300
16	プレゼンテーションの練習 2	引き続き、中間発表に向けてプレゼンテーションのテクニックをマスターする。	中間発表に向けて、パワーポイントを作成する。	300
17	論文執筆 7	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
18	論文執筆 8	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
19	論文執筆 9	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
20	論文執筆 1 0	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
21	論文執筆 1 1	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
22	論文執筆 1 2	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
23	論文執筆 1 3	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
24	論文執筆 1 4	引き続き、論文を執筆し、添削・確認を受ける。	論文の訂正・確認、執筆する。	300
25	本発表の準備	本発表の内容と研究成果を確認し、本発表の準備を進める。	本発表に向けて、パワーポイントを作成する。	360
26	プレゼンテーションの練習 3	本発表に向けてプレゼンテーションの準備を進める。	本発表に向けて、パワーポイントを作成する。	360
27	プレゼンテーションの練習 4	本発表に向けてプレゼンテーションを実施する。	本発表に向けて、プレゼンテーションの練習をする。	360
28	本発表	研究テーマについての研究成果を発表する。	本発表に向けてプレゼンテーションの練習をする。	360

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	論文仮提出	執筆した論文を仮提出する。	論文を見直し、誤字・脱字を訂正する。	180
30	論文完成	研究発表後、論文の加筆修正を行い、製本する。	論文を修正する。	300

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	近内 直美			
開講期	通年			
授業概要	・大学での学修の総まとめとして知識の統合化を図り、卒論のテーマを決定し、発表やレポートを作成しながら研究を進める。 ・論文の提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。☒			
達成目標	・テーマに沿って研究方法を学び、研究を進め論文にまとめる。☒ ・単位認定の最低基準は「内容の8割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：論理的思考・問題解決力、総合的な学修経験・創造的思考力			
受講資格	人間生活学科学生	成績評価 方法	経過報告・演習等の発表30％、論文70％	
教科書	特に無し			
参考書	随時紹介			
学生への要望	・研究テーマを明らかにし自主的に、計画的に論文の作成に取り組んでください。			
オフィスタイム	前期：月曜日Ⅳ時限・水曜日Ⅳ時限、後期：水曜日Ⅰ時限、Ⅱ時限☒ 創学館4階No.6研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・研究計画書の見直しを行い、発表に向けた研究計画を策定する。☒ ・卒業研究を進めるうえで必要な倫理や研究方法を振り返る。☒ ・倫理については、講義や論文作成の過程でも適宜確認を行っていく。☒ ・2回目以降も含め、自己学習による発表と授業における意見交換を行い、双方向型授業を行う。☒ ☒	・自主学習を行う☒ ・発表に向けて、研究計画を確認する	60
2	先行研究の資料の収集 1	テーマに即した先行研究を整理する。	・自主学習を行い次回に備える	60
3	先行研究の資料の収集 2	テーマに即した先行研究を整理する。	・自主学習を行い次回に備える	60
4	資料を理解する	テーマに即した先行研究を理解し、卒業研究のテーマに基づきディスカッションを行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
5	資料の収集	論文作成に向けた資料を集める。	・自主学習を行い次回に備える	60
6	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。 (学外における社会資源の収集・調査を含む)	・自主学習を行い次回に備える	60
7	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
8	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
9	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
10	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
11	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
12	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
13	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
14	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	60
15	論文の作成	社会資源の収集・調査を行う。	・自主学習を行い次回に備える	120
16	論文の作成	社会資源の収集・調査資料の分析を行う。	・自主学習を行い次回に備える	120
17	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い次回に備える	120
18	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い次回に備える	120
19	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い次回に備える	120
20	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い、原稿を修正する	120
21	論文の作成	発表に向けて原稿を作成する。	・自主学習を行い原稿を修正する	120
22	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	・パワーポイントの修正を行う	120
23	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	・パワーポイントの修正を行う	120
24	論文の作成	発表に向けパワーポイント等資料を作成する。	・パワーポイントを作成する	120
25	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	・論文の修正を行う	120
26	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	・論文の修正を行う	120
27	論文の作成	発表に向けて論文をまとめる。	・論文を書き上げる	120
28	論文の作成	発表の準備を行う。	・発表の準備を行う	60
29	論文の作成	論文の追加・加筆・修正を行う。	・論文の修正を行う	60
30	論文の提出	論文の追加・加筆・修正を行い最終提出をする。	・自主学習を行い論文を書き上げる	60

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修
担当教員	山本 裕詞		
開講期	通年		
授業概要	自らの課題意識をもとに調査研究を進め、論理実証的に結論を導き出し、卒業論文にまとめる。学生は、個別指導の際に、自らの課題に対する調査研究結果を発表し、それに対する小職からの講評を受け、次回の個別指導までの課題内容をフィードバックする。☒ なお、研究の必要に応じて、中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う。☒ 実務経歴：中高の教員として神奈川県立新羽高等学校、学校法人白根開善学校等で勤務。発達障害者教育の教員としてはフリースクール飛翔中等部等で勤務。☒ ☒ 位置付け・水準 HL2452		
達成目標	1. 自らの課題意識を、先行研究との関係で位置付ける。☒ 2. 論理実証的手法を用いて考察を深める。☒ 3. 中間報告、最終報告を通して、伝える技術を経験的に学ぶ。☒ 4. 卒業論文を、論文執筆の作法に従って作成することで、自律的研究能力の基礎を培う。☒ 単位認定の最低基準は、上記1～4の総合的評価が達成度7割以上であること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力		
受講資格	相談により担当となった学生	成績評価 方法	達成目標の達成度の総合的評価☒ 内訳：1. 研究の位置づけ 20%☒ 2. 論理実証性 30%☒ 3. 中間報告、最終報告 20%☒ 4. 論文の完成度 30%
教科書	特になし。		
参考書	河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会 2002年		
学生への要望	主体的に取り組むこと。		
オフィスタイム	前期、後期とも、学生のみなさんと相談して決定します。☒ 場所：教職課程推進室 ☒ そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマの確定と仮の章立て	学生は、卒業研究Ⅰでの学習を下地にテーマを確定するとともに、仮の章構成を考える。	発表用レポートの作成	180
2	仮の章構成を基にした研究計画を作成	学生は、前回の授業で行った仮の章構成をもとに、研究計画を作成し、説明する。	発表用レポートの作成	180
3	計画にそった研究の実施と経過報告 1	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポートの作成	180
4	計画にそった研究の実施と経過報告 2	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポートの作成	180
5	計画にそった研究の実施と経過報告 3	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポートの作成	180
6	計画にそった研究の実施と経過報告 4	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポート作成	180
7	中間発表の作成	学生は、中間発表に向けて発表資料を作成し、発表内容を言語化する。それによって、達成されつつある研究目的と、残されている課題とを特定する。	発表用レポート	180
8	研究計画の修正	学生は、中間発表の反省を踏まえ、研究計画の修正を行う。修正が必要ないときは、当初の研究計画通りに研究を進める。	発表用レポートの作成	180
9	計画にそった研究の実施と経過報告 5	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポートの作成	180
10	計画にそった研究の実施と経過報告 6	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	発表用レポートの作成	180
11	計画にそった研究の実施と経過報告 7	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	論文執筆	180
12	計画にそった研究の実施と経過報告 8	学生は、研究計画にそって研究を進め、研究の進捗状況を報告する。	論文執筆	180
13	最終発表の作成	学生は、最終発表に向けた資料作成と発表原稿の作成を行い、概要を説明する。	最終発表の作成	180
14	卒業論文の仕上げ1	学生は卒業論文を完成させる。残された課題について、説明する。	論文執筆	180
15	卒業論文の仕上げ2	卒業論文を完成させる。学生は、最終発表原稿を作成し、発表練習を行う。	論文執筆	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	安田 純子			
開講期	通年			
授業概要	各自が生活に関して関心を持っていることについて、詳しく調べ、考察していきます。探究することのおもしろさを知って研究を進めます。☒ 論文の添削等を通して全体に対するフィードバックを行います。そして、論文の全体を確認して提出します。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2452			
達成目標	目標は☒ 各自が生活に関して関心を持っていることについて、研究を進め、まとめの仕方を学び、発表できるようにし、また、文章で表現できるように仕上げていくこと。☒ ☒ 単位認定の最低基準は、自分の研究について発表し、文章で表現して論文に仕上げ,8割以上の完成度を求める。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、創造的思考力			
受講資格	家政学部 人間生活学科 4年	成績評価 方法	研究過程（態度・発表準備等）（60％）、発表（10％）、研究論文等まとめ（30％）	
教科書	特になし（必要に応じて指示する。）			
参考書	各自その都度必要な文献			
学生への要望	積極的に課題を見つけ、真摯に取り組んでほしい。			
オフィスタイム	前期：月曜日と木曜日の13:00~16:30☒ 後期：水曜日と金曜日の13:00~16:30☒ 創学館No. 1 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	テーマを見つける	興味のあるテーマを探す	テーマを見つける	30
2	図書館の使い方	図書館の使い方、資料の探し方	資料の探しかたになれる。	30
3	テーマを見つける	調べてみたいテーマ探し	テーマを見つける	30
4	資料集め	必要な資料の探し方・集め方	必要な資料の探し・集めをやる。	30
5	資料集め	資料を集める	資料を集める	300
6	資料を読み取る	論文に向けて参考となる資料の読み取り	資料を読み取る	300
7	必要資料集め	再び不足資料を探す	不足資料を探す	60
8	資料を読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	資料中の表やグラフを読み取る	90
9	論文構想①	論文構想の大枠を考える。	論文構想の大枠を考える。	60
10	論文構想②	論文構想を模索	論文構想を模索する。	60
11	論文構想③	書ける論文のための骨組みの決定	書ける論文のための骨組みの決定する。	60
12	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成①	発表用パワーポイントと原稿の作成する。	60
13	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成②	発表用パワーポイントと原稿の作成する。	60
14	パワーポイント、発表原稿作成	発表用パワーポイントと原稿の作成③	発表用パワーポイントと原稿の作成する。	60
15	プレゼンテーションのために	プレゼンの練習	プレゼンの練習をする。	30
16	プレゼンテーションのために	プレゼンの練習	プレゼンの練習をする。	30
17	論文要旨集	論文要旨集作成	論文要旨集作成を作成する。	60
18	論文執筆①	論文の書き方	論文の書き方を復習する。	60
19	論文執筆②	論文執筆	論文を執筆する。	240
20	論文執筆③	論文執筆	論文を執筆する。	240
21	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
22	添削	論文添削指導	添削指導されたものを修正する。	120
23	追加資料集め	足りない資料など	足りない資料などを集める。	60
24	追加資料集め	足りない資料など	足りない資料などを集める。	60
25	論文執筆④	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
26	論文執筆⑤	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
27	論文執筆⑥	論文執筆・添削指導	論文を執筆する。	120
28	論文のまとめ	まとめと確認	まとめと確認をする。	60
29	論文提出用作成	提出原稿と体裁	体裁を整え提出原稿の仕上げをする。	120
30	卒研全体のまとめ	全体のまとめ	全体を見直し論文を提出する。	60

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修
担当教員	石原 正道		
開講期	通年		
授業概要	卒業研究の内容は物理・情報に関する研究のみならず、計量文献学・応用統計など非常に多岐に渡ります。卒業研究Ⅱでは具体的な研究テーマの下に研究を進めます。また得られた研究成果をもとに論文を執筆し、発表を行います。テーマによって異なりますが、統計処理・数的な処理(数式の演算)・プログラミングなどを学ぶことになります(建築デザインコース向けの研究では数式は扱うものと考えてください)。☒ 研究内容に対する質疑や論文執筆時における査読等を通じてフィードバックを行います。☒ ☒ 位置づけ・水準 HL2452		
達成目標	卒業研究では(1)問題を発見する力を養うこと、(2)課題を解決するために、資料を収集し、考察を行い、結論を導く力を得ること、(3)結論を伝達するための、論理的な文章の作成力・発表技術を身につけること、を養成することを目標とします。☒ ☒ 卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰの目標(必要な資料の収集と内容の把握ができること、数的な処理および統計処理により適切な推論ができること、大量のデータを処理するために必要なプログラミングができること)に加え、論理的かつ過不足のない文章を記述できること、および、必要な情報を伝えるためのプレゼンテーションができること、を目標とします。☒ ☒ 単位認定の最低基準：内容の8割を理解していること☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「論理的思考力、問題解決力」「総合的な学習経験、創造的思考力」		
受講資格	なし。☒ ただし、卒業研究Ⅰの単位を修得済みであることが望ましい。	成績評価 方法	研究を進める上で必要となる基礎的な知識と能力の習得状況により判定します。☒ ☒ 具体的には、☒ (1)必要な資料の収集と内容の把握ができること、☒ (2)数的な処理(プログラミングを含む)および統計処理により適切な推論ができること、☒ (3)論理的かつ過不足のない文章を記述できること、☒ (4)必要な情報を伝えるためのプレゼンテーションができること、☒ を評価対象とします。評価割合は(1)を20%、(2)を30%、(3)を40%、(4)を10%とします。ただし研究テーマによって(1)から(4)で不必要な項目がある場合は、不必要な項目の割合を他の項目へ配分し評価します。この配分は、評価の割合に応じて配分します。たとえば(2)が不要であった場合は、(2)の評価割合を、残りの項目に20:40:10の割合で配分します。
教科書	適宜提示する。		
参考書	木下是雄「理科系の作文技術」中公新書(1981)、酒井聡樹「これからレポート・卒論を書く若者のために」共立出版(2007)		
学生への要望	卒業研究を完了するには自学自習する必要があります。目標を明確にし自学自習を進めてください。		
オフィスタイム	前期 月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室☒ 水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ 後期 水曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ 金曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室☒ ☒ 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。☒ アポイントメント用連絡先 m_isihar@koriyama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	詳細な研究テーマの設定	卒業研究Ⅰで明らかとなった問題点などから詳細な研究テーマを設定します(文献等の確認を含む)。	卒業研究Ⅰで調べた資料を整理しておくこと。	60
2	詳細な研究テーマの設定	卒業研究Ⅰで明らかとなった問題点などから詳細な研究テーマを設定します(文献等の確認を含む)。	卒業研究Ⅰで調べた資料を整理しておくこと。	60
3	研究方法の確定	設定したテーマに対し、どのような研究手法が有効であるか検討する。	様々な研究手法を列挙してみること。	120
4	研究方法の確定	設定したテーマに対し、どのような研究手法が有効であるか検討する。	様々な研究手法を列挙してみること。	120
5	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
6	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
8	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
9	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
10	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
11	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
12	研究テーマごとの計算・分析	検討し選択した研究手法により、具体的な計算や分析を行う。また得られた計算結果のチェックや分析結果の検討を行う。	事前に必要な計算や分析を行っておくこと。	840
13	結果の整理	得られている研究結果を整理する。また結果から言及できる内容を抽出する。	研究結果を整理し、得られた結果から分かる事項をまとめること。	120
14	結果の整理	得られている研究結果を整理する。また結果から言及できる内容を抽出する。	研究結果を整理し、得られた結果から分かる事項をまとめること。	120
15	結果の妥当性の検討	得られた結果が研究目的に対し適切なものであるか確認をおこなう。	得られた結果のみで研究目的を達成しているか確認をしておくこと。	60
16	論文執筆の手順	論文の基本的な構成（IMRAD）や論文執筆における注意点（意見と事実の区別など）について学修する。	基本的な文献を読んでおくこと。	120
17	論文執筆の手順	論文の基本的な構成（IMRAD）や論文執筆における注意点（意見と事実の区別など）について学修する。	基本的な文献を読んでおくこと。	120
18	論文執筆	得られている研究結果から結論を導き出し、論文執筆用に整理をする。	研究結果、およびそこから得られると考えられる事項を整理しておくこと。	420
19	論文執筆	序論のための文献整理を行い、導入部分の構成を考える。	これまでに参照した文献を、内容ごとに整理し・分類しておくこと。	420
20	論文執筆	序論のための文献整理を行い、導入部分の構成を考える。	これまでに参照した文献を、内容ごとに整理し・分類しておくこと。	420
21	論文執筆	得られている結果・結論、研究での手法、序論のために整理した内容から、論文の構造を決定する。	方法・結果・結論をリスト化しておくこと。また参考文献類もリスト化しておくこと。	420
22	論文執筆	決定した論文の構造に基づき論文の執筆を行う。また内容の妥当性や整合性を確認する。授業時間内では主に内容の妥当性や整合性を確認する。	執筆は事前に行うこと。	840
23	論文執筆	決定した論文の構造に基づき論文の執筆を行う。また内容の妥当性や整合性を確認する。授業時間内では主に内容の妥当性や整合性を確認する。	執筆は事前に行うこと。	840
24	論文執筆	決定した論文の構造に基づき論文の執筆を行う。また内容の妥当性や整合性を確認する。授業時間内では主に内容の妥当性や整合性を確認する。	執筆は事前に行うこと。	840
25	論文執筆	決定した論文の構造に基づき論文の執筆を行う。また内容の妥当性や整合性を確認する。授業時間内では主に内容の妥当性や整合性を確認する。	執筆は事前に行うこと。	840
26	研究発表の準備	研究の重要な目的・重要な目標・重要な研究結果・重要な結論を抽出する。	論文より目的・目標・結果・結論を抽出しておくこと。	120
27	研究発表の準備	発表内容の整理を行う。導入・方法・結果・結論などの内容を確認をする。	事前に発表内容案を作成しておくこと。	420
28	研究発表の準備	作成した発表用資料をもとに発表練習を行う。発表時間に応じた発表内容等の調整していく。	事前に発表で話すべき内容を整理しておくこと。	240
29	研究発表	規定の時間内で研究発表を行う。	発表時間を超過しないよう十分な練習をしておくこと。	240
30	発表内容における指摘事項への対応	研究発表における指摘事項への回答を明確にし、論文へ回答内容を反映させる。	事前に回答案を作成しておくこと。	180

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	ダニエル ホーナー			
開講期	通年			
授業概要	A. The number (ナンバリング) of this subject is HL2452.☑ B. Instructor taught English at Koriyama Women's University Attached High School☑ (郡山女子大学附属高等学校) for 19 years. 郡山開成学園の教員として高校に勤務していました。☑ C. Be an active learner who enthusiastically pursues growth and excellence. ☑ D. Express succinctly research themes and personal career information. ☑ D. Demonstrate comprehension of terminology specific to your career choice. ☑ E. Write terminology and career information in contemporary formats. ☑ F. Express clearly the results of your research in reports and presentations.☑ G. Active learning is substantially utilized in every lesson!☑ FEEDBACK: Educative feedback is frequently given to students on their conduct, homework, quizzes and tests that is positive, constructive and considers the individuality of each student but also the diversity of all of the students.			
達成目標	1. The main objective is to improve all four skills (reading, writing, listening and speaking) of language pertaining to your career with a focus on persuasive expression of your skills and abilities. ☑ 2. Learn how to self-evaluate all four skills as they relate to careers, and then learn ways to improve your own abilities. ☑ 3. Express concise and correct information about prospective companies and employers. ☑ 4. Understand how active learning methods can be applied to lifelong learning.☑ 5. The minimum standard to receive 4 credits for this subject is to achieve 70% or higher on the overall average of these main criteria: attitude, 4 skills in research, documents submitted, research reports and presentations. ☑ 6. The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates "Problem Solving Skills," "Comprehensive Learning Experiences" and "Creative Thinking Skills Development."			
受講資格	大4年	成績評価 方法	1. Participation and Attitude (10%)☑ 2. Demonstration of the Four Skills through Research (40%) ☑ 3. Documents, Research Reports and Presentations (50%)	
教科書	(none)			
参考書	Documents produced by students and instructor, Daniel O. Horner.			
学生への要望	1. Please keep all appointments and research deadlines.☑ 2. For each hour of lecture by professors, students need 2 hours of preparation and review on their own.☑ 3. Be an active learner with very lofty goals.☑ 4. Conduct and continue research on a daily basis. ☑ 5. Stay ahead of schedule; avoid procrastinating!			
オフィスタイム	Office hours are Monday and Wednesday 5th Period (16:10 ~ 17:40), ☑ and by appointment, 創学館 4 F No.3 研究室.			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	Guidance	Preliminary guidance and creation of initial plans for the year.	Preparation	120
2	Continued Guidance	Guidance Session No. 2.	Preparation	120
3	Preliminary Research	Discussion of preliminary research.	Preparation	90
4	Preliminary Research	Second session with continued discussion of preliminary research.	Review	120
5	Defining Objectives	Define objectives for the first semester of the year.	Preparation	120
6	Defining Objectives	Second session to define objectives for the second semester of the year.	Preparation	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	Research Themes	Brainstorm potential research themes to be completed during the second semester.	Review	90
8	Additional Research Themes	Brainstorm more potential research themes to be completed during the second semester.	Preparation	120
9	Career Objectives	Correlate research themes to career objectives.	Preparation	120
10	Career Objectives	Second session of correlating research themes to career objectives.	Review	120
11	Career Terminology	Plan the initial research report on career terminology.	Prepare initial research report.	180
12	Additional Career Terminology	Submit the initial research report on career terminology.	Preparation	120
13	Career Parameters	Define in-depth career parameters and themes related to your career.	Review	120
14	Career Parameters☒ Pt. 2	Define additional in-depth career parameters and related themes. Write a detailed outline of personal career parameters.	Review	120
15	Report on Career Parameters	Write the rough draft of report on career parameters.	Prepare second research report.	90
16	Report on Parameters	Submit the final document of the report on career parameters.	Preparation	120
17	Initial Consultation of Four Skills	Have the initial consultation on ways of improving the four main skills needed for career success.	Preparation	90
18	Consultation on Listening Skills	Have the initial consultation on ways of improving listening as related to career choice and success.	Preparation	120
19	Consultation on Speaking Skills	Have the initial consultation on ways of improving speaking as related to career choice and success.	Preparation	90
20	Consultation on Reading Skills	Have the initial consultation on ways of improving reading as related to career choice and success.	Preparation	120
21	Consultation on Writing Skills	Have the initial consultation on ways of improving writing as related to career choice and success.	Review	90
22	Report on Four Skills	Submit the rough draft of research conducted on the four skills needed for success in careers.	Prepare the third research report.	120
23	Report on Four Skills	Submit the report on the four skills needed for success in careers.	Preparation	120
24	Current Technologies	Consultation on current technologies and the impact they have on the ever-changing job market.	Preparation	120
25	Research Current Technologies	Conduct research on current technologies that pertain to the student's career choice.	Preparation	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	Report on Current Technologies	Report on current technologies that pertain to the student's career choice.	Review	90
27	Consultation on Final Research Report	Consult with student on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.	Preparation	90
28	More Consultation on Final Research Report	Continue consultation with students on the final report that's cumulative and provides a summary of research conducted throughout the entire year.	Prepare final cumulative research report.	120
29	Final Report and Outline of Presentation	Submit the final research report to the instructor, and submit the outline of the final presentation for review by the instructor.	Preparation	240
30	Final Research Report and Presentation Practice	Use the final cumulative research report to practice for the final presentation that includes decisive conclusions on the student's career choice(s).	Preparation and Practice	240

科目名	卒業研究Ⅱ	対象 単位数 必選	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 4単位 必修	
担当教員	瀬谷 真理子			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい]☑ 卒業研究は、大学での学修の集大成として総合的に学問をみつめ、そこから、新たに創意工夫しようとする自主的な取り組みが出来るようにすることを目的とする。☑ [授業全体の内容の概要]☑ 3年次の進捗状況から、更に調査分析を進め、中間発表の手法を学ぶ。また、本発表に向けての発表手法や論文の完成を目指す。☑ コメント等によるフィードバックを行う。さらに福島県高等学校での家庭科教員としての実務経験を生かしながら実践的な指導を行う。 〔実務経歴〕福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 位置づけ・水準 HL2351			
達成目標	[到達目標]☑ ①論文構成を理解し、論文を完成させる。☑ ②PCを活用しての発表方法を学ぶ。 ③発表原稿の作成を通して、表現する力を身につける。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考			
受講資格	上記対象学生	成績評価 方法	①主体的な取り組み状況30％ ②中間・本発表状況 30％ ③論文の完成度 40％ ①～③の総合評価60％以上で合格とする。	
教科書	特になし。論文課題に対応し資料配布。			
参考書	随時紹介。			
学生への要望	論文制作は、主体的な取り組みが重要となる。決められた日程問わず、常に前向きに取り組み、理解が困難な場合などは、次週にまわさず進んで質問できるように努力する。☑			
オフィスタイム	家政学館4F 被服学研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	論文制作	3年次の資料収集及び分析調査結果を踏まえ、論文の作成方法を学ぶ。	3年次の卒業研究指導内容の確認	90
2	論文制作	論文の章立てを行い、執筆をスタートさせる。	調査分析	90
3	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ	調査分析	90
4	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ	調査分析	90
5	論文制作	内容執筆の手法を学ぶ	調査分析論文執筆	90
6	論文制作	執筆した内容を提出し添削。執筆指導後、執筆を進める。	添削等修正し論文執筆	90
7	論文制作	執筆を進める。随時添削。	論文執筆	90
8	論文制作	途中経過報告会及び討論会	途中経過報告準備及び修正	90
9	論文制作	執筆を進める	論文執筆	90
10	中間報告の内容を決める	中間報告会での報告内容を決める	中間報告内容の検討	90
11	中間報告の準備	目的、方法、結果（途中経過）の記入方法を学ぶ	目的、方法、結果を記入する	90
12	中間報告の準備	第11回で学んだことを活かして、目的、方法、結果（途中経過）を記入提出	目的、方法、結果を記入する。添削後修正する。	90
13	中間報告の準備	第12回に提出した発表原稿の指導内容をもとに、修正後提出	再度作成。添削後修正する。	90
14	中間報告の準備	発表ppの制作方法を学ぶ	パワーポイントの作成	120
15	中間報告の準備	中間報告要旨集の制作方法の提示。発表PPの制作に取り掛かる。	パワーポイントの作成	120
16	中間報告の準備	中間報告要旨集の制作。生活総合コースは、中間発表までにタイトル及びサブタイトルの提出となるので、最終タイトル及びサブタイトルを決定する。	パワーポイントの作成及び発表原稿の作成	120
17	中間発表の準備	タイトル及びサブタイトルの決定。中間報告の原稿及びPP準備。	パワーポイントの作成及び発表原稿の作成	120
18	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。原稿の提出及び添削、修正。来週完成を目指す。	パワーポイントの作成及び発表原稿の作成	120
19	中間発表の準備	中間報告の原稿及びPP準備。ゼミ生同士で発表の練習を行い、より良い発表方法を学んでいく。	パワーポイントの作成及び発表原稿の作成	120
20	発表終了後の反省報告会	中間発表会を終えて、今後の進め方や反省などを学生及び教員間で確認をする。	内容の修正とまとめ	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	論文制作	中間発表会での指摘や指導やアドバイスを受けて、論文修正などを行っていく。	論文執筆	90
22	論文制作	12月上旬をめどに、論文の完成を目指す。	論文執筆	90
23	論文制作	各章ごとに、論文執筆状況を提出し確認を受ける。	添削等修正し論文執筆	90
24	論文制作	論文執筆状況を提出確認完了後、修正に入る。	添削等修正し論文執筆	90
25	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨原稿の制作方法を学び、目的・方法・結果に分けて記入する（提出添削）	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
26	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨原稿の修正。来週完成を目指す。	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
27	論文制作及び本発表準備	論文の制作に取り組みながら、発表要旨集原稿の完成を目指す。	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
28	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
29	論文制作及び本発表準備	最終論文の制作に取り組みながら、本発表の原稿及びPPの制作を行う。	論文執筆と発表用原稿、パワーポイント作成	90
30	論文制作	論文提出方法を学ぶ。	最終確認	90